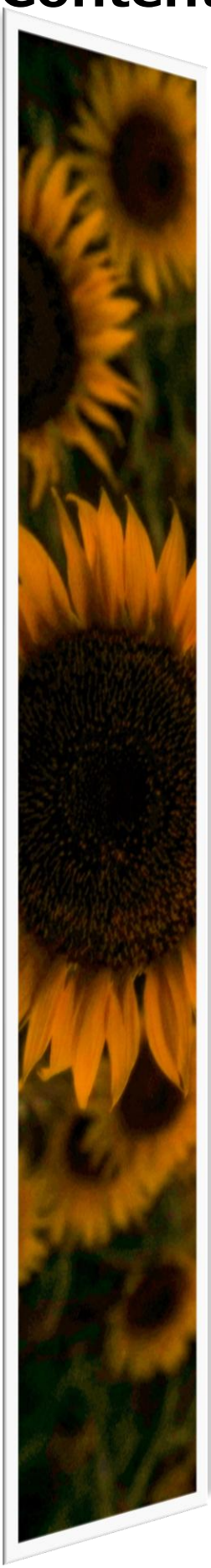
山口大学大学院医学系研究科
消化器・腫瘍外科学
―教室年報：2024―

Department of Gastroenterological,
Breast and Endocrine Surgery
Annual Report 2024

角島大橋（長門市）

Department of Gastroenterological, Breast and Endocrine Surgery Annual Report 2024

Contents



Page 1	巻頭言	教授　永野浩昭
Page 4	教室人事	医局長　友近　忍
Page 7	臨床報告（入院）	病棟医長　飯田通久
Page 8	臨床報告（外来）	外来医長　前田訓子
	臨床報告（各グループ）	
Page 9		上部消化管グループ
Page 12		下部消化管グループ
Page 15		肝胆膵グループ
Page 21		乳腺・内分泌グループ
Page 23		腫瘍センター
Page 24	第79回消化器外科学会総会開催報告	
Page 36	教室関連研究会開催報告	
Page 41	業績報告	
Page 42		英文論文
Page 46		和文論文
Page 47		国際学会発表・司会
Page 48		国内学会発表・司会
Page 56		地方会発表・司会
Page 60		研究費取得状況
Page 61		業績その他
Page 63	Clinical and Research Conference 記録	
Page 64	研究者発表会議　記録	
Page 65	学位取得者報告	
Page 66	新入局員あいさつ	
Page 68	2024年　在籍教室員	
Page 70	学会専門医・指導医・評議員リスト	
Page 73	2024年　年間行事	
Page 85	ゲスト写真集	
Page 91	編集後記	

巻頭言

山口大学大学院医学系研究科
消化器・腫瘍外科学　教授
永野　浩昭
Prof. and Chair, Hiroaki Nagano

2024年は、パリ五輪での日本代表選手の活躍や大谷翔平選手の50-50など、今年も若い世代の活躍で日本中が勇気づけられた1年でした。しかしその一方で、石川県能登地方を震源とするマグニチュード７・６の地震の発生や「闇バイト」による強盗事件が多数発生するなど、色々と世間を騒がす事柄が少なくなかった年でもありました。

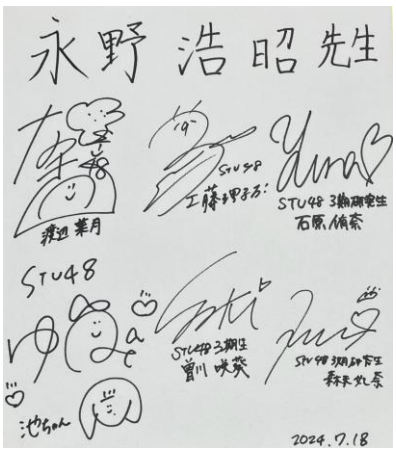
その中で、教室では、着任以来の目標でもあった日本消化器外科学会総会を下関で主催しました。夏の暑い中での開催になりましたが、幸い天気には恵まれ、7299名の参加登録中4516人が現地にご参加いただき、山口県下関市で、消化器外科の未来と夢について語り合っていただきました。できるだけ華美にならず、学問と討論に専念できるような環境作りに努めたつもりでもありました。また、懇親会では、瀬戸内アイドルSTU-48（AKBグループ）のミニコンサートを開催し、学会員の7色のサイリウムで満員の会場がいっぱいになりました。そして、用意した80升の山口県の日本酒は完全になくなり、個人的には皆さん盛り上がってくれたのではないかなと思っています。ただ、地方開催ならではは、いろいろとご不便をおかけしたことは間違いなく、その中において、会員の先生方が、この第79回総会についてどのように感じておられたかについては、未来においてそのご評価がなされるものでもあるのかなと思っています。何はともあれ、無事に最後まで総会会長を務めさせていただいたことにホッとしておりますとともに、何よりも粉骨砕身総会開催において頑張ってくれた教室員には改めて心からお礼を言いたいと思います。

本当にお疲れさん！そして、ありがとう！

最後に、主任教授として、そして教室主催者として、残すところ1年となった今、改めて、教室の未来と発展のために何をすべきか、何ができるかを見直したいと思います。理想の癌診療の構築に向けての“集中と選択”、働き方改革の中での“診療体制の再構築”と自己研鑽における“研究の位置付け”、そして、消化器外科医の“生涯教育の質の向上”と“待遇改善”など、次世代に向けて山積する課題に対する解決の手がかりを少しでも見つけるべく精進したいと思っています。

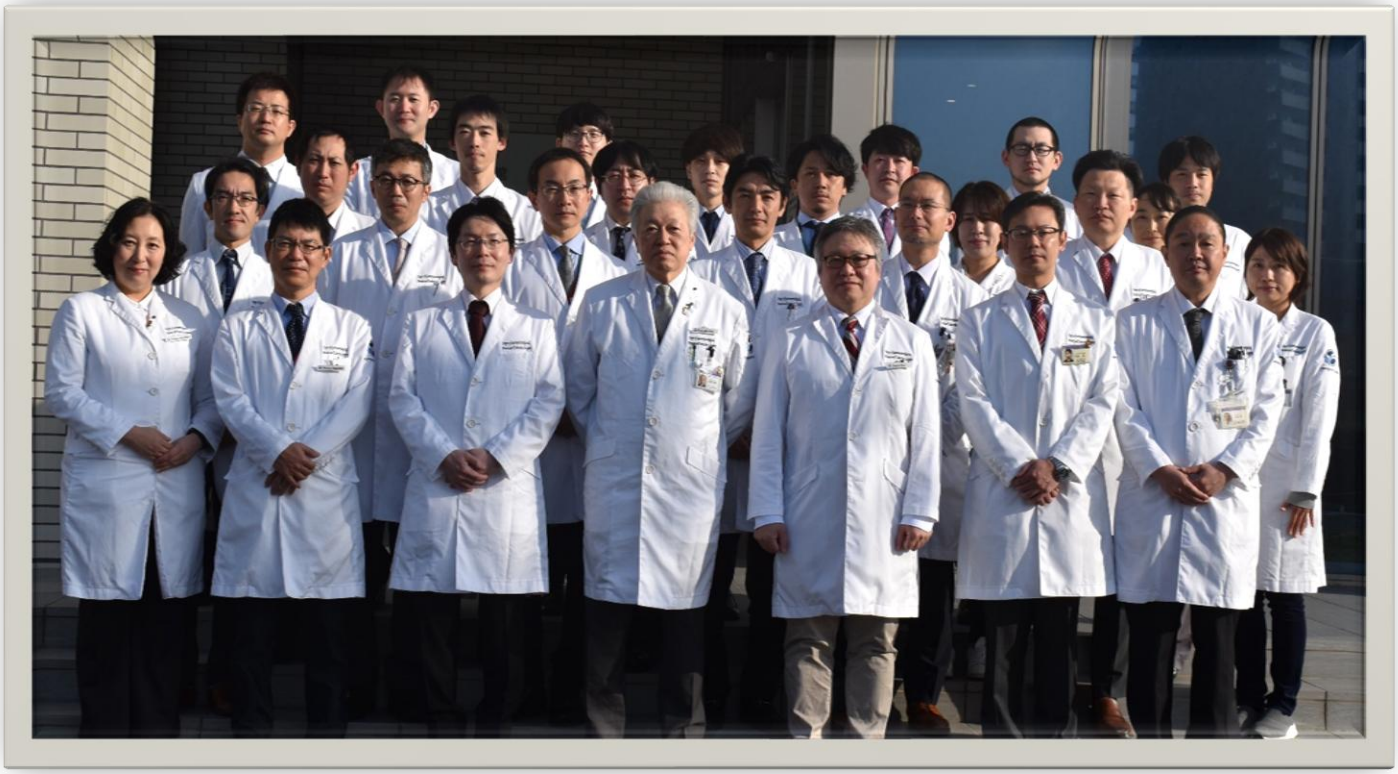
今後とも、ご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

STU-48とともに
全員懇親会
JSGS2024@下関



医局員一同

(2024年4月1日時点)



藤原康弘　木村祐太　兼定弦　太田啓介　小佐々貴博　濵崎太郎　堤甲輔　佐藤哲也　酒井豊吾　西田裕紀

中島正夫　西山光郎　松井洋人　原口大希　渡邊裕策　徳光幸生　鍋屋まり　新藤芳太郎　周山理紗　中島千代

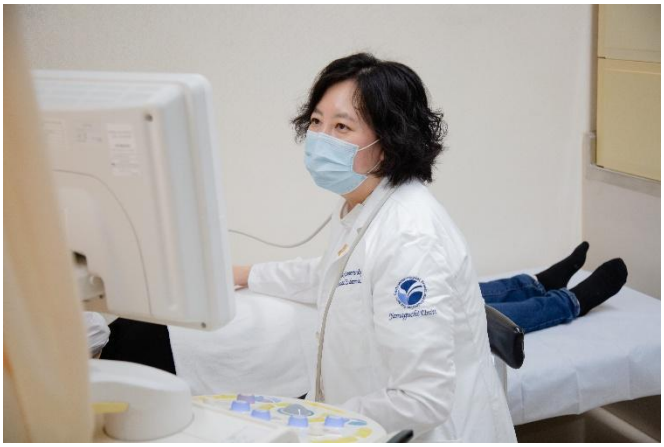
前田訓子　飯田通久　髙橋秀典　永野浩昭　井岡達也　恒富亮一　友近忍

日常の風景

カンファレンス風景

病棟回診風景

外来風景



教室人事

山口大学大学院医学系研究科
消化器・腫瘍外科学　医局長
友近　忍
Tomochika Shinobu

医局長を務めさせて頂いておりますH13年卒の友近です。令和6年1月から12月の大学関連の人事異動は以下の通りです。

大学からの転出者ですが、令和6年4月1日付で、H25卒の千々松日香里先生が阿知須共立病院へ赴任しました。千々松先生は、産休を経て現在は現場に復帰され、診療に力を注いでおられます。事と子育てを見事に両立されている姿は、多くの医療従事者にとってのロールモデルとなっています。

帰学者および新入局に関してですが、令和6年4月1日付けで、H8年卒の髙橋秀典先生が、大阪大学から准教授として当科に赴任され、肝胆膵領域の悪性疾患を中心に診療を担当されています。ロボット支援手術などの低侵襲手術から、高度進行癌に対する集学的治療や拡大手術まで、患者さん一人ひとりの病状に応じた最適な治療を提供されています。加えて、癌の病態解明に関する研究にも精力的に取り組まれており、新たな治療法の開発につながるトランスレーショナルリサーチにも力を注いでおられます。臨床と研究の両面で、肝胆膵がん治療のさらなる発展が期待される先生です。H30年卒の酒井豊吾先生は関門医療センターより、R2年卒の佐藤哲也先生、原口大希先生、木原ひまわり先生は、それぞれ下関医療センター、徳山中央病院、都志見病院より計４名が診療助教として当科に帰学しました。前任地で培った実践的な知識と技術を活かしながら、帰学後も熱意を持って診療にあたっております。現在は各専門班をローテーションし、幅広い分野での研鑽を重ねながら、さらなる専門性の向上を目指して日々努力しています。酒井先生は本年度より大学院へ入学しており大学院での研究を経て、高い視点と広い視野をもった消化器外科としてこれからのさらなる成長が期待されています。R2年卒の佐藤哲也先生、原口大希先生、木原ひまわり先生たちは、それぞれ新たに市立八幡浜総合病院、下関医療センター、周南記念病院へ赴任となっております。

新入局員は、 R3年卒の矢ヶ部　朗先生、R4年卒の岩藤真生先生、西尾侑祐先生、濵永　友花里先生の計４名となっております。入局後それぞれ、萩市民病院、宇部中央病院、都志見病院、徳山中央病院に赴任となっております。
入局者の4名とも真摯に仕事に取り組んでおられるとのことで、今後の活躍を期待しております。その他、詳細につきましては人事表をご参照いただけましたら幸いです。

関連病院の先生方には人員不足でご迷惑をおかけしていますが、医局員一同入局者を増やす努力を続けていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

関連病院人事異動　（令和6年（2024年）1月1日から12月31日）

異動日	卒年	氏名	異動元	異動先
令和6年4月1日	H8	髙橋 秀典	大阪大学消化器外科	山口大学消化器・腫瘍外科学
〃	H25	千々松日香里	山口大学消化器・腫瘍外科学	阿知須共立病院
〃	H25	古谷圭	宇部興産中央病院	川崎医科大学
〃	H25	兼定　航	川崎医科大学	宇部興産中央病院
〃	H30	佐伯　晋吾	関門医療センター	川崎医科大学
〃	H30	木下　雅仁	宇部興産中央病院	下関医療センター
〃	H30	鈴木有十夢	徳山中央病院	関門医療センター
〃	H30	酒井　豊吾	関門医療センター	山口大学消化器・腫瘍外科学
〃	H31	金城　尚樹	市立八幡浜総合病院	徳山中央病院
〃	R2	佐藤　哲也	下関医療センター	山口大学消化器・腫瘍外科学
〃	R2	原口　大希	徳山中央病院	山口大学消化器・腫瘍外科学
〃	R2	木原　ひまわり	都志見病院	山口大学消化器・腫瘍外科学
〃	R2	梅野　紘希	宇部興産中央病院	徳山中央病院
〃	R3	山谷 優明	徳山中央病院	下関医療センター
〃	R3	矢ヶ部　朗	入局	萩市民病院
〃	R4	岩藤　真生	入局	宇部興産中央病院
〃	R4	西尾　侑祐	入局	都志見病院
〃	R4	濵永　友花里	入局	徳山中央病院
令和6年10月1日	H2	安部俊弘	美祢市立病院	退職
〃	H15	亀井　滝士	市立八幡浜総合病院	美祢市立病院
〃	H30	鈴木有十夢	関門医療センター	川崎医科大学

臨床報告（各グループ）

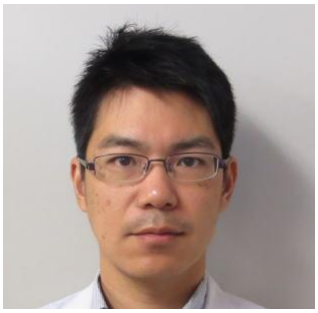
入院

外来

各グループ
- 上部消化管
- 下部消化管
- 肝胆膵
- 乳腺・内分泌
- 腫瘍センター

夜の錦帯橋（岩国市）

臨床報告（入院）



山口大学大学院医学系研究科
消化器・腫瘍外科学　病棟医長
飯田　通久
Michihisa Iida

2024年の入院診療につきましてご紹介致します。

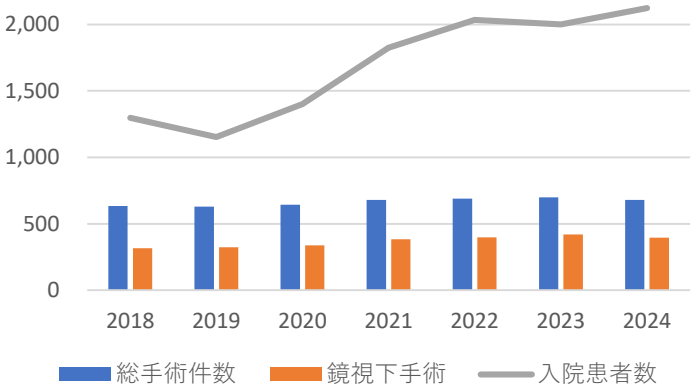
2024年の年間手術件数は679件で前年から横ばいとなっております。鏡視下手術は395件 (58.2%)で、乳腺を除くほぼすべての臓器で低侵襲手術が行われております。ロボット手術は食道切除術（食道亜全摘）、胃切除術（幽門側胃切除、噴門側胃切除、胃全摘）、肝切除術（肝部分切除、区域切除）、膵切除術（体尾部切除、膵頭十二指腸切除）、大腸切除術（低位前方切除）で導入されており、2024年は73例のロボット手術が施行され、年々増加傾向にあります。

2024年の入院患者数はのべ2123名、病床稼働率94.0%、平均在院日数9.8日でした。入院に関しては入院化学療法を積極的に行っており、化学療法の短期入院が平均在院日数の低下および病床稼働率に大きく貢献していると思われます。

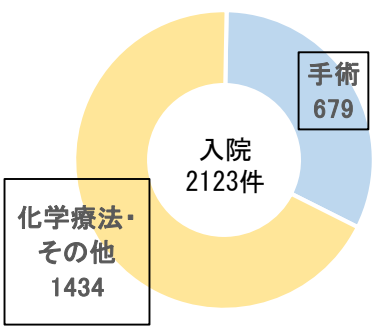
また病院全体で行っていた病棟改修工事も2024年3月に終了し、病棟はB棟5階のワンフロアすべて消化器・腫瘍外科で58床に増床されました。上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺内分泌の各グループはそれぞれ新患、術前患者、術後患者について毎週カンファレンスを行っており、最新の知見に基づいた診療を行っています。特に近年は手術に加え術前・術後化学療法も含めた集学的治療の有効性が各がん腫で示されていますが、当科でも各班カンファレンスに化学療法チームが参加することで集学的治療を積極的に推進しております。またハイリスク症例も多く、各班カンファレンスに加えて医療安全の観点からM&M (mortality & morbidity) カンファレンスも定期的に行い診療科全体での情報共有を進め、医療の質の向上を心掛けています。

今後も高度で安全な医療を提供できるようスタッフ一同努力致しますので、益々のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

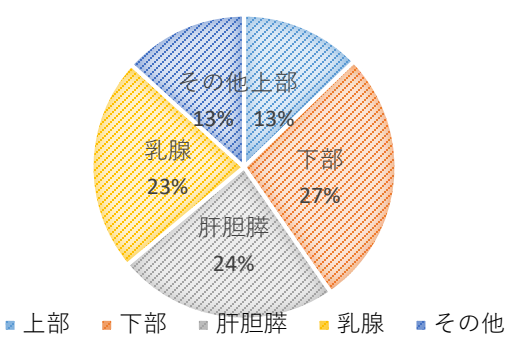
入院・手術患者数推移（2018-2024）



2024年入院患者内訳

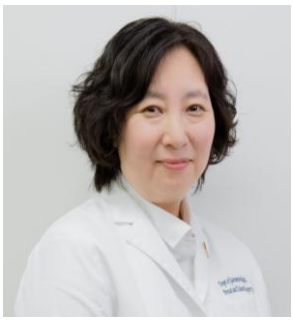


疾患別手術数（2024）



2024悪性腫瘍切除数	
食道癌	16
胃癌	49
大腸癌	109
肝癌	60
胆道癌	26
膵癌	47
乳癌	134

臨床報告（外来）



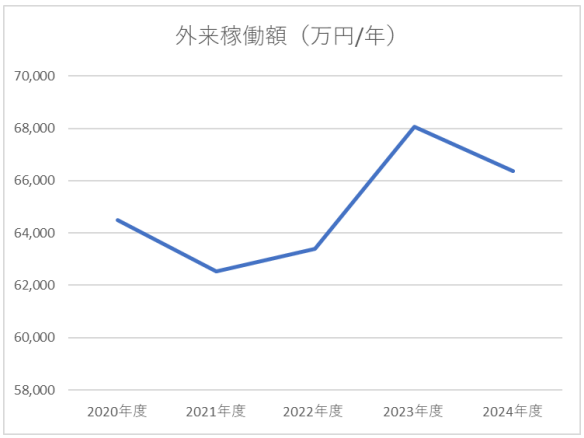
山口大学大学院医学系研究科
消化器・腫瘍外科学　外来医長
前田　訓子
Noriko Maeda

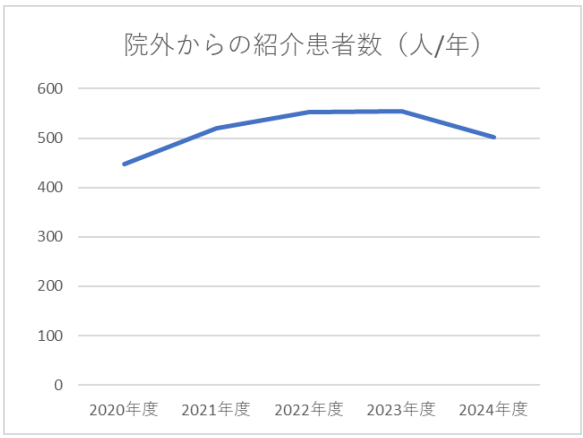
当科の外来診療の近況につきましてご報告いたします。御紹介いただいた患者さんの初診は、各診療グループ(上部消化管(飯田通久医師、渡邊裕策医師)、下部消化管(友近忍医師)、肝胆膵(永野浩昭教授、高橋秀典医師)、薬物療法(井岡達也医師)、乳腺内分泌腺(前田訓子))が担当しています。治療方針は、院内のキャンサーボードおよび当科のグループカンファレンスを経て決定されます。またご紹介患者さんのほぼすべての方に事前予約いただいており、初診スタッフの準備が整った状況で患者さんの受診をお待ちすることができています。緊急を要する患者さんのご紹介に関してはこの限りではございませんが、スムーズな外来診療のためにも引き続き事前予約をお願い申し上げます。

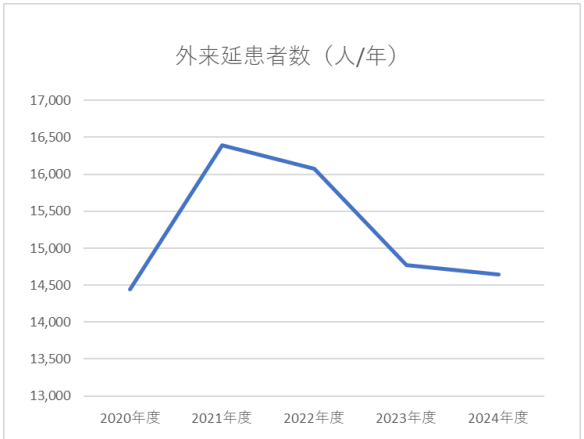
過去5年間の外来関連データを下記にお示しします。院外からの紹介患者さんは年間500人を超え、延べ患者数は昨年度よりも減少していますが、外来診療収入額は化学療法患者の増加により、高い水準を保っています。腫瘍内科との協力体制の継続により局所進行症例に対して集学的治療を行う症例も増えており今後外来での化学療法患者の増加が見込まれています。

今後もより質の高い診療を提供するとともに、山口県における高難度手術の集約化に努めて参ります。

皆さまからの益々のご指導ご鞭撻を賜ります様、お願い申し上げます。







外来診察初診担当医

専門名	火	金
肝臓・胆道・膵臓	永野　浩昭	高橋 秀典
上部消化管	渡邊裕策	飯田通久
大腸・肛門	友近 忍	友近　忍
乳腺・甲状腺	前田　訓子	前田　訓子

月・水・木は外来担当当番医による初診対応を行っています

上部消化管グループ

スタッフ
飯田通久　渡邊裕策
西山光郎　中島千代

上部消化管グループは飯田、渡邊、西山、中島のメンバーで食道・胃疾患の診療を行っております。2024年の新規患者は109例、手術は87例で大半が食道癌、胃癌の症例です。当科は日本食道学会食道外科専門医施設や日本胃癌学会認定施設Aの認定を受けており、専門医による最新の治療体制を整えております。食道外科専門医2名、内視鏡技術認定医3名在籍し、低侵襲手術に取り組んでおります。メンバー4人全員がロボット手術の術者資格を有していることもあり、近年はロボット手術が手術の半数以上を占めるようになってきております。最近増えている食道胃接合部癌に関してはそれぞれの専門性を生かして腹腔鏡下噴門側胃切除や胸腔鏡を併用した切除・再建などの機能温存と根治性を目指した手術も行っています。進行・再発症例に対しては、腫瘍センターと連携して最新のエビデンスに基づく抗がん剤や免疫チェックポイント阻害剤による治療を行い、術前化学療法、術後補助療法も含めて包括的ながん治療を提供できるように心掛けております。

令和6年診療研究情報報告

入院患者数

食道疾患	36例
食道癌	34例 (94%)
食道ヘルニア	2例 (6%)

胃疾患	73例
胃癌	66例（90%）
GIST	3例（4%）
十二指腸腫瘍	2例（3%）
その他	2例（3%）

手術症例数

疾患名	患者数	術式	症例数内訳
食道癌	16例		
		ロボット支援食道切除術	9例
		胸腔鏡下食道切除術	7例
食道癌関連 下咽頭癌 (耳鼻科と合同手術)	6例	遊離空腸再建	6例
その他疾患			
食道裂孔ヘルニア	2 例	腹腔鏡下食道裂孔縫縮	2例
合計	24例		合計　24例

疾患名	患者（%）	術式	症例数内訳
胃癌　（残胃癌含む）	56例（89%）	腹腔鏡下幽門側胃切除術	14例
		腹腔鏡下噴門側胃切除	2例
		開腹幽門側胃切除	1例
		開腹胃全摘術	1例
		ロボット幽門側胃切除術	17例
		ロボット噴門側胃切除術	6例
		ロボット胃全摘術	6例
		審査腹腔鏡	7例
		腹腔鏡下再発リンパ節摘出	1例
胃ポリポーシス	1例（2%）	腹腔鏡下胃全摘術	1例
GIST	3例（5%）	腹腔鏡下胃部分切除術	2例
		開腹胃部分切除術	1例
十二指腸癌	2例（3%）	LECS（十二指腸部切）	1例
		開腹幽門側胃切除	1例
その他	1例（2%）	腹腔鏡下胃空腸吻合	1例
	合計　63例		合計　63例

トピックス

2月　第6回山口食道がん研究会を開催しました

第96回日本胃癌学会総会（京都）に参加しました（飯田、中島、山本）

3月　食道がん I-O Expert Seminar in 中国で講演されました（武田）

第19回山口県消化管セミナーを開催しました

4月　第124回日本外科学会定期学術集会（名古屋）に参加しました（武田、飯田、渡邊、西山、中島）

6月　飯田先生の英語論文がExperimental and Therapeutic Medicine誌に掲載されました

第67回関西胸部外科学会学術集会(大阪)に参加しました（西山、太田）

西山先生の英語論文がIn vivo誌に掲載されました。

7月　第79回日本消化器外科学会総会(山口）に参加しました（武田、飯田、渡邊、西山、中島）

第78回日本食道学会学術集会（東京）に参加しました（武田、渡邊、西山）

9月　中島千代先生の英語論文がOncology Letter誌に掲載されました

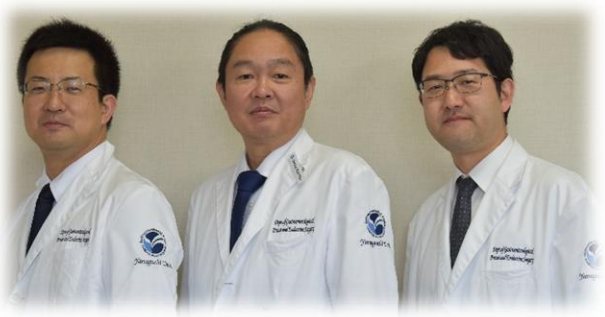
12月　第35回日本内視鏡外科学会総会（福岡）に参加しました（飯田）

令和6年研究報告（令和6年12月31日現在）

UMIN ID	試験名	対象	実施責任組織	登録期間	進捗	症例数
UMIN000015107	切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とbDCF(biweekly ドセタキセル+CF)療法のランダム化第III 相比較試験(JCOG1314)	食道癌	JCOG	2014/9/10~2021/3/10	登録終了	1例
UMIN000017628	臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験(JCOG1409)	食道癌	JCOG	2015/5/11~2021/5/10	登録終了	8例
UMIN000043703	がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発食道扁平上皮癌に対するNivolumab療法におけるバイオマーカー探索を含む前向き観察研究ANTARES study	食道癌	慶應義塾大学	2021/4月～2023/3月予定	実施中	3例
jRCT1030220248	臨床病期I-IVA(T4を除く)胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験(JCOG2013)	食道癌	JCOG	2022/07/06/ ～2033/07/05	実施中	7例
jRCTs031230219	術前化学療法後に根治手術が行われ病理学的完全奏功とならなかった食道扁平上皮癌における術後無治療/ニボルマブ療法/S-1療法のランダム化比較第Ⅲ相試験(JCOG2206)	食道癌	JCOG	2023/7/11～2034/11/30	実施中	
jRCTs061240067	切除可能進行食道癌を対象とした高齢者に対する術前DCF療法の安全性を検討する第I相臨床試験	食道癌	山口大学	2024/10/8～2025/12/31	実施中	1例
UMIN000016196	切除不能・進行再発胃癌の2次化学療法としての低用量Nab-Paclitaxel療法の有用性の検討～臨床第II相試験～	胃癌	山口大学	2018/2/1~2022/8/31	登録終了	54例
UMIN000023065	Ramucirumab抵抗性進行胃癌に対するramucirumab＋Irinotecan併用療法のインターグループランダム化第III相試験	胃癌	OGSG	2017/2/22~2020/12/31	実施中	1例
UMIN000009531	ハイリスク消化管間質腫瘍(GIST)に対する完全切除後の治療に関する研究(STAR ReGISTry)	胃癌	国立がん研究センター		登録終了	7例

下部消化管グループ

スタッフ
友近　忍、田中宏典、藤原康弘



2024年、下部消化管グループは、友近、田中、藤原のメンバーを中心に診療を行いました。手術患者数は187例でした。結腸・直腸癌症例に対する根治的手術は109例、そのうち鏡視下手術は105例 (96.3%)とほとんどの症例に鏡視下手術を施行しました。良性疾患に関しても積極的に鏡視下手術を導入しています。2024年のトピックスは友近の内視鏡外科技術認定医（大腸）の取得により、ロボット支援下直腸切除術が再開され、2024年はロボット支援下手術を12例を施行しております。現在では、２０例を超え院内プロクターの所得によりチームでロボット手術が施行可能な環境が整ってきております。症例の蓄積を継続し、若手医師もロボット手術が経験できる環境作りに努めていく予定です。手術ではTaTME の経験も蓄積され、今まで切除に難渋していたBulky tumorに対しても、術前化学療法による腫瘍の縮小、および経肛門の良好な視野により、 two team制で時間短縮した手術が可能となっています。

令和6年診療研究情報報告

入院患者数

結腸/直腸癌	114例
盲腸癌・回盲部癌	7例
上行結腸癌	20例
横行結腸癌	17例
下行結腸癌	4例
S状結腸癌	24例
直腸癌	43例

手術症例内訳

疾患別	手術件数:187
大腸癌　切除	**109例**
ストーマ造設(審査腹腔鏡) 審査腹腔鏡	15例 3例
人工肛門形成状態 (人工肛門閉鎖術)	22例
クローン病･潰瘍性大腸炎	5例･ 5例
小腸病変	3例
肛門疾患(痔核、痔瘻等)	2例
直腸脱	11例
その他	12例

大腸癌根治手術	109例
年齢（平均、範囲）	70.7歳 (42-89)
75歳以上（%）	34例 (39.5%)
腫瘍局在（重複癌含む）	
盲腸	7例
上行結腸	19例
横行結腸	16例
下行結腸	4例
S状結腸	22例
直腸・肛門	40例
pStage	
0	5例
Ⅰ	31例
Ⅱ	25例
Ⅲ	34例
Ⅳ	9例
ypCR	2例

大腸癌：術式別	109例
回盲部切除	14例
右半結腸切除	17例
結腸部分切除	9例
左半結腸切除	4例
S状結腸切除	17例
高位前方切除	14例
低位前方切除	19例（ロボット：１０例）
ISR	3例（TaTME：1例）
直腸切断術	4例（ロボット：２例）
大腸全摘・亜全摘	2例
Hartmann手術	3例
側方郭清	8例
その他	3例

術前治療（重複含む）	
NAC	FOLFOXIRI:13例 Pembro: 1例
人工肛門造設	4例
大腸ステント	4例
経肛門イレウス管	4例

到達法	N＝109
腹腔鏡下（補助下）	105
ロボット支援下	12例
開腹	4例 高度癒着 イレウス症例 卵巣癌との同時手術

トピックス

1月　東京で開催された第100回大腸癌研究会に参加しました。（友近、小佐々）

4月　愛知で開催された第124回日本外科学会定期学術集会（ハイブリッド開催）に参加しました。（藤原、小佐々）

5月　神奈川で開催された第45回癌免疫外科研究会に参加しました。(小佐々)

6月　福岡で開催された第78回手術手技研究会に参加しました。(藤原)

6月　東京で開催された第49回日本外科系連合学術集会(オンデマンド開催)に参加しました。(兼定)

7月　大阪で開催された“第44回日本癌局所療法研究会(ハイブリッド開催)に参加しました。(小佐々)

7月　愛知で開催された第101回大腸癌研究会学術集会に参加しました。(友近、田中)

7月　山口で開催された第79回日本消化器外科学会総会に参加しました。（友近、田中、藤原、小佐々）

11月　神奈川で開催された第79回日本大腸肛門病学会学術集会に参加しました。（田中）

令和6年臨床試験一覧

終了した臨床試験

管理番号	試験名	対象	実施責任施設	進捗状況
H27-054	【TCR】大腸がん腫瘍浸潤リンパ球のT細胞受容体（TCR）網羅的解析による化学療法剤の効果予測と抗腫瘍特異的免疫誘導効果に関する研究	大腸癌	当院多施設	終了
H27-070	【PARADIGM study】RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6+パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験（PARADIGM study）	切除不能大腸癌	愛知県がんセンター 中央病院 国立がん研究 センター東病院	終了
H27-203	【CpG】進行・再発大腸がんに対する抑制性免疫解除剤+5種類のペプチドカクテル+CpGの複合免疫療法の第Ⅰ相臨床試験	進行・再発大腸癌	山口大学	終了
H24-057	【JFMC46-1201】再発危険因子を有するStage Ⅱ大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究	大腸癌	東海大学	終了

実施中の臨床試験

管理番号	試験名	対象	実施責任施設	進捗状況
H27-198	【JACCRO CC-13,DEEPER試験】RAS野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI＋セツキシマブとFOLFOXIRI＋ベバシズマブの最大腫瘍縮小率(DpR)を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験 (JACCRO CC-13試験)	大腸癌	香川大学	実施中
H28-004	【JACCRO CC-13試験 AR】RAS野生型進行大腸癌患者におけるFOLFOXIRI＋セツキシマブとFOLFOXIRI＋ベバシズマブの最大腫瘍縮小率(DpR)を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験におけるバイオマーカー研究 (JACCRO CC-13AR)	大腸癌	聖マリアンナ 医科大学	実施中
2018CRB001	【JACCROCC-16】RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI＋ラムシルマブ併用療法の第二相試験	切除不能大腸癌	香川大学医学部 附属病院	実施中
H2019-006	「RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI＋ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験」におけるバイオマーカー研究(JACCROCC-16AR)	切除不能大腸癌	聖マリアンナ 医科大学	実施中
H2019-090	【EXPERT付随】 大腸癌肝転移に化学療法が与える影響に関する探索的観察研究	大腸癌肝転移	東京大学	実施中
H2019-155	【MOEST study】高齢者StageⅢ大腸癌に対する術後補助化学療法の現状調査	高齢者大腸癌	大腸癌研究会	実施中
H2019-177	「治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する一次治療としてのカペシタビン/LV5FU2+ベバシズマブ療法後のXELOX/FOLFOX +ベバシズマブ逐次療法とXELOX /FOLFOX +ベバシズマブ併用療法の多施設共同ランダム化第Ⅲ相臨床試験」参加者を対象とした追跡予後調査を目的とした観察研究 (C”-Study)	切除不能大腸癌	川崎医科大学	実施中
2021-032	【RASMEX study】RAS 遺伝子変異型腫瘍を有する切除不能進行・再発大腸癌患者における化学療法後の血中RAS 遺伝子変異を評価する観察研究(JACCRO CC-17)	切除不能大腸癌	聖マリアンナ 医科大学	実施中
2021-061	直腸癌手術における適切なCircumferential resection margin（CRM）とDistal Margin(DM)に関する多施設前向き観察研究	直腸癌	国立がん研究 センター東病院	実施中
2021-142	【JACCRO CC-18】BRAF変異型大腸癌に対するBRAF阻害薬併用療法のバイオマーカー探索を含めた観察研究（BEETS試験）	大腸癌	聖マリアンナ 医科大学	実施中
2022-171c	結腸癌に対する体腔内吻合の短期・長期成績に関する後向き・前向きコホート研究	大腸癌	大阪医科薬科大学	実施中
2024-052	【SCRLET試験】腹腔鏡下右側結腸切除の安全性に影響を与える因子に関する前向き観察研究	大腸癌	東京女子医大	実施中

肝胆膵グループ

スタッフ
永野浩昭、高橋秀典、井岡達也
徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人
中島正夫、木村祐太

私たち肝胆膵グループは、肝臓・胆道・膵臓領域の悪性疾患を中心に外科診療を行っています。山口県で唯一の、日本肝胆膵外科学会が定める“高度技能修練施設”の中の“認定施設A”（高難度手術を年間50例以上こなす施設）であり、難易度の高い手術を取り扱うことが多いグループです。進行肝癌、胆道癌・膵臓癌や大腸癌多発肝転移などの難治癌・進行癌に対しては、消化器内科や腫瘍内科と連携しつつ化学療法の後に手術を行うことで治療成績の向上を目指しています。一方で、低侵襲手術にも積極的に取り組んでおり、腹腔鏡手術のみならず近年急速に普及しつつあるロボット支援下肝切除・膵切除の手術件数も増加傾向で、難しい術式の多い肝胆膵領域においてもより一層力を入れている分野です。他院で手術が難しいと判断されるようなケースでも、他診療科と連携しながら常に切除の可能性やより良いアプローチ法を追求し続けています。

令和6年診療研究情報報告

入院患者数（化学療法を含む）

肝疾患	136
肝細胞癌	48
転移性肝腫瘍	17
肝内胆管癌	66
肝良性疾患	3
その他	2

胆道疾患	269
胆嚢癌	91
胆管癌	125
十二指腸乳頭部癌	2
良性・その他	51

膵・脾疾患	415
膵癌	403
PNET	2
IPMN	7
その他	3

手術症例数

() 腹腔鏡手術症例、＊重複あり

	肝切除					生体肝移植									
	葉切以上	区域	亜区域	外側区域	部分	ドナー	レシピエント	胆管切除再建	肝膵同時切除	膵頭十二指腸切除	膵体尾部切除	膵全摘	膵中央切除	その他	計
肝細胞癌	3	5(3)	1(1)	3(2)	27(25)					-	-			1(1)	40(32)
肝内胆管癌	5*	*						3*		-	-			5	5
転移性肝癌	1	2(1)	2(1)	1(1)	9(6)					-	-				15(9)
その他の肝疾患		1(1)			1(1)					-	-			1(1)	3(3)
肝門部･上部胆管癌	4*							5*	1	1				3(1)	10(1)
中･下部胆管癌										3					3
胆嚢癌					3(3)			5						3(3)	11(6)
乳頭部癌										2				2	2
その他の胆道疾患														8(8)	8(8)
膵頭部癌	-	-	-	-	-					4				11(9)	15(9)
膵体尾部癌	-	-	-	-	-					1	8(4)			21(21)	30(25)
その他の膵疾患	-	-	-	-	-					2	6(6)		1(1)	1(1)	10(8)
上記以外		1								1				6(1)	8(1)
計	13*	8(5)	3(2)	4(3)	40(35)			13*	1	13	14(10)		1(1)	55(46)	159(102)

トピックス

1月　腹腔鏡下脾温存尾側膵切除に関する論文がAsian J Endosc Surg誌に掲載されました。（新藤）
4月　高橋秀典先生が肝胆膵新規メンバーに加わりました（高橋）
5月　肝胆膵高度技能専門医に合格しました（徳光）
6月　第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会に参加しました（全員）
7月　第79回日本消化器外科学会を開催しました（全員）
高齢者膵癌に対する術前補助化学療法の論文がCancers誌に掲載されました（新藤）
10月　切除可能膵癌に対する術前補助化学療法の前向き観察研究（YPB-001）論文がPancreas誌に掲載されました（松井）
ロボット支援下膵体尾部切除のプロクターを取得しました（新藤）
11月　JDDW2024 優秀演題賞を受賞しました（徳光）
第7回山口肝移植診療検討会を開催しました（全員）
第15回山口膵・胆道疾患研究会（WEB）を開催しました（全員）
12月　肝細胞癌に対する新規複合免疫製剤の研究が武田科学振興財団研究助成に選ばれました（中島）

高橋先生が肝胆膵新規メンバーに加わりました

JDDW2024にて徳光先生が優秀演題賞を受賞しました。

ロボット支援下膵体尾部切除プロクターを
新藤先生が取得しました。

徳光先生が肝胆膵高度技能専門医に合格しました。

忘年会を行いました。

中島先生が武田科学振興財団研究助成に選ばれました。

実施中の臨床試験

	UMIN ID	試験名	対象	実施責任組織	進歩状況
肝		【JCOG1315c】切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	肝細胞癌	JCOG	登録終了
		門脈腫瘍栓を伴う高度進行肝細胞癌に対する集学的治療の安全性、有用性についての前向き観察研究	肝細胞癌Vp3-4	山口大学	実施中
		門脈内腫瘍栓を伴う高度進行肝細胞癌に対する治療方針とその安全性、有用性についての後ろ向き観察研究	肝細胞癌Vp3-4	山口大学	実施中
		C型肝炎SVR後発症の肝細胞癌に対する肝切除：IFN治療とDAA治療での臨床病理学的・分子生物学的比較検討に関する多施設共同研究	肝細胞癌	九州大学	実施中
		【CHALLENGE trial:JON2103-H】Child-Pugh分類Bの進行肝細胞癌患者を対象としたアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法の第II相試験	肝細胞癌	JON	登録終了
	UMIN000036286	大腸癌同時性肝転移に対する腹腔鏡下大腸・肝同時切除の安全性に関する前向き観察研究	大腸癌肝転移	山口大学	実施中
		肝移植レシピエントにおける周術期腸内細菌叢の変化と感染性合併症の関係および術後敗血症を早期予測するためのバイオマーカー探索研究	肝移植	山口大学	実施中
		切除不能肝細胞癌におけるアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法、外科的切除を用いた集学的治療の安全性、有効性を検討する多施設共同第2相臨床研究　RACB	肝細胞癌	京都大学	登録終了
		免疫チェックポイント阻害剤投与後かつAFP400ng/ml以上の進行肝細胞癌に対するレンバチニブとラムシルマブのランダム化比較第Ⅲ相試験　JON2101-H	肝細胞癌	神奈川県立がんセンター	実施中
		免疫チェックkポイント阻害剤投与後の進行肝細胞癌に対するソラフェニブとレンバチニブのランダム化比較第3相試験　JON2102-H	肝細胞癌	神奈川県立がんセンター	実施中
		Borderline resectable肝細胞癌に対するレンバチニブ＋シスプラチン肝動注化学療法の多施設共同第Ⅱ相試験　【LEOPARD-NEO】	肝細胞癌	国立がん研究センター東病院	実施中
		低侵襲肝切除におけるインドシアニングリーン蛍光法を用いた解剖学的肝切除の実施状況と臨床的意義：アジア諸国における国際多施設研究	腹腔鏡下系統的肝切除	上尾中央総合病院	実施中
		肝細胞がん患者に対する腹腔鏡下肝切除時の偶発的開腹移行と予後の関係解析　多施設共同後ろ向き観察研究	肝細胞癌	関西医科大学	実施中
		進行肝細胞癌に対する外科的治療介入の実態と成績調査	進行肝細胞癌	虎の門病院	実施中
		肝細胞がん患者の予後予測指標の新規開発　多施設共同後ろ向き観察研究	肝細胞癌	関西医科大学	実施中
		術前薬物療法を受けた肝細胞癌外科切除症例における長期成績に関する多機関共同後向き観察研究	肝細胞癌	京都大学	実施中
		高齢初発肝細胞癌に対する腹腔鏡手術の短期・長期成績に関する多施設共同後ろ向き観察研究	肝細胞癌	山口大学	実施中
		肝切除後合併症発生リスクの経時的変化に基づく最適な入院期間の検討	肝切除症例	東京大学	実施中
		術前複合免疫療法を施行した根治切除可能HCC症例と通常の根治切除可能HCC症例に対する免疫学的評価に関する研究	肝細胞癌	山口大学	実施中

実施中の臨床試験

	UMIN ID	試験名	対象	実施責任組織	進歩状況
胆	UMIN000052908	胆嚢癌疑診例に対する術前画像診断の妥当性に関する前向き観察研究（LABGY2）	胆嚢癌	山口大学	実施中
		肝内結石症第8期全国横断調査	肝内結石症	杏林大学	実施中
	UMIN000055335	進行胆道癌に対する全身薬物療法後の外科的切除に関する前向き観察研究	胆道癌	山口大学	実施中
		JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク	胆道癌	JCOG	実施中
	UMIN000036449	肝葉切除を伴わない胆道癌切除例を対象としたゲムシタビン/シスプラチン（GC)併用療法とゲムシタビン/TS-1（GS)併用療法の術後補助化学療法のランダム化第2相試験（KHBO1901）	胆道癌	KHBO　大阪国際がんセンター	登録終了
		胆道癌の術後補助療法における薬剤感受性予測因子に関する検討（JCOG1202A1）	胆道癌	JCOG	実施中
		[日韓共同プロジェクト研究]Vater 乳頭部癌に対する術後補助療法の治療成績に関する後方視的観察研究	乳頭部癌	肝胆膵外科学会	実施中
		胆管癌E7090試験	胆道癌	エーザイ	実施中
		FGFR2遺伝子再構成を伴う切除不能又は転移性の胆管癌患者を対象に、1次治療としてのPemigatinibの有効性及び安全性をゲムシタビン + シスプラチン併用化学療法と比較して評価する非盲検、ランダム化、実薬対照、多施設共同、第III相試験（FIGHT-302）	胆道癌	INCYTE社	実施中
		肝内胆管癌の末梢型と中枢型における解剖学的分類の妥当性に関する研究	肝内胆管癌	金沢大学	実施中
		切除可能胆道癌に対する術前補助化学療法としてのゲムシタビン＋シスプラチン＋S-1（GCS）療法の第３相試験（JCOG1920）	胆道癌	JCOG	実施中
		細胆管細胞癌の臨床病理学的特徴とその臨床的意義	京都大学	京都大学	実施中
	UMIN000045156	70才以上の進行胆道癌患者に対する化学療法と高齢者機能評価に関する前向き観察研究　JON2104-B	胆道癌	JON	実施中
		切除不能または再発胆道癌を対象としたゲムシタビン/シスプラチン/S-1（GCS）療法とゲムシタビン/シスプラチン/免疫チェックポイント阻害薬療法のランダム化比較第 Ⅲ 相試験（KHBO2201）YOTSUBA　trial	胆道癌	山口大学・KHBO	実施中
		【JON2303-B】FGFR2融合遺伝子陽性またはFGFR2遺伝子の再構成を認める切除不能または再発胆道癌に対するペミガチニブ療法に関するReal-world data analysis	胆道癌	山口大学　JON	実施中
		ゲムシタビンベースの一次治療後の再発性または転移性膵癌に対するnal-IRIとS-1併用療法の第1/2相臨床試験　Phoenix study	膵癌	国立がん研究センター東病院	登録終了
		切除可能膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の開腹膵体尾部切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較第III相試験【JCOG2202】	膵癌	JCOG	実施中
		慢性膵炎による難治性疼痛に対する内科的インターベンション治療と外科治療の比較解析　-多施設共同前向き実態調査-	慢性膵炎	藤田医科大学	実施中
		膵頭十二指腸切除における幽門輪の意義に関する後方視的観察研究	膵頭十二指腸切除症例	和歌山県立医科大学	実施中
		腹腔鏡下膵体尾部切除術における術前難度評価スコア（difficulty score）の有用性に対する検証研究	膵疾患	九州大学	登録終了
	UMIN000016380	膵・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究（TRINET1332）	神経内分泌腫瘍	日本神経内分泌腫瘍研究会	実施中
	UMIN000037621	膵切除における抗血栓剤服用歴が術後経過に及ぼす影響に関する研究	膵切除症例	肝胆膵外科学会	実施中
		良性～低悪性度膵腫瘍に対する腹腔鏡下尾側膵切除術の際の脾温存術と脾合併切除術の比較検討；Propensity score matching解析を用いる	良性～低悪性度膵腫瘍	九州大学	登録終了
		消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス＋ランレオチド併用療法のランダム化第III相試験（JCOG1901）	切除不能・再発NET	JCOG	実施中

令和6年診療研究情報報告（令和6年12月31日現在）

実施中の臨床試験

	UMIN ID	試験名	対象	実施責任組織	進歩状況
膵	UMIN000014795	消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたエトポシド／シスプラチン療法のランダム化比較試験	NEC	JCOG	実施中
		2次化学療法実施中の切除不能膵癌患者におけるePROを用いたQOL調査研究	膵癌	杏林大学	研究終了
		十二指腸狭窄を有する切除不能進行膵癌を対象とした初回化学療法導入前の狭窄解除法に関する多施設共同後ろ向き観察研究	膵癌	千葉がんセンター	実施中
	UMIN000029147	切除可能境界膵癌に対するGemcitabine／nab-Paclitaxel併用療法もしくはmFOLFIRINOXによる術前化学療法に関する多施設共同前向き観察研究	膵癌	山口大学	登録修了
		アジア人中腸NETの臨床病理学的特性に関する多施設共同研究	中腸NET	東北大学	登録終了
		Invasive intraductal papillary mucinous carcinoma (IPMC)に対する術後補助療法の有用性に関する後ろ向き観察研究	IPMC	和歌山県立医科大学	実施中
		腹膜転移を有する膵がんに対するS-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法の無作為化比較第III相多施設共同臨床試験　SP study	膵癌	関西医科大学	実施中
		膵頭十二指腸切除術後の膵液瘻の術前リスク因子に関する多施設共同後ろ向き観察研究	膵切除症例	山口大学	実施中
		膵癌に対する樹状細胞ワクチンTLP0-001治験	膵癌	和歌山医科大学	登録終了
	UMIN000043376	膵癌に対する審査腹腔鏡検査の臨床的意義に関する前向き観察研究	膵癌	山口大学	登録終了
		S-1術後補助療法中または終了後6ヵ月以内の再発膵癌に対するFOLFIRINOX療法またはgemcitabine+nab-paclitaxel療法の多施設共同後ろ向き観察研究	膵癌	杏林大学	登録終了
		生殖細胞系列BRCA遺伝子病的バリアントを有する切除不能・再発膵癌患者におけるFOLFOX療法の有効性と安全性を検討する第2相試験【JON-2105-P】	膵癌	JON	実施中
		ナノリポソーマルイリノテカン/5-FU/ロイコボリン併用療法と S-1 単剤療法の比較：傾向スコアマッチングを用いた多施設共同後ろ向きコホート研究　【JON-2109-P】	膵癌	JON	実施中
		膵頭十二指腸切除術における門脈合併切除例の検討	膵癌	帝京大学	実施中
		家族性膵癌患者に対する術後補助化学療法の効果（JON-2201-P）	膵癌	日本大学	実施中
		膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引生検 (EUS-FNA) 後の穿刺経路腫瘍細胞播種（ Needle tract seeding ）の前向き全国調査	膵癌	和歌山県立医科大学	実施中
		切除不能局所進行膵癌に対するConversion Surgeryの新規化学療法導入後治療成績の再検討	膵癌	山口大学	実施中
		術前補助化学療法後の膵癌手術における至適リンパ節郭清範囲を決定するための前方視的介入研究（JON2302-P）	膵癌	富山大学	実施中
		肝転移を伴う膵癌に対するconversion surgeryの意義（日本膵臓学会プロジェクト研究）	膵癌	関西医科大学	実施中
		進行膵癌に対するmodified FOLFIRNIX療法後の外科的切除に関する前向き観察研究	膵癌	山口大学	実施中
		腹腔洗浄細胞診陽性膵癌に対する全身化学療法の有効性を検証するための 多施設共同第II相試験(WALCURE trial)	膵癌	富山大学	実施中

令和6年診療研究情報報告（令和6年12月31日現在）

臓器横断的、その他

UMIN ID	試験名	対象	実施責任組織	進歩状況
肝胆膵癌	MSI-High肝胆膵領域癌に対する観察研究	肝胆膵領域癌	国立がん研究センター中央病院	実施中
膵癌・胆道癌	膵・胆道癌に対する集学的治療（術前化学療法および手術加療）適格症例および治療法選定のためのバイオマーカー探索試験	膵癌・胆道癌	山口大学	実施中
肝胆膵領域癌	肝胆膵領域癌および神経内分泌腫瘍の希少フラクションに対する治療開発を目的としたマスタープロトコール試験【Mascarpone:JON2108-O】	肝胆膵領域癌および神経内分泌腫瘍	JON	実施中
肝胆膵領域手術	本邦における高難度肝胆膵外科手術の安全性と施設volumeの検討	高難度肝胆膵外科手術症例	山口大学	実施中

申請中の臨床試験

UMIN ID	試験名	対象	実施責任組織	進歩状況
肝	Borderline resectable肝細胞癌における術前薬物療法後の術後肝機能評価	肝細胞癌	山口大学	IRB申請中
	本邦における生体肝移植ドナーの術後合併症、予後に関する第3回目全国調査	生体肝移植ドナー	信州大学	IRB申請中
胆	BR (borderline resectable) 胆道癌における早期再発と化学療法抵抗性に関するバイオマーカー探索的研究	胆道癌		IRB申請中
膵	生殖細胞系列BRCAバリアント膵癌症例の疫学・遺伝情報の研究	膵癌	静岡県立静岡がんセンター	IRB申請中
	膵頭部切除における冠動脈合併切除の後方視的症例集積研究	膵癌	富山大学	IRB申請中

乳腺内分泌グループ

スタッフ
前田訓子、周山理紗

乳腺内分泌腺グループに乳腺・甲状腺・副甲状腺の悪性・良性疾患の外科手術および薬物療法などを、診断を含めて幅広く行っています。特に乳癌センチネルリンパ節生検においては、3D CT-リンフォグラフィ、Real-time Virtual Sonography (RVS), ICGによるセンチネルリンパ節直接マーキング法といった当科オリジナルの方法で、センチネルリンパ節を高精度に同定しています。また、当院では形成外科専門医、乳腺専門医が備わっており、自家組織およびインプラントを考慮した乳房再建手術を保険診療で行うことが可能です。遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC)の診断・治療に関しては、予防的乳房切除術も施行しています。2024年8月から早期乳癌に対するラジオ波焼灼術（RFA）の日本乳癌学会承認施設となりRFA治療が可能となっています。今後も複雑化、多様化する乳癌診療の充実のため引き続き、今後も診療・教育・研究に力を注ぎたいと思います。

令和6年診療研究情報報告

入院患者数

乳腺疾患	183
乳癌手術	134
良性疾患	15
マンモトーム検査	20
その他（化学療法など）	8

甲状腺・副甲状腺疾患	6
甲状腺癌	3
Basedow病	2
良性腫瘍・その他	1
副甲状腺疾患	0

手術症例数

乳腺疾患	162
乳癌に対する手術	145
乳房切除術	128
（うち乳房再建術	5）
乳房温存術	13
良性・その他(予防切除)	17

甲状腺・副甲状腺疾患	6
甲状腺癌に対する手術	3
甲状腺葉切除+頸部郭清	(1)
甲状腺全摘＋頸部郭清	(2)
甲状腺良性腫瘤	1
Basedow病手術	2
副甲状腺手術	0

トピックス

4月　日本外科学会定期学術集会で、前田が発表しました

7月　日本乳癌学会で、周山、前田が発表しました

9月　日本乳癌学会中国四国地方会、前田が教育セミナー司会を務めました。

令和5年診療研究情報報告（令和5年12月31日現在）

進行中の臨床試験

ID	試験名	対象	実施責任組織	進捗状況
UMIN000028298	エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験 (JCOG1505, LORETTA trial)	低リスクDCIS	JCOG	試験中止
jRCTs031190129	薬物療法により臨床的完全奏効が得られた HER2 陽性原発乳癌に 対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験　JCOG1806	cT1-2N0M0 HER2陽性乳癌	JCOG	登録終了
UMIN000042447	切除不能進行がんおよび転移・再発固形がん患者に対するElectronic Patient-Reported Outcome (ePRO) モニタリングの有用性を検証する多施設共同非盲検ランダム化比較試験 PRO-MOTE（乳がん）	切除不能進行がんおよび転移・再発乳がん	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター	登録終了
jRCT1030220506	「エンハーツ点滴静注用100mg特定使用成績調査(乳癌)」患者を登録対象としたトラスツズマブ デルクステカン中止後の後治療に関するコホート研究	進行再発乳癌	昭和大学	登録終了
UMIN000033384	BRCA1/2遺伝子変異陽性者に対するリスク低減乳房切除術の安全性の検討	遺伝性乳癌卵巣癌症候群	山口大学	実施中
	乳癌手術後の整容性に対する患者満足度の調査研究	乳癌術後	山口大学	実施中
UMIN000039200	乳房専用PET検査の有用性について多施設探索研究	乳癌	山口大学	実施中
UMIN000051581	HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法における多遺伝子アッセイを使用した観察研究（Trans-RESPECT）	HER2陽性乳癌	NSAS-BC	実施中
	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構多機関共同研究：BRCA遺伝学的検査に関するデータベースの作成	HBOC	JOHBOC	実施中
	乳がんに罹患した女性が行う妊孕性温存の選択に用いる意思決定ガイドの内容適切性に関する検討	乳癌	山口大学	実施中
jRCT1031240010	トラスツズマブ デルクステカンにより完全奏効が達成されたHER2陽性の手術不能又は再発乳癌患者に対する多機関共同前向き観察研究　JBCRG-C11（CREA）	HER2陽性進行乳癌	JBCRG	実施中
jRCTs031230439	オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験（JCOG2110）	3個以下のオリゴ転移を有する進行乳癌	JCOG	実施中
jRCTs061220113	cN+原発性乳癌に対する新たな腋窩縮小手術 Tailored axillary surgery (TAS) の安全性と有用性に関するFeasibility 試験	乳癌	岡山大学病院	実施中
jRCTs051220133	ホルモン受容体陽性HER2陰性進行転移乳癌に対し一次治療としてアベマシクリブ、アロマターゼ阻害薬併用療法施行症例を対象とした、ESR1変異に基づく治療戦略の有用性を検討する第2相研究（JBCRG-M08 AMBER trial）	ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌	JBCRG	実施中
	術前化学療法を開始する早期乳がん患者を対象としたウェアラブルデバイスを用いて身体活動量を評価する前向き観察研究（TRACK-BC）	乳癌	関西医科大学	実施中
jRCTs071240036	ステロイドマウスウォッシュによる乳癌化学療法誘因性の口腔粘膜炎予防を検討する第Ⅲ相ランダム化比較試験（SMASH-BC）	乳癌	CSPOR-BC	実施中
	再発高リスクHER2陰性早期乳癌におけるBRCA1/2遺伝学的検査に関する横断研究(BRCAwareness)	再発高リスクHER2陰性早期乳癌	CSPOR-BC	実施中
	男性乳がんの臨床病理学的特徴と予後因子についての多機関共同後ろ向き研究（OASIS MALE BC）	男性乳癌	JCOG	実施中
	薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHER2 陽性原発乳癌に対する非切除療法を目指すJCOG1806 治療戦略を経験した際の心理的葛藤の有無を患者経験価値にて評価する横断的観察研究	cT1-2N0M0 HER2陽性乳癌	JCOG	実施中

腫瘍センター

スタッフ
井岡達也

がん薬物療法は進歩を続け、適応となる抗がん薬や疾患は飛躍的に増えています。令和2年に腫瘍センターに赴任し、当院においてがん薬物療法を行う患者さんの数は着実に増えております。疾患や治療はもちろん、年齢から個性、社会的背景もさまざまな患者さんがおられます。私たち腫瘍センターは病気だけにスポットをあてず、患者さんや家族にとって何がベストかを考え、その人らしく治療を続けていけるようなケアを大切にしています。今後、外来化学療法室のベッド数は増える予定で、さらに外来で治療を行える患者さんの数は増えることが予想されます。最新の治療を提供しつつ、ＡＩなどを活用し、業務を円滑に進める一方で、目の前の患者さんと向き合う時間を大事にしていきたいと思っております..。また、新薬の治験も積極的に実施しています。今後は、Her2異常発現を認める進行胆道癌の治験（2社）、胆道癌術後補助療法やKRAS変異を認める進行膵癌の治験も実施しています。

令和6年診療研究情報報告

診療実績

疾患領域		疾患領域	
食道	20例	肝臓	1例
胃	16例	胆道（肝内胆管癌含む）	26例
大腸	42例	膵臓	43例
小腸・十二指腸	1例	NET・NEC	6例
		肉腫	3例
		原発不明	1例

診療実績

食道癌	切除不能		10例	胆道癌	術前補助		2例
	術後補助	Nivo単剤	1例	（肝内胆管癌を含む）	臨床試験	JCOG1920試験	6例
胃癌	術前補助		0例		術後補助		8例
	術後補助		7例		企業治験	AZトルマリン	3例
	切除不能		7例		KHBO	YOTSUBA試験	3例
大腸癌	術前補助		10例	膵癌	R術前補助		7例
		肝転移・肺転移	11例		BR術前補助		4例
		局所進行	0例		切除不能		15例
	術後補助		18例		企業治験	大鵬PRISM-1	4例
	切除不能		11例		臨床試験	JCOG2101c	3例

第79回消化器外科学会総会開催報告

総会ポスター

第79回日本消化器外科学会総会会長

山口大学大学院　消化器・腫瘍外科学　教授
永野 浩昭

第79回日本消化器外科学会総会を2024年7月17日、18日、19日に山口県下関市において開催いたしました。本総会を山口大学消化器・腫瘍外科学講座（旧外科学第二講座）が主催しますのは，故石上浩一先生（第23回、1984年）、岡正朗先生（第65回、2010年）に続いて3人目となります。

会期中は7299名の参加登録中4516人が現地参加され、3619の応募演題から2965演題が採択されご発表いただきました。“特別企画”として、地方のがん診療、高齢者外科診療、働き方改革における待遇改善の3つを取り上げ、世代を超えた議論を行うべく、SNS、理想の上司と理想の部下、働き方改革の中での外科修練、女性外科医のキャリア形成、をテーマとした “バズセッション”も企画しました。さらに“会長特別企画”として消化器外科学の次世代リーダーから未来に向けての提言を行なってもらい、最後に“高校生関連企画”として山口県の高校生を会場に招待し、13人の消化器外科学の教授と、外科の未来と夢について語り合っていただきました。この企画は地元のテレビ局に特集として取り上げられました。

地方開催でご不便をおかけいたしましたが、幸い天候にも恵まれ、記憶に残る学術集会であったとのお言葉もいただきました。

さて、今回の総会のテーマは「つどい，つむぐ」（集い，紡ぐ）といたしました。これは、学会場に “集う”ことができた私たちは，これからの消化器科学の発展のために，未来への「言葉」を“紡ぎ”，夢への「熱い心」を“紡ぎ”，すべての外科医が協調し挑戦をし続ける「想い」を“紡い”でいきたいとの願いによります。そして、この思いを今度は山口大学消化器・腫瘍外科学講座の未来へと紡いでいけることを切に願っております。

最後になりましたが、本会開催にあたり、ご支援、ご指導賜りました関係各位の先生方に、改めて心より御礼申し上げます。

主要総会プログラム

総会会長特別企画 –集へ、紡げ、消化器外科学の未来
会場：第2会場下関市生涯学習プラザ 2階『宙のホール』
司会：
竹内裕也（浜松医科大学医学部 外科学第二）
齋浦明夫（順天堂大学附属順天堂医院 肝・胆・膵外科）
演者：
神田光郎（名古屋大学大学院医学系研究科病態外科学講座消化器外科学）
黒川幸典（大阪大学大学院 消化器外科学Ⅰ）
髙橋広城（名古屋市立大学大学院　消化器外科学）
進藤潤一（虎の門病院　消化器外科）
阿部雄太（慶應義塾大学医学部　一般・消化器外科）
髙橋秀典（山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学 ）

特別企画1
地方の癌診療はどうあるべきか–理想を求めて
会場：第1会場下関市生涯学習プラザ 1階『海のホール』
司会：
藤原義之（鳥取大学医学部消化器・小児外科）
押切太郎（愛媛大学医学部附属病院消化管腫瘍外科）
演者：
石丸泰隆（山口県健康福祉部 部次長）
北國大樹（厚生労働省健康局　がん医療専門官）
林伸彦（富山大学　内科学第三講座）
坂本照尚（鳥取大学　器官制御外科学）
井岡達也（山口大学附属病院　腫瘍センター）

特別企画2
働き方改革–これからの消化器外科医の未来を待遇改善から探る
会場：第1会場下関市生涯学習プラザ 1階『海のホール』
司会：
比企直樹（北里大学医学部 上部消化管外科学）
猪股雅史（大分大学医学部消化器・小児外科学講座）
演者：
新原正大（北里大学医学部　外科）
藤川葵（聖路加国際病院　一般内科）
黒田慎太郎（広島大学病院消化器外科）
江口英利（大阪大学大学院 消化器外科学Ⅰ）
掛地吉弘（神戸大学大学院 食道胃腸外科学）

特別企画3
これからの高齢者消化器外科診療をどうあるべきか？
会場：第1会場下関市生涯学習プラザ 1階『海のホール』
司会：
江口晋（長崎大学大学院移植・消化器外科学）
瀬尾智（高知大学附属病院　消化器外科）
演者：
飯田通久（山口大学　消化器・腫瘍外科学）
足立智彦（長崎大学大学院　移植・消化器外科学）
西嶋康浩（厚生労働省健康局 がん・疾病対策課長）
大石充（鹿児島大学　循環器・呼吸器病学講座）
佐竹悠良（高知大学 腫瘍内科学講座）

バズセッション@JSGS2024ー若手が知りたい外科医の本音1
働き方改革の中での外科修練の取り組み方（休日の回診体制や緊急手術の対応などの取り組みの実際）
会場：Live配信
演者：
市川大輔（山梨大学医学部 第一外科）
比企直樹（北里大学医学部 上部消化管外科学）
黒田慎太郎（広島大学病院消化器外科）
今村一歩（長崎大学大学院　移植・消化器外科学）
浜部敦史（大阪大学大学院　消化器外科学Ⅱ）
木村祐太（山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学）

バズセッション@JSGS2024ー若手が知りたい外科医の本音2
Social mediaを用いた消化器外科プロモーションは是か非か
会場：Live配信
演者：
藤井努（富山大学大学院 消化器・腫瘍・総合外科学）
渡邊純（関西医科大学医学部医学科下部消化管外科学講座）
山本健人（医学研究所北野病院 消化器センター消化器外科）
中山祐次郎（医療法人社団 ふれあいグループ 湘南東部総合病院外科）
小林裕之（神戸市立医療センター中央市民病院外科）
小佐々貴博（山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学）

バズセッション@JSGS2024ー若手が知りたい外科医の本音3
若手外科医から見た理想の上司と、上司から見た理想の若手外科医
会場：Live配信
演者：
五井孝憲（福井大学医学部 外科学（1））
塚本俊輔（国立がん研究センター中央病院大腸外科）
賀川義規（大阪急性期・総合医療センター　消化器外科）
川島淳（横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センター）
中道脩介（京都府立医科大学附属病院　消化器外科）
太田啓介（山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学）
鈴木有十夢（独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）徳山中央病院外科）

バズセッション@JSGS2024ー若手が知りたい外科医の本音4
女性消化器外科医のキャリア形成と育児の二刀流の秘訣（資格取得や出産のタイミング、家族の協力、医局の対応とサポート）
会場：Live配信
演者：
野村幸世（東京大学大学院 消化管外科学）
秋月恵美（札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科／札幌いしやま病院）
永吉絹子（九州大学大学院　臨床・腫瘍外科学）
菅原弘太郎（東京大学　医学部附属病院　胃・食道外科）
高村卓志（藤沢湘南台病院　外科）
中島千代（山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学）

特別講演
会場：第1会場下関市生涯学習プラザ 1階『海のホール』
司会：
森本英樹（チキンナンバン）（吉本興業株式会社）
演者：
田村淳（ロンドンブーツ1号2号）（吉本興業株式会社）

招待講演 “Pancreas Cancer: The Dawning of a New Era”
会場：第1会場下関市生涯学習プラザ 1階『海のホール』
司会：
森正樹（東海大学医学部）
演者：
Prof. Jeffrey Drebin（Department of Surgery, Memorial Sloan Kettering Cancer Center）

AGSurg Forum
会場：第1会場下関市生涯学習プラザ 1階『海のホール』
司会：
北川雄光（慶應義塾大学医学部 外科学）
三森功士（九州大学病院別府病院 外科）
演者：
高橋慶太（東京慈恵会医科大学附属病院　消化管外科）
濱元宏喜（大阪医科薬科大学　一般・消化器外科）
小松昇平（神戸大学大学院　肝胆膵外科学）
相場崇行（大分大学附属病院　消化器外科）

総会会長講演
会場：第1会場下関市生涯学習プラザ 1階『海のホール』
司会：
岡正朗（山口県立大学　理事長）
演者：
永野浩昭（山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学）

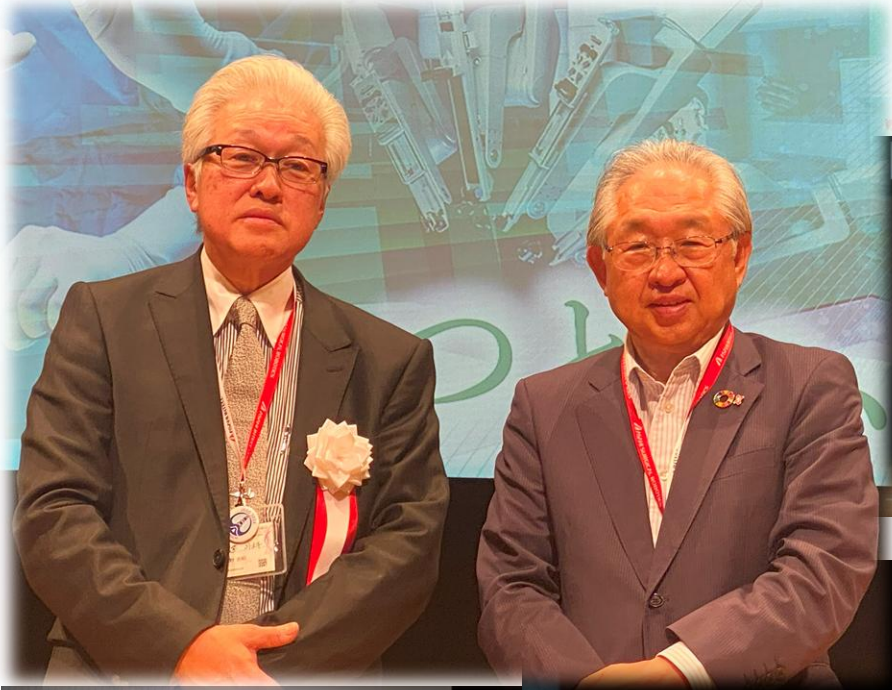
田村淳さんと会長 2024.07.18@下関市生涯学習プラザ

【拡大プログラム委員会（1日目）】

医局員もウェイターとしてサポート

【総会会長講演（2日目）】

司会：岡　正朗　先生（山口県立大学理事長）
講演：永野浩昭　教授（JSGS2024会長）



20240718_★総会会長講演＠下関市生涯学習プラザ

【全員懇親会（2日目）】

全員懇親会前
緊張の面持ちの医局員。。

全員懇親会の様子
用意した日本酒が大好評でした！

下関市長ご挨拶

永野教授開会挨拶

STU48のパフォーマンス
プロフェッショナルな仕事、大盛り上がりでした

STU48のグッズ抽選会
当選した先生、おめでとうございます

【会長特別企画（3日目）】
高校生企画 ーPROJECT FOR FUTURE SURGEONS.
集え！未来の外科医！ 紡げ！外科医の魂！

本学大学院医学系研究科 **消化器・腫瘍外科学講座** 主催

第79回 日本消化器外科学会総会 「高校生招待企画」開催

総会会長 永野浩昭教授自ら
13名の熱き消化器外科教授を山口に招集
応募高校生84名から39名を招待

令和6年7月19日（金）

参加された教授		瀬尾 智 教授	（高知大学）	丸橋 繁 教授	（福島県立医科大学）
楳田 祐三 教授	（愛媛大学）	内藤 剛 教授	（北里大学）	水野 修吾 教授	（三重大学）
大塚 隆生 教授	（鹿児島大学）	日高 匡章 教授	（島根大学）	山崎 誠 教授	（関西医科大学）
押切 太郎 教授	（愛媛大学）	日比 泰造 教授	（熊本大学）	渡邊 純 教授	（関西医科大学）
五井 孝憲 教授	（福井大学）	藤井 努 教授	（富山大学）		（五十音順）

特別企画「教授対談」を初開催

当日は、永野教授の熱い志に賛同した13名の教授が全国から下関市民会館に集結しました。本総会では、特別企画として「高校生招待企画 Project for future surgeons. 集え！未来の外科医！ 紡げ！外科医の魂」を開催し、医師の仕事に興味がある高校生を招待しました。これには山口県内および北九州の高校10校から84名の応募があり、そのうちの39名が全国の大学から集まった13名の教授らと対談しました。

消化器外科医の魅力を熱く語る

教授対談では、高校生たちは3名ずつ13のグループに分かれ、1グループに教授1人が席に着き、学生たちと対談しました。普段、大学の教授と話をする機会がほとんどない高校生たちは、消化器外科医の仕事がどういったものか、その仕事内容や魅力、やりがい、奥深さなどについて、教授らに興味深く聞いたり質問したりしていました。

永野浩昭総会会長による挨拶

本学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学講座主催の「第79回日本消化器外科学会総会」を下関市で開催しました。消化器外科医は地域医療の安心・安全を支える重要な役割を担いながらも、医師が不足しているという深刻な現状があります。これを打破するため、本講座の教授であり、本総会会長も務める永野浩昭教授が全国の教授に呼びかけ、本総会に招待した高校生と対談する特別企画を開催しました。

＜教授対談（Meet the Professor）＞

教授対談では、とても気さくにお話をしていただき、進路で迷った時のアドバイスもいただきました。外科医の仕事はとてもやりがいがありそうで興味がわきました。（山口県立宇部高等学校2年）

手技体験をしてみて、外科医は器用さが求められる難しい仕事だと実感し、尊敬の気持ちが高まりました。教授対談では「人とのつながりを大切に」と教えていただきました。（慶進高等学校2年）

外科医は厳しい先生が多いのかなと思っていましたが、実際に参加してみると優しそうな先生ばかりだったので随分イメージが変わりました。（宇部フロンティア大学付属香川高等学校2年）

広告特集
企画・制作 朝日エージェンシー西部

第79回日本消化器外科学会総会 開催記念特集

消化器外科の現状と展望

つどい、つむぐ
Meet up and gather !

つどい、つむぐ
第79回日本消化器外科学会総会を山口で開催

日本消化器外科学会会員をはじめ多くの皆様にご協力いただき、第79回を迎える学会総会（学術集会）を下関の地で開催することができました。今回のテーマ“つどい、つむぐ”（集い、紡ぐ）には、Covid-19を乗り越えて下関に“集い”、これからの将来の消化器外科学の発展のために、未来への言葉を“紡ぎ”、夢への熱い心を“紡ぎ”、そして約2万人の会員を擁する消化器外科学会の会員が、協調し挑戦し続ける想いを“紡いで”いきたい、そんな決意、覚悟が込められています。

3日間にわたって行われた各セッションもそのテーマに沿った内容を厳選。多角的視点から意見をつむぎ、課題の解決に挑む“をスローガンに掲げた特別企画3題をはじめ、異なる専門分野や領域を横断して取り組む「横断的企画」や臓器ごとのシンポジウム、若手外科医のキャリア形成やネットワーク構築を支援するUnder 40委員会によるサージカルセミナーなど多彩なプログラムを展開し、大きな反響をいただきました。そのいくつかを紹介します。

パズセッション
さまざまな世代が少人数で集まり新しいアイデアを生み出すパズセッション

今回新たな試みとして、少人数で自由に発言しながら多様なアイデアを出し合う「パズセッション」を全4回開催しました。「若手が知りたい外科医の本音」という演題に基づき、①働き方改革②ソーシャルメディアを用いた消化器外科のプロモーションは是か非か③若手外科医から見た理想の上司、上司から見た理想の若手外科医④女性消化器外科医のキャリアの形成と育児の二刀流の秘訣、のテーマでフリートークを展開。登壇者には30代、40代の外科医も多く、それぞれの立場から当事者ならではのリアルな声が聞かれました。②のソーシャルメディアがテーマの回では、リアルタイム配信をしながら学会アカウントは賛成ですか？などのアンケートを実施し、その場で集計してフィードバックするという試みも行われました。パズセッションの感想として、「可能性のあるツールだと思うので学会としても推進していきたい」「すごい参考になった」「さっくばらんに意見交換できるいい機会。今後も続けてほしい」などの意見が交わされました。

総会会長特別企画
臓器ごとのエキスパートがこれからの消化器外科学を語る

「集え、紡げ、消化器外科医の未来～臓器ごとのエキスパートがこれからの消化器外科学を語る」をテーマに、消化器外科の次世代を担う外科医が登壇。専門領域のエキスパートとして、がん治療の現状や将来に向けた取り組みなどについて発表を行いました。

- 上部消化管（食道領域）名古屋大学消化器外科学 神田光郎氏：「ロボット支援下食道切除の位置づけ」「食道癌におけるConversion手術」
- 上部消化管（胃領域）大阪大学消化器外科 黒川幸典氏：「胃がん手術のこれまでとこれから」
- 下部消化管領域 名古屋市立大学消化器外科 高橋広城氏：「消化器外科の明るい未来へむけた取り組み」
- 肝臓領域 虎の門病院消化器外科 進藤潤一氏：「巨人の肩に乗り、肝臓外科の歴史を紡ぐ」
- 肝道領域 慶應義塾大学外科 阿部雄太氏：「胆道がん治療の未来」
- 膵臓領域 山口大学大学院消化器・腫瘍外科学 高橋秀典氏：「膵がんに対する術前治療戦略の将来展望」

消化器外科を発展させていくには、最先端の医療機器を扱える若手外科医の育成やチーム医療の実践、外科医を目指す学生を増やすことが必要である。今後、より難易度の高い手術が要求されるようになるが、手術機器や薬物の進歩はそれ以上に著しく、これまで諦めていたような切除不能の胃がんが治癒するようになり、外科医のやり甲斐はますます違いないという言葉や、20年後の世界の肝臓外科臨床を見据え、我々が何をどうやって乗り越えるか、しっかりと見極めて前進したいなどの決意も語られました。

特別企画
地方におけるがん診療 消化器外科医の役割

現代、地方の医療資源が不足しているなか、がん治療の在り方は切実な問題です。そこで、特別企画のひとつに「地方のがん診療はどうあるべきか、理想を求めて」を取り上げ、5人の演者の方々にそれぞれの立場から地方の現状と理想の将来像を語っていただきました。

消化器外科医で厚生労働省 健康・生活衛生局がん疾病対策課の北國大樹氏が、全国のがんの現状やがん診療提供体制の集約化と均てん化などについて。山口県医療行政の立場から山口県健康福祉部の石丸泰隆氏が、山口県のがんの現状やがん対策などについて講演。がん診療を担う消化器内科の立場から富山大学内科学第三講座の林伸彦氏、腫瘍内科の立場から山口大学医学部附属病院腫瘍センターの井岡達也氏が、地方の現状や課題について発表。外科の立場から鳥取大学医学部 消化器・小児外科の坂本照尚氏が、「山陰地方の現状と今後の方向性について考える」という演題で、地方におけるがん診療の質の維持や若手医師リクルートの必要性などを語りました。地方医療に携わる先生方の講演から、人口減少・高齢化が進む地方のがん診療において、「集約化と均てん化」がキーワードになることが再認識されました。

高校生招待企画
「見てみないか、外科医の世界を」未来の外科医を育てるための試み

総会3日目には高校生を招いて、「集え！未来の外科医！紡げ！外科医の魂！」と題するイベントを開催しました。現在、全国各地で外科医の不足、偏在が問題となっているという現実があり、本総会開催地の山口県においても、消化器外科医の不足は深刻な状況です。そこで、地元出身の高校生が消化器外科の魅力にふれ、「消化器外科医になってみたい！」「山口県の医療に携わりたい！」という気持ちを持つことが、この問題を克服するための希望の光になると考え、この企画の開催を決めました。当日は、全国から消化器外科学講座の主任教授13名と、山口県内および北九州市内の高校生39名が参加。「消化器外科医の魅力」についての教授との対談や、サージカルガウンなどを身に着けてリアルな手技体験をするハンズオンセミナーなどを通し、消化器外科医の仕事や思いの一端を伝えることができたのではないかと思います。（談）

2024年7月18日 全員懇親会（海峡メッセ下関）終了後
第79回消化器外科学会総会会長（永野 浩昭教授）と
本総会主催の山口大学消化器・腫瘍外科学講座教室員との集合写真

永野 浩昭 氏
第79回日本消化器外科学会総会 会長
山口大学大学院 医学系研究科
消化器・腫瘍外科学講座 教授

朝日新聞　2024年8月30日発行

閉会式を終えて

2024年07月 日本消化器外科学会　記者会見

医療維新 _ m3.com, 2024年7月19日
レポート 橋本佳子（m3.com編集長）

消化器外科学会公表
消化器外科の明るい未来を達成するためのロードマップ

医療維新

シリーズ　医師偏在・解消の処方箋 »　医療維新

「消化器外科の明るい未来を達成するためのロードマップ」学会公表

消化器外科医減少に歯止め狙う、「頑張る医師が報われる仕組みを」

レポート　2024年7月19日（金）配信 橋本佳子（m3.com編集長）

前の記事

04 「医学生の家庭環境は相当豊か」、調査で明らかに - 鈴木康之・岐阜大学名誉教授に聞く◆Vol.1

日本消化器外科学会は7月18日、4項目から成る「消化器外科の明るい未来を達成するためのロードマップ」と、その実現に向けた「アクション・プラン」を公表した。「一人負け」と言われるほどの消化器外科医の減少がその背景にあり、高度ながん手術の集約化・重点化を進め、これらの手術と救急の手術に対するインセンティブなどを盛り込んだことが特徴だ。インセンティブは働きや努力、仕事のリスクに見合った対価、「頑張る医師が報われる」仕組みづくりを目指す。

今後、NCDデータを分析、集約化・重点化やインセンティブのあり方を検討し、行政等への働きかけを行う予定だ。並行して学会自体も、消化器外科の重要性や魅力を伝える広報やキャリア支援に取り組む。

左から、比企氏、調氏、永野氏

消化器外科医減少に歯止め狙う「頑張る医師が報われる仕組みを」

永野氏は、2009年当時、労働時間の長さ、医療訴訟、賃金の3つが課題になっていたと振り返った。労働時間については、外科医が手術以外に、主に化学療法、緩和、麻酔、集中治療、救急の5分野に関わっているものの、その比率は減り、特定行為研修を受けた看護師や医療クラークなどへのタスク・シフトも進んできたと説明。医療訴訟については、2015年10月からの医療事故調査制度で一定の対応ができるようになったと見る。その意味で消化器外科医を取り巻く環境は改善しつつあるものの、残る課題は賃金など頑張っている人が報われる仕組みづくりにあるとした。

消化器外科の明るい未来を達成するためのロードマップ

日本消化器外科学会は消化器外科医が減少している現状に危機感を持ち、消化器外科の未来に向けての改革を真摯に推し進め、結果として国民に質の高い消化器外科診療を提供できる体制を確かなものにすることを目指して、活動して参ります。

1. **継続可能な消化器外科診療の構築**
   - 一人でも多くの医学部学生や初期研修医に消化器外科の重要性と魅力を伝えるために広報に努めます。
   - 長時間労働の解消のための働き方改革を積極的に推進し、消化器外科医の心と体の健康を守るべく労働環境の改善に努めます。
2. **消化器外科医のキャリア形成の支援**
   - 学びの場や教育ツール及び先進的な医療への参加の機会を提供し、ロボット支援手術などの最新の手術に至るまでの期間を短縮し、早期に自立できるよう支援を行います。
   - 多様な価値観や人生観、働き方を尊重し、男女の均等な活躍を支援します。
   - ライフ・イベントに配慮した働き方や知識・技術・研究のステップアップを支援いたします。
   - 地方で活動する消化器外科医への学びの場や先進的医療への参加の機会を提供し、支援します。
3. **高度ながん手術の集約化・重点化**
   - 医師の健康維持・促進のための働き方改革や術後成績の向上に資する、高度ながん手術に対する合理的な集約化・重点化を目指します。各地域の集約化・重点化施設における研究・教育体制の充実を図ります。
4. **高度ながん手術と救急の手術に対するインセンティブの受領**
   - 高度ながん手術や救急の手術に対応する対価を含め、外科医としての適切なインセンティブを受領できるシステムの構築に向けて、国民から理解を得られるよう努力をいたします。

学会長シリーズ

第79回日本消化器外科学会総会

つどい、つむぐ

会長 永野 浩昭（ながの ひろあき） 氏（山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学講座 教授）

7月17日（水）～19日（金）、山口県下関市で「第79回日本消化器外科学会総会」が開催される。会長を務める山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学講座教授の永野浩昭氏に、抱負と見どころを聞いた。

情報を共有し議論を深め次代につなぐ

テーマは、「つどい、つむぐ」（集い、紡ぐ）としました。新型コロナウイルス感染症の流行の2020年以降、ハイブリッド開催が続きました。オンラインの良さもありますが、会員相互が向き合って情報共有と議論を深める「つどい」の機会は、とても重要です。今回の総会は、原則として現地開催とします。新型コロナが収束し、今回、私たちは山口県下関市に「つどい」、そして、消化器科学の発展のために、未来への提言や熱い思いを「つむぐ」場にしたい。そんな願いを、このテーマに込めました。

医療を巡る環境は、外科医不足や新専門制度に加え、医師の働き方改革の本格スタートなどで、変革の時を迎えています。私が外科医になった頃は開腹手術ばかりで、「Big surgeon, big incision（偉大なる医師は大きな切開の下で手術を行う）」と言われましたが、今は腹腔鏡下、さらにロボット支援下手術が普及し、精緻化も進んでおり、医療技術の発展には目を見張るものがあります。こうした技術は、今後も若い世代が引き継いでくれるでしょう。

無観客のパネルディスカッションを論文に

今回の総会はプログラム内容やテーマの検討や決定を、15人のプログラム委員に委ねています。消化器は上部、下部、肝胆膵と領域が広いので、会長である私の専門や興味に偏らないようにする工夫です。その中で、パネルディスカッションは無観客で行い、できれば論文化したいと思っています。

また、新たに「パズセッション」と銘打った討論のセッションも設けました。世代を超えて、テーマに応じて自由にディスカッションしてもらう企画です。テーマは、若手の関心が高い「働き方改革」「女性外科医」「理想の上司・部下」「ソーシャルメディア」の四つを用意。司会はアナウンサーにお願いし、終了後、オンデマンドで配信します。

さらに、直近に実施した日本消化器外科学会の会員へのアンケート（2023年）における、「自分の子供に消化器外科医になることを勧めるか」という問いに対する回答を見ると、「強くそう思う」「そう思う」を合わせても15％に届きませんでした。これは、私にとって衝撃的な結果でした。「医師の働き方改革元年」に当たり、この総会を外科医のインセンティブを足下から見つめ直す場にしたいと思います。

高校生を招待し医療と外科のやりがいを

山口県内の高校生を招待する企画もあります。11校から約35人が総会に参加する予定で、外科のみならず医療に関心を持ってもらうのが目的です。総会の見学に加え、ガウンを着てハンズオンセミナーで実技を体験したり、教授の話を直接聞いたりする機会も設けます。

山口県は、過疎化や高齢化が進んでいる地域です。医師数自体は全国と同様で増えているものの増加率は全国平均を下回り、若手医師の減少が顕著です。総会に参加した高校生が、経験したことを医療の道に進むモチベーションにしてくれることを期待しています。

本総会が、消化器外科学会会員2万人にとって、「つどい」、語り合い、未来へと「つむぐ」、それを体現できる3日間になればいい、そう思っています。

主なプログラム（予定）

- パズセッション
  （働き方改革、女性外科医、理想の上司・部下、ソーシャルメディア）
- 高校生招待企画

※ シンポジウム、パネルディスカッション（学術関係、疾患別）も予定

会期：7月17日（水）～19日（金）　会場：下関市生涯学習プラザ、海峡メッセ下関、下関市民会館
運営事務局：日本消化器外科学会事務局学術運営室
メール：soukai79@jsgs.or.jp　学会HP：https://jsgs79.jp/

※情報は5月10日現在のものです。開催について最新の情報は学会HPでご確認ください。

中四国医事新報社　2024年5月25日発行

教室関連研究会開催　報告

元の隅稲荷神社（長門市)

第7回　山口消化管内視鏡外科研究会

2024.1.17

特別講演①

座長：永野　浩昭　先生

山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学　教授

最新の下部消化管低侵襲手術治療と周術期治療の進歩

演者：渡邉　純　先生

横浜市立大学付属市民総合医療センター

消化器病センター外科　准教授

特別講演②

座長：濱野　公一　先生

山口大学大学院医学系研究科　器官病態外科学　教授

縦隔鏡下食道切除術における安全性向上を目指した工夫

演者：塩崎　敦　先生

京都府立医科大学　大学院医学系研究科

消化器外科学　講師

第7回　山口県外科専門医育成会議

2024.2.3

総合司会：徳光幸生　先生

開会挨拶：武田　茂　先生

消化器外科専門医取得を目指して

プレゼンター：酒井豊吾　先生

「修練医企画」問題症例検討道場

司会：堤　甲輔　先生

プレゼンター：梅野紘希　先生、原口大希　先生

ビデオクリニック～私のベストビデオ/トラブルシューティング～

プレゼンター：木原ひまわり先生、梅野紘希　先生、金城尚樹　先生

特別講演

座長：前田訓子　先生

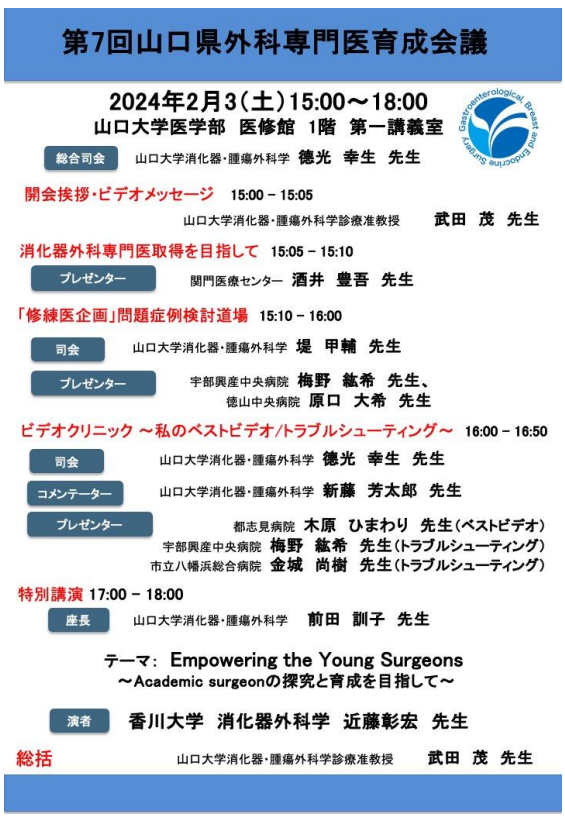
Empowering the Youg Surgeons

～Academic surgeonの探求と育成を目指して～

演者：近藤彰宏　先生

香川大学　消化器外科学講座　助教

総括：武田　茂　先生



第6回　山口食道がん研究会

2024.2.15

基調講演

座長：武田　茂　先生

山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学　診療准教授

山口食道がん研究会アンケート報告

演者　：渡邊　裕策　先生

山口大学大学院医学系研究科　消化器内科学　助教

特別講演

座長：永野　浩昭　先生

山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学　教授

食道がんの低侵襲手術と栄養管理

演者：押切　太郎　先生

愛媛大学大学院医学系研究科　消化管・腫瘍外科学講座　教授

山口消化器癌集学的治療研究会

2024.3.14

特別講演

座長：永野　浩昭　先生

山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学　教授

大腸がん薬物療法トピックス

演者：渡邉　純　先生

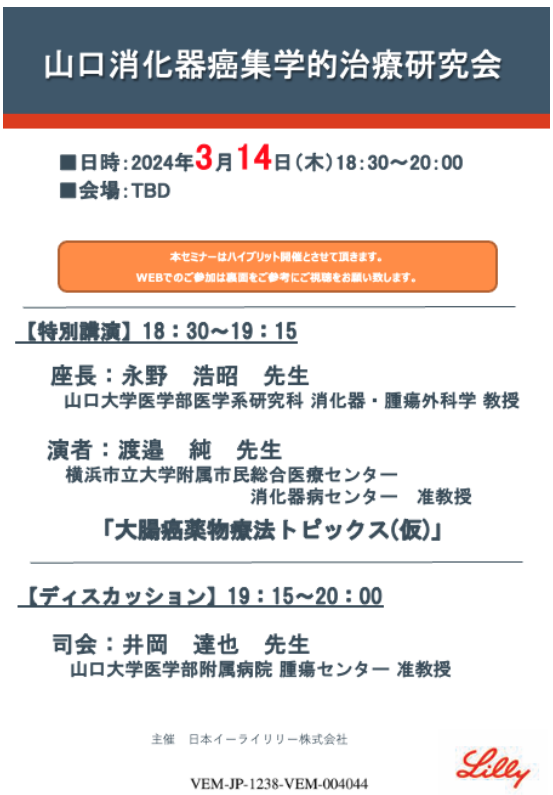
横浜市立大学付属市民総合医療センター

消化器病センター　准教授

ディスカッション

司会：井岡　達也　先生

山口大学医学部附属病院　腫瘍センター　准教授



第13回　山口乳癌研究会

2024.4.24

Session1

司会：濱野　公一　先生

山口大学大学院医学系研究科　器官病態外科学講座　教授

フェスゴ使用経験

演者：藤井　雅和　先生

山口県総合医療センター　外科

Session2

司会：永野　浩昭　先生

山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学　教授

TNBに対する治療戦略/乳がん専門医育成

演者：小泉　圭　先生

浜松医科大学医学部附属病院　乳腺外科　病院講師

第15回　山口膵・胆道疾患研究会

2024.11.6

座長：永野　浩昭　先生

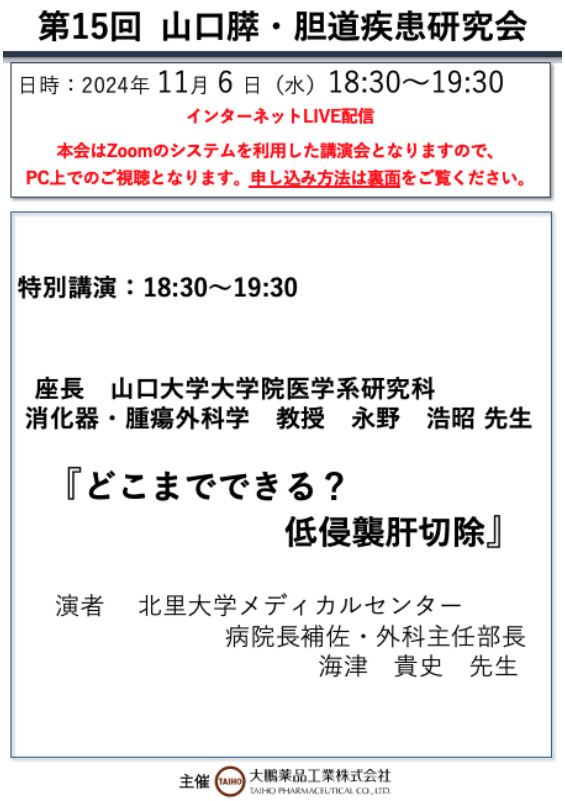
山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学　教授

特別講演

どこまでできる？　低侵襲肝切除

演者：海津　貴史　先生

北里大学メディカルセンター　病院長補佐・外科主任部長



第7回　山口肝移植診療検討会

2024.11.15

特別講演

座長：永野　浩昭　先生

山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学　教授

広島大学病院における肝移植

演者：大段　秀樹　先生

広島大学大学院医学系研究科　消化器外科・移植外科学　教授

第7回 山口肝移植診療検討会

謹啓
時下 先生におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます
さて この度 下記の通り第7回山口肝移植診療検討会を開催させて頂くことになりました
つきましては ご多忙のおり誠に恐縮に存じますが ご参加・ご視聴いただけましたら幸いに存じます
末筆ながら先生の益々のご発展をお祈り申し上げます
謹白

日時　2024年11月15日(金)19:00～20:00

配信　Teams配信（配信会場:国際ホテル宇部）

右の二次元バーコード若しくは下記URLより、
ご施設・お名前・メールアドレスをご記入ください。
ご対応いただきました皆様へ弊社からメールにて
視聴用URLをご案内いたします。

※登録用URLはこちら→https://forms.office.com/r/LH3BC2Swgj

開会挨拶 座長　永野 浩昭 先生
山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学分野 教授

演題　『広島大学病院における肝移植』

演者　大段 秀樹 先生
広島大学大学院医系科学研究科 消化器・移植外科学 教授

主催：アステラス製薬株式会社

＜教室関連研究会＞

肝胆膵外科高度技能医	食道専門医	内視鏡外科技術認定医	癌薬物療法専門医	乳腺専門医	外科専門医
↓	↓	↓	↓	↓	↓
山口膵・胆道疾患研究会	山口食道癌研究会	山口消化管内視鏡外科研究会	山口消化器癌集学的治療研究会	山口乳癌研究会	山口外科専門医育成会議

山口大学臨床外科共同研究会（NPO法人）

2024年　業績報告

須佐ホルンフェス（萩市）

英文論文

1. Eguchi S, Umeshita K, Soejima Y, Eguchi H, Egawa H, Fukumoto T, Haga H, Hasegawa K, Kasahara M, Nagano H, Takada Y, Tokushige K, Ueda Y, Mochida S, Matsushima H, Adachi T, Ohdan H ; Japanese Liver Transplantation Society. An Analysis of 10,000 Cases of Living Donor Liver Transplantation in Japan : Special Reference to the Graft-Versus-Recipient Weight Ratio and Donor Age. Ann Surg. 2024 Jan ; 279(1) 94-103
2. Hirashita T, Ikenaga N, Nakata K, Nakamura M, Kurahara H, Ohtsuka T, Tatsuguchi T, Nishihara K, Hayashi H, Nakagawa S, Ide T, Noshiro H, Adachi T, Eguchi S, Miyoshi A, Kohi S, Nanashima A, Nagano H, Takatsuki M, Inomata M ; Kyushu Study Group of Treatment for Pancreatobiliary Cancer. Prognostic significance of lymph node metastasis in pancreatic tail cancer : A multicenter retrospective study. Ann Gastroenterol Surg. 2024 Jan ; 8(4) 681-690
3. Shindo Y, Tokumitsu Y, Nakajima M, Kimura Y, Matsui H, Iida M, Suzuki N, Takeda S, Ioka T, Nagano H. Laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy. Asian J Endosc Surg. 2024 Jan ; 17(1) e13261
4. Goto A, Ohashi K, Noda M, Noto H, Ueki K, Inoue M, Nishimura R, Takahashi S, Ioka T, Oshima M, Fujibayashi K, Tsuji A, Kodaira M, Tamakoshi A, Mimori K, Tanabe Y, Hara E, Matsuo K, Murakami Y, Watada H. Third Report of the Japan Diabetes Society (JDS) /Japanese Cancer Association (JCA) Joint Committee on diabetes and cancer : summary of the results of a questionnaire survey of oncologists and diabetologists-secondary publication. Diabetol Int. 2024 Jan ; 15(1) 5-18
5. Ikenaga N, Hashimoto T, Mizusawa J, Kitabayashi R, Sano Y, Fukuda H, Nakata K, Shibuya K, Kitahata Y, Takada M, Kamei K, Kurahara H, Ban D, Kobayashi S, Nagano H, Imamura H, Unno M, Takahashi A, Yagi S, Wada H, Shirakawa H, Yamamoto N, Hirono S, Gotohda N, Hatano E, Nakamura M, Ueno M ; on behalf of the Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group in Japan Clinical Oncology Group. A multi-institutional randomized phase III study comparing minimally invasive distal pancreatectomy versus open distal pancreatectomy for pancreatic cancer ; Japan Clinical Oncology Group study JCOG2202 (LAPAN study). BMC Cancer. 2024 Feb ; 24(1) 231
6. Furuya K, Nakajima M, Tsunedomi R, Nakagami Y, Xu M, Matsui H, Tokumitsu Y, Shindo Y, Watanabe Y, Tomochika S, Maeda N, Iida M, Suzuki N, Takeda S, Hazama S, Ioka T, Hoshii Y, Ueno T, Nagano H. High serum proteinase-3 levels predict poor progression-free survival and lower efficacy of bevacizumab in metastatic colorectal cancer. BMC Cancer. 2024 Feb ; 24(1) 165
7. Zheng H, Tsunedomi R, Xu M, Zhang Y, Kishi H, Kobayashi S, Tomochika S, Nakajima M, Matsui H, Tokumitsu Y, Shindo Y, Iida M, Ioka T, Nagano H. Effect of Paxillin Expression and Phosphorylation on Colorectal Cancer Prognosis and Metastasis. Anticancer Res. 2024 Feb ; 44(2) 511-520
8. Kondo J, Yoshino S, Iida M, Takeda S, Nakashima C, Watanabe Y, Nishiyama M,Tokumitsu Y, Shindo Y, Nishimura T, Suzuki N, Hoshii Y, Itoh H, Nagano H. Effects of Extended Fixation on Advanced Gastric Cancer HER2 Status Assessment Using IHC and FISH. Anticancer Res. 2024 Feb ; 44(2) 621-630
9. Kunimune Y, Suehiro Y, Saeki I, Yamauchi Y, Tanabe N, Matsumoto T, Higaki S, Fujii I, Suzuki C, Okayama N, Nishioka M, Ichihara K, Nagano H, Sakaida I, Takami T, Yamasaki T. Combination Assay of Methylated HOXA1 with Tumor Markers Shows High Sensitivity for Detection of Early-Stage Hepatocellular Carcinoma. Liver Cancer. 2024 Feb ; 13(5) 487-497
10. Goto A, Ohashi K, Noda M, Noto H, Ueki K, Inoue M, Nishimura R, Takahashi S, Ioka T, Oshima M, Fujibayashi K, Tsuji A, Kodaira M, Tamakoshi A, Mimori K, Tanabe Y, Hara E, Matsuo K, Murakami Y, Watada H. Third Report of the Japan Diabetes Society /Japanese Cancer Association Joint Committee on Diabetes and Cancer: Summary of the results of a questionnaire survey of oncologists and diabetologists-Secondary publication. Cancer Sci. 2024 Feb ; 115(2) 672-681
11. Akahoshi K, Shindoh J, Tanabe M, Watanabe S, Takamizawa H, Eguchi S, Endo I, Kubo S, Taketomi A, Nagano H, Nakamura M, Hasegawa K, Hatano E, Yoshizumi T, Kokudo N. Questionnaire survey of Japanese board-certified expert hepatobiliary and pancreatic surgeons and instructors on the surgical indications for hepatocellular carcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Mar ; 31(3) 143-151

12. Akahoshi K, Shindoh J, Tanabe M, Ariizumi S, Eguchi S, Okamura Y, Kaibori M, Kubo S, Shimada M, Taketomi A, Takemura N, Nagano H, Nakamura M, Hasegawa K, Hatano E, Yoshizumi T, Endo I, Kokudo N. Oncological Resectability Criteria for Hepatocellular Carcinoma in the Era of Novel Systemic Therapies : The Japan Liver Cancer Association and Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery Expert Consensus Statement 2023. Liver Cancer. 2024 Mar ; 13(6) 579-589
13. Nakamura N, Hasebe S, Yamanaka S, Fujii T, Fujibuchi T, Kitani T, Takeuchi K, Sato Y, Shindo Y, Ozaki T, Nishisho T, Tabata M, Yakushijin Y. Treatments and prognostic factors for bone and soft tissue sarcoma in non-urban areas in Japan. Int J Clin Oncol. 2024 Mar ; 29(3) 345-353
14. Hirono S, Higuchi R, Honda G, Nara S, Esaki M, Gotohda N, Takami H, Unno M, Sugiura T, Ohtsuka M, Shimizu Y, Matsumoto I, Kin T, Isayama H, Hashimoto D, Seyama Y, Nagano H, Hakamada K, Hirano S, Nagakawa Y, Mizuno S, Takahashi H, Shibuya K, Sasanuma H, Aoki T, Kohara Y, Rikiyama T, Nakamura M, Endo I, Sakamoto Y, Horiguchi A, Hatori T, Akita H, Ueki T, Idichi T, Hanada K, Suzuki S, Okano K, Maehira H, Motoi F, Fujino Y, Tanno S, Yanagisawa A, Takeyama Y, Okazaki K, Satoi S, Yamaue H. Is multidisciplinary treatment effective for invasive intraductal papillary mucinous carcinoma? Ann Gastroenterol Surg. 2024 Mar ; 8(5) 845-859
15. Iida M, Takeda S, Yamamoto T, Nakashima C, Nishiyama M, Watanabe Y, Shindo Y, Tokumitsu Y, Tomochika S, Nakagami Y, Takahashi H, Nagano. Risk factors for infectious complications after gastrectomy in older patients. Exp Ther Med. 2024 Jun ; 28(2) 319
16. Ohira M, Aoki G, Orihashi Y, Yoshimura K, Toshima T, Hatano E, Eguchi S, Hibi T, Hasegawa K, Umeda Y, Hashimoto T, Hasegawa Y, Nobori S, Ogura Y, Nitta H, Egawa H, Eguchi H, Takada Y, Ueda Y, Kasahara M, Kawachi S, Soejima Y, Tokushige K, Nagano H, Haga H, Fukumoto T, Mochida S, Umeshita K, Ohdan H ; Japanese Liver Transplantation Society. Japanese living donor liver transplantation criteria for hepatocellular carcinoma : nationwide cohort study. BJS Open. 2024 Jul ; 8(4) zrae079
17. Yabushita Y, Park JS, Yoon YS, Ohtsuka M, Kwon W, Choi GH, Imamura M, Matsumoto I, Mizuno S, Matsuyama R, Sakata J, Hayashi H, Takeda Y, Katagiri S, Sugawara T, Kobayashi S, Kawasaki Y, Nagano H, Murase K, Kim HS, Nah YW, Jang JY, Yamaue H, Yoon DS, Yamamoto M, Choi D, Nakamura M, Kim KH, Endo I. Conversion surgery for initially unresectable locally advanced biliary tract cancer : A multicenter collaborative study conducted in Japan and Korea. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Jul ; 31(7) 481-491
18. Shindo Y, Ioka T, Tokumitsu Y, Matsui H, Nakajima M, Kimura Y, Watanabe Y,Tomochika S, Nakagami Y, Tsunedomi R, Iida M, Takahashi H, Nagano H. Safety and Feasibility of Neoadjuvant-Modified FOLFIRINOX in Elderly Patients with Pancreatic Cancer. Cancers (Basel). 2024 Jul ; 16(14) 2522
19. Tokuhisa A, Tsunedomi R, Kimura Y, Nakajima M, Nishiyama M, Takahashi H, Ioka T, Kobayashi S, Eguchi H, Nagano H. Exosomal miR-141-3p Induces Gemcitabine Resistance in Biliary Tract Cancer Cells. Anticancer Res. 2024 Jul ; 44(7) 2899-2908
20. Matsui H, Ioka T, Takahashi T, Kawaoka T, Maeda Y, Yahara N, Kubo H, Nishimura T, Inokuchi T, Harada E, Shindo Y, Tokumitsu Y, Nakajima M, Takami T, Ito K, Tanaka H, Hamano K, Nagano H. Multicenter Prospective Cohort Study of Neoadjuvant Chemotherapy for Borderline Resectable Pancreatic Cancer (YPB-001). Pancreas. 2024 Jul ; 53(6) e501-e512
21. Hibi T, Yamamoto H, Miyoshi T, Ikeda N, Taketomi A, Ono M, Toi M, Hara H, Nagano H, Kitagawa Y, Mori M. Impact of the coronavirus disease 2019 pandemic on 20 representative surgical procedures in Japan based on the National Clinical Database : annual surveillance of 2021 by the Japan Surgical Society. Surg Today. 2024 Jul ; 54(7) 751-762
22. Kobayashi S, Tomokuni A, Takeda Y, Wada H, Katsura Y, Hashimoto K, Tomimaru Y, Asaoka T, Yamada T, Tsujie M, Noda T, Morita S, Nagano H, Mori M, Doki Y, Eguchi H ; Clinical Study Group of Osaka University, Hepato-Biliary-Pancreatic Group. Exploratory prospective, randomized phase II study of neoadjuvant transcatheter arterial chemoembolization plus surgery versus surgery alone for large hepatocellular carcinoma (CSGO-HBP-005) : Clinical Study Group of Osaka University, Hepato-Biliary-Pancreatic Group. Hepatol Res. 2024 Jul ; 54(7) 667-677

23. Nishiyama M, Takeda S, Watanabe Y, Iida M, Yamamoto T, Nakashima C, Matsui H, Shindo Y, Tokumitsu Y, Tomochika S, Ioka T, Nagano H. Conversion surgery for initially unresectable locally advanced biliary tract cancer : A multicenter collaborative study conducted in Japan and Korea. In Vivo. 2024 Jul-Aug ; 38(4) 1790-1798
24. Ohta K, Sakoda Y, Adachi K, Shinozaki T, Nakajima M, Yasuda H, Nagano H, Tamada K. Therapeutic Efficacy of IL7/CCL19-Expressing CAR-T Cells in Intractable Solid Tumor Models of Glioblastoma and Pancreatic Cancer. Cancer Res Commun. 2024 Sep ; 4(9) 2514-2524
25. Fujiwara N, Tsunedomi R, Kimura Y, Nakajima M, Tomochika S, Enjoji S, Ohama T, Sato K, Nagano H. Protein phosphatase 6 promotes stemness of colorectal cancer cells. Cancer Sci. 2024 Sep ; 115(9) 3067-3078
26. Nakashima C, Iida M, Nishiyama M, Watanabe Y, Shindo Y, Tokumitsu Y, Tomochika S, Nakagami Y, Takahashi H, Nagano H. Impact of infectious complications after gastrectomy on non-gastric cancer-related deaths. Oncol Lett. 2024 Sep ; 28(6) 562
27. Imaoka H, Sasaki K, Machida R, Nagano H, Satoi S, Ikeda M, Kobayashi S, Yamashita T, Okusaka T, Ido A, Hatano E, Miwa H, Ueno M, Nakao K, Shimizu S, Kuramochi H, Sakamori R, Tsumura H, Okano N, Shioji K, Shirakawa H, Akutsu N, Tsuji K, Ishii H, Umemoto K, Asagi A, Ueno M ; JCOG Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group. Current status of the cost burden of first-line systemic treatment for patients with advanced hepatocellular carcinoma in Japan, 2021-22. Jpn J Clin Oncol. 2024 Oct ; 54(10) 1071-1077
28. Mazaki J, Umezu T, Saito A, Katsumata K, Fujita K, Hashimoto M, Kobayashi M, Udo R, Kasahara K, Kuwabara H, Ishizaki T, Matsubayashi J, Nagao T, Hazama S, Suzuki N, Nagano H, Tanaka T, Tsuchida A, Nagakawa Y, Kuroda M. Novel Artificial Intelligence Combining Convolutional Neural Network and Support Vector Machine to Predict Colorectal Cancer Prognosis and Mutational Signatures From Hematoxylin and Eosin Images. Mod Pathol. 2024 Oct ; 37(10) 100562
29. Okamura A, Watanabe M, Okui J, Kuriyama K, Shiraishi O, Kurogochi T, Abe T, Sato H, Miyata H, Kawaguchi Y, Sato Y, Nagano H, Takeno S, Nakajima M, Matsuo K, Murakami K, Takebayashi K, Matsumoto S, Okumura T, Kakeji Y, Kono K, Oridate N, Toh Y, Takeuchi H, Katori Y ; Joint Research between the Japan Broncho-esophagological Society and the Japan Esophageal Society Esophagectomy for esophageal cancer in patients with a history of total pharyngolaryngectomy : a Japanese nationwide retrospective cohort study. Esophagus. 2024 Oct ; 21(4) 438-446
30. Suzuki N, Shindo Y, Nakajima M, Tsunedomi R, Nagano H. Current status of vaccine immunotherapy for gastrointestinal cancers. Surg Today. 2024 Nov ; 54(11) 1279-1291
31. Inoue Y, Ishiguro A, Suehiro Y, Kunimune Y, Yamaoka Y, Hashimoto S, Nakamura K, Goto A, Hamabe K, Matsumoto T, Tomochika S, Higaki S, Fujii I, Suzuki C, Koga M, Tsutsumi T, Lim LA, Matsubara Y, Yotsuyanagi H, Nagano H, Yamamoto N, Sakaida I, Takami T, Nishioka M, Yamasaki T. A novel index combining fecal immunochemical test, DNA test, and age improves detection of advanced colorectal adenoma. Cancer Sci. 2024 Nov ; 115(11) 3682-3694
32. Mitsunaga S, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Todaka A, Yamamoto N, Kamata K, Yanagibashi H, Mizuno N, Kawamoto Y, Gotoh K, Shirakawa H, Okano N, Nomura T, Tanaka K, Takahashi A, Yagi S, Ohta K, Takayama Y, Miwa H, Nagano H, Kojima Y, Hisano T, Tahara M, Sakuma Y, Arai H, Nakamura I, Katayama H, Konishi M, Ueno M ; Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HBPOG). 5-Fluorouracil metabolic pathway genes predict recurrence risk following adjuvant S-1 therapy : Results of an ancillary analysis from a phase III trial of resected biliary tract cancer (JCOG1202A1). J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Dec ; 31(12) 886-896
33. Sadamori H, Hasegawa K, Oba A, Kato Y, Soejima Y, Monden K, Umeda Y, Abe Y, Ko S, Saiura A, Ohtsuka M, Kubo S, Shirabe K, Nagano H, Fujiwara T, Nakamura M, Endo I. Short - and long - term outcomes of liver resection with hepatic vein reconstruction for liver tumors : A nationwide multicenter survey. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Dec ; 31(12) 863-875

34. Kobayashi S, Wada H, Sakai D, Baba H, Kanai M, Kamachi H, Takayama T, Ueno M, Takahashi M, Sho M, Yoshimura K, Hatano E, Nagano H, Ioka ; Kansai Hepato-Biliary Oncology (KHBO) Group. Impact of Tumor Shrinkage Pattern with Biweekly Triplet Gemcitabine + Cisplatin + S-1 Regimen for Biliary Tract Cancers : Implications for Neoadjuvant Therapy from the Data of KHBO1401 (KHBO1401-1A Study). Oncology. 2024 ; 102(6) 447-456

和文論文

1. 飯田通久、永野浩昭　学会だより第78回日本消化器外科学会総会　臨牀消化器内科　2024　第39巻　第1号　2023年12月　74
2. 新藤芳太郎、永野浩昭　膵癌　がん治療YearBook Key Reference 2022-2023　2024年4月　63-75
3. 井岡達也　がん治療認定医試験・がん関連試験対策腫瘍学問題集　第10版第1刷　第10版分担編著者　2024年7月
4. 井岡達也　Ⅰ．胆道癌に対する周術期補助化学療法①本邦と欧米における現況　臨牀消化器内科〔8月増刊号〕　第39巻　第9号　2024年8月　1090-1093
5. 井岡達也　Ⅰ．胆道癌に対する周術期補助化学療法②今後の展望　臨牀消化器内科〔8月増刊号〕　第39巻　第9号　2024年8月　1094-1098
6. 松井洋人、永野浩昭　肝切除　改訂6版　必ず役立つ！肝炎診療バイブル研修医・レジデント必携　2024年10月　290-297
7. 恒富亮一、中島正夫、木村祐太、小佐々貴博、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、飯田通久、井岡達也、髙橋秀典、永野浩昭　肝がんにおける免疫逃避的腫瘍微小環境　リンパ学　第47巻　第2号　2024年12月　98-103

国際学会発表・司会

APASL 2024 Kyoto -The Center of Hepatology-The 33rd Annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Hybrid Style Meeting) 2024/3/27-3/31

1. Nakajima M, Tokumitsu Y, Shindo Y, Matsui H, Kimura Y, Tomochika S, Kanesada K, Iida M, Watanabe Y, Takeda S, Ioka T, Nagano H. Neoadjuvant FOLFOXIRI therapy for patients with colorectal liver metastasis. Oral
2. Tokumitsu Y, Shindo Y, Matsui H, Nakajima M, Kimura Y, Watanabe Y, Tomochika S, Iida M, Takeda S, Ioka T, Nagano H. Surgical techniques of liver parenchymal transection in robot-assisted liver resection. Oral Symposium
3. Kunimune Y, Suehiro Y, Saeki I, Yamauchi Y, Tanabe N, Matsumoto T, Okayama N, Nishioka M, Ichihara K, Nagano H, Takami T, Yamasaki T. Combination Assay of Methylated HOXA1 with Tumor Markers Shows High Sensitivity for Early-Stage HCC. Poster

The Asian Pacific Association for the Study of the Liver APASL Oncology 2024 2024/9/24-9/25

1. Nagano H. Poster Session 8 : Surgical Resection, Transplantation, and Local Therapy (1). Poster Session

ILLS Single Topic Conference in Kyoto 2024 2024/10/1-10/2

1. Nagano H. Mini Oral 13　Parenchymal Dissection in MILR 3. Mini Oral

国内学会・研究会　発表・司会

第100回大腸癌研究会学術集会　1/25-1/26　東京　浜松町コンベンションホール

1. 小佐々貴博、友近　忍、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、前田訓子、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　当科での S状結腸癌・ RS直腸癌に対する腹腔鏡下手術における　示説
2. 北川集士、吉松和彦、伊藤嘉智、兼定　航、田中宏典、東田正陽、岡田敏正、遠藤俊治、藤原由規、上野富雄　進行下部直腸癌に対する術前化学放射線療法後の根治手術における側方リンパ節郭清省略の妥当性について　示説

第44回九州肝臓外科研究会学術集会　1/27　福岡　大塚製薬 グループビル7F 会議室

1. 永野浩昭　主題1 標準術式としての腹腔鏡下肝切除術　(1)　内視鏡外科学会技術認定医への挑戦　主題　司会
2. 木村祐太、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、中島正夫、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　鏡視下肝切除における胆嚢牽引法を用いた右葉系グリソン一括確保　主題
3. 中島正夫、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　ロボット支援下肝切除における Pringle 法施行の方法　症例報告・一般演題
4. 徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、中島正夫、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　教室におけるロボット支援下肝切除の導入　主題

第16回日本ロボット外科学会学術集会　2/10-2/11　米子コンベンションセンター/米子市文化ホール

1. 中島正夫、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　教室における肝細胞癌に対するロボット支援下肝部分切除の導入と安全性の検討　一般口演
2. 徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、中島正夫、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、鈴木伸明、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　教室におけるロボット支援下肝切除時の緊急ロールアウトシミュレーションと実際の手技　ポスター

第21回日本臨床腫瘍学会学術集会　JSMO2024（ハイブリッド開催）2/22-2/24　愛知　名古屋国際会議場

1. 田島邦彦、井岡達也、木村祐太、中島正夫、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、高見太郎、沖田　極、永野浩昭　アテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法後，肝切除をおこない病理学的完全奏功 （pCR） が得られた多発進行肝細胞癌の１例　Poster Session
2. 上田華昌子、原田俊夫、千々松日香里、田島邦彦、井岡達也、松尾義哉、三好正規　中小規模病院でがん薬物療法の専門性を上げる取り組み　Poster Session
3. 松井洋人、井岡達也、徳光幸生、新藤芳太郎、中島正夫、木村祐太、田島邦彦、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、鈴木伸明、武田　茂、永野浩昭　Assessment of Frailty in Patients with UR-M and Recurrent Pancreatic Cancer in Our Department　Poster Session
4. 井岡達也、永野浩昭、波多野悦朗　日本における胆道癌薬物治療の進歩（一次化学療法）シンポジウム
5. 井岡達也　胆道・膵臓癌　教育講演

第52回中国四国甲状腺外科研究会　2/17　広島　広島大学凌雲棟　（広島大学霞キャンパス内）

1. 前田訓子　一般演題5　手術手技　一般演題　座長

第96回日本胃癌学会総会　2/28-3/1　京都　京都市勧業館みやこめっせ　ロームシアター京都

1. 永野浩昭　一般口演A11　高齢者胃癌2　一般口演　座長
2. 飯田通久、武田　茂、山本常則、中島千代、西山光郎、渡邊裕策、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、井岡達也、永野浩昭　当院における十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術 （LECS）　一般ビデオ
3. 中島千代、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、山本常則、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、井岡達也、永野浩昭　Hemi-double stapling method と比較したデルタ吻合の手術成績の検討　一般口演
4. 山本常則、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、前田訓子、鈴木伸明、井岡達也、永野浩昭　ASA-PS3 以上の高齢者に対する胃癌手術の治療成績　一般口演

第60回日本腹部救急医学会総会　3/21-22　福岡　西日本総合展示場新館　AIM

1. 永野浩昭　一般演題83　肝嚢胞、肝動脈瘤　一般演題　コメンテーター
2. 徳光幸生　研修医・学生発表演題11　胆嚢２　研修医・学生発表演題　司会

3. 西田裕紀、前田訓子、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
キャリア形成時期にある医師共働き家庭における臨床・研究・育児の質を保つための工夫　学会特別企画

第124回日本外科学会定期学術集会　（ハイブリッド開催）　4/18-4/20　愛知　AICHI SKY EXPO

1. 永野浩昭　知っておきたい外科学の最新トピックス19　【肝臓】　司会
2. 武田　茂　ポスターセッション（70）　胃-合併症-1　ポスターセッション　司会
3. 兼定　弦、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、中島千代、山本常則、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、前田訓子、鈴木伸明、井岡達也、永野浩昭　当科での胃癌に対する胃切除後の脂肪肝の発症と経時的変化の検討
ポスターセッション
4. 前田訓子、鍋屋まり、周山理紗、長島由紀子、飯田通久、武田　茂、山本　滋、永野浩昭
75 歳以上の高齢者に対する周術期薬物療法の検討　ポスターセッション
5. 武田　茂、飯田通久、渡邊裕策、西山光郎、中島千代、山本常則、松井洋人、徳光幸生、新藤芳太郎、友近　忍、鈴木伸明、井岡達也、永野浩昭　食道癌術前化学療法における栄養介入によるサルコペニアの予防　ポスターセッション
6. 山本常則、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、中島千代、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、鈴木伸明、井岡達也、永野浩昭　Propensity score matching を用いたASA-PS3 以上の高齢胃癌患者の術後成績の検討　ポスターセッション
7. 西山光郎、武田　茂、渡邊裕策、飯田通久、中島千代、山本常則、松井洋人、前田訓子、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、鈴木伸明、井岡達也、永野浩昭　進行食道癌における NAC-DCF 中の身体機能の影響評価　ポスターセッション
8. 藤原康弘、鈴木伸明、友近　忍、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
教室における局所進行直腸癌に対する術前化学療法の短期治療成績　ポスターセッション
9. 堤　甲輔、新藤芳太郎、徳光幸生、松井洋人、中島正夫、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、鈴木伸明、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　膵切除術式別による新規糖尿病発症の検討　ポスターセッション
10. 山本　滋、爲佐路子、梶山實香、山谷優明、原口大希、鈴木有十夢、松隈　聰、得能和久、河岡　徹、長島由紀子、周山理紗、前田訓子、永野浩昭　SLN 転移陽性で腋窩リンパ節郭清を省略した乳房全切除術施行症例の検討　ポスターセッション
11. 中島千代、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、山本常則、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、前田訓子、井岡達也、永野浩昭　ESD 後非治癒切除となった胃癌の追加切除後の治療成績　ポスターセッション
12. 飯田通久、武田　茂、山本常則、中島千代、渡邊裕策、西山光郎、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、井岡達也、永野浩昭
高齢者に対する胃切除後合併症のリスクファクター　ポスターセッション
13. 濵﨑太郎、中島正夫、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、鈴木伸明、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　大腸癌多発肝転移に対する腹腔鏡下多部位非系統的肝切除術の適応と治療成績　ポスターセッション
14. 渡邊裕策、武田　茂、飯田通久、西山光郎、中島千代、山本常則、鈴木伸明、友近　忍、新藤芳太郎、徳光幸生、松井洋人、井岡達也、永野浩昭　食道癌に対する術前化学療法後の早期再発リスク因子の探索　ポスターセッション
15. 西田裕紀、新藤芳太郎、木村祐太、中島正夫、徳光幸生、松井洋人、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、鈴木伸明、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　膵癌に対する審査腹腔鏡の臨床的意義　ポスターセッション
16. 松井洋人、新藤芳太郎、山田大作、徳光幸生、中島正夫、髙橋秀典、小林省吾、江口英利、井岡達也、永野浩昭
離散 Bayes 識別則を用いた膵頭十二指腸切除術後膵液瘻の新規術前リスク予測モデル　サージカルフォーラム
17. 小佐々貴博、鈴木伸明、友近　忍、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、前田訓子、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　S 状結腸癌・ Rs 直腸癌に対する腹腔鏡下 S 状結腸・直腸切除（D3）の左結腸動脈温存の意義に関する検討
ポスターセッション
18. 永坂岳司、稲田　涼、渡邊裕策、田中宏典、兼定　航、矢野修也、吉松和彦、横田　満、鶴田　淳、上野富雄、山辻知樹、猶本良夫　Liquid Biopsy 2.0―メチル化 DNA 検出による原発巣変異情報を用いない大腸癌スクリーニングと術後再発予測
ワークショップ

第110回日本消化器病学会総会　5/9-5/11　徳島　アスティとくしま・徳島文理大学

1. 佐伯一成、山﨑隆弘、永野浩昭、岩佐元雄、田守昭博、能祖一裕、加川建弘、谷　丈二、末廣　寛、高見太郎
進行肝細胞癌治療におけるメチル化 SEPT9 リキッドバイオプシーの予後予測マーカーとしてのインパクト　ワークショップ

第33回日本癌病態治療研究会　5/16-5/17　佐賀　唐津シーサイドホテル

1. 永野浩昭　一般口演4　肝胆膵：臨床　司会
2. 中島正夫、恒富亮一、小佐々貴博、玉田耕治、坂元亨宇、齋藤　彰、山本常則、木村祐太、徳光幸生、硲　彰一、井岡達也、永野浩昭　新規複合免疫製剤を用いた肝細胞癌の腫瘍免疫原性向上の試み　シンポジウム

3. 恒富亮一、兼定　弦、中島正夫、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　遺伝子多型による膵癌化学療法の副作用予測　一般口演

第45回癌免疫外科研究会　5/23-5/24　神奈川　ワークピア横浜

1. 永野浩昭　基礎研究3　座長
2. 小佐々貴博、中島正夫、恒富亮一、木村祐太、徳光幸生、玉田耕治、坂元亨宇、齋藤　彰、硲　彰一、井岡達也、永野浩昭　新規複合免疫製剤による肝細胞癌の腫瘍免疫原性向上の試み　主題
3. 中島正夫、恒富亮一、小佐々貴博、木村祐太、飯田通久、玉田耕治、硲　彰一、井岡達也、永野浩昭　新規複合免疫製剤による肝細胞癌腫瘍免疫原性向上の試み　基礎研究

第97回日本超音波医学会学術集会　5/31-6/2　神奈川　神奈川パシフィコ横浜

1. 周山理紗、伊藤吾子、前田訓子、鍋屋まり、飯田通久、武田　茂、永野浩昭　その腋窩腫瘤はリンパ節転移？それとも…　ワークショップ

第49回日本外科系連合学会学術集会　6/5-6/7　東京　ホテルグランドヒル市ヶ谷

1. 徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、中島正夫、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　教室におけるロボット支援下肝切除の段階的導入と今後の展望　シンポジウム
2. 兼定　航、吉松和彦、伊藤嘉智、矢野修也、田中宏典、北川集士、上野　綸、東田正陽、岡田敏正、遠藤俊治、藤原由規、上野富雄　進行下部直腸癌に対する術前化学放射線療法後の根治手術における側方リンパ節郭清の省略の妥当性について　パネルディスカッション
3. 西田裕紀、飯田通久、山本常則、中島千代、西山光郎、渡邊裕策、武田　茂、松井洋人、徳光幸生、新藤芳太郎、友近　忍、井岡達也、永野浩昭　当院における十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術 （LECS）　一般演題
4. 兼定　弦、友近　忍、田中宏典、藤原康弘、西山光郎、松井洋人、徳光幸生、新藤芳太郎、渡邊裕策、前田訓子、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　Pembrolizumab 不応の MSI-high 横行結腸癌に対してFOLFOXIRI+BEV で pCR を得られた 1例　一般演題

第42回日本肝移植学会学術集会　6/7-6/8　東京　浜松町コンベンションホール& Hybrid スタジオ

1. 永野浩昭　ワークショップ3　生体ドナー術後の問題点　座長

第78回手術手技研究会　6/7-6/8　福岡　アクロス福岡

1. 藤原康弘、友近　忍、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　直腸癌手術における ICG 蛍光法・蛍光尿管カテーテルの有用性　サージカルフォーラム
2. 新藤芳太郎、徳光幸生、松井洋人、中島正夫、木村祐太、井岡達也、永野浩昭　局所進行膵癌に対する血管合併切除再建の工夫と成績　サージカルフォーラム

第48回日本リンパ学会総会　（ハイブリッド開催）　6/7-6/8　宮城　仙台ガーデンパレス

1. 恒富亮一、中島正夫、木村祐太、小佐々貴博、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、井岡達也、永野浩昭　肝がんにおける免疫逃避的腫瘍微小環境　シンポジウム

第121回日本消化器病学会中国支部例会日本消化器病学会中国支部第39回教育講演会　6/8-6/9
鳥取　鳥取米子コンベンションセンター

1. 永野浩昭　ワークショップ　高度進行消化器がんに対する集学的治療　司会
2. 井岡達也　第39回教育講演会　膵癌の集学的治療；最新のエビデンスを紐解く 教育講演会　講師

第60回日本肝臓学会総会　6/13-6/14　熊本　熊本城ホール

1. 永野浩昭　ミニワークショップ2　肝がん　司会
2. 永野浩昭　ランチョンセミナー18　司会
3. 井岡達也、永野浩昭、波多野悦朗　多施設共同研究により胆道癌のエビデンスを日本から創出する　ワークショップ

第46回日本癌局所療法研究会　6/21　滋賀　長浜文化芸術会館・グランドメルキュール　琵琶湖リゾート&スパ

1. 矢ヶ部朗、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、中島正夫、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　腎細胞癌膵転移を併存した膵癌の一例　一般演題

第33回日本がん転移学会学術集会・総会　6/27-6/28　奈良　奈良春日野国際フォーラム　甍～I・RA・KA～

1. 永野浩昭　ワークショップ1　発癌～転移とバイオマーカー　座長
2. 西田裕紀、古谷　圭、中島正夫、恒富亮一、木村祐太、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、井岡達也、永野浩昭　Proteinase-3 の血清レベルは転移性大腸癌患者に対するベバシズマブの治療抵抗性マーカーとなり得る　ワークショップ
3. 恒富亮一、木村祐太、中島正夫、西山光郎、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、井岡達也、永野浩昭　Cancer stem-like cells の抗癌剤耐性に対するRAB 遺伝子を介したエクソソームの影響　ワークショップ

第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会　6/28-6/29　広島　広島国際会議場

1. Nagano H　Workshop9　Defining borderline resectable (BR) and unresectable (UR) in biliary tract cancer　Moderators
2. Nagano H　Luncheon Seminar13　The Value of Oncological Resectability Criteria for Hepatocellular Carcinoma　Moderators
3. Takahashi H　Mini-Workshop4　Pancreatic Cancer Treatment in Octogenarians3　Moderators
4. Tokumitsu Y　Mini-Oral40　Liver11　Moderators
5. Nara S, Ioka T, Okusaka T, Aoki S, Ozaka M, Unno M, Ikenaga N, Nakamura M, Gotohda N, Hatano E, Ueno M Phase III trials on novel surgical treatment strategies for biliary and pancreatic cancers: Insights from the Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group Educational Symposium
6. Akahoshi K, Shindoh J, Tanabe M, Ariizumi S, Eguchi S, Okamura Y, Kaibori M, Kubo S, Shimada M, Taketomi A, Takemura N, Nagano H, Nakamura M, Hasegawa K, Hatano E, Yoshizumi T, Endo I, Kokudo N Proposal Process of Oncological Resectability Criteria for Hepatocellular Carcinoma in the Era of Novel Systemic Therapies Workshop
7. Nakajima M, Tokumitsu Y, Shindo Y, Matsui H, Kimura Y, Watanabe Y, Tomochika S, Iida M, Takeda S, Ioka T, Nagano H Preoperative FOLFOXIRI therapy for patients with borderline resectable colorectal liver metastases. Oral
8. Kimura Y, Tokumitsu Y, Shindo Y, Matsui H, Nakajima M, Tomochika S, Iida M, Takeda S, Ioka T, Nagano H The laparoscopic approach to secure the cystic plate as the landmark of gallbladder dissection for suspected gallbladder cancer Video Workshop
9. Tokumitsu Y, Shindo Y, Matsui H, Nakajima M, Kimura Y, Watanabe Y, Tomochika S, Iida M, Takeda S, Ioka T, Nagano H Surgical techniques of liver parenchymal transection in robot-assisted liver resection Video Workshop
10. Matsui H, Shindo Y, Tokumitsu Y, Nakajima M, Kimura Y, Watanabe Y, Tomochika S, Iida M, Takeda S, Ioka T, Nagano H Outcomes of Conversion Surgery for unresectable pancreatic cancer in our department Oral
11. Shindo Y, Tokumitsu Y, Matsui H, Nakajima M, Kimura Y, Ioka T, Nagano H The significance of neoadjuvant chemotherapy for biological borderline resectable pancreatic cancer Oral

第78回日本食道学会学術集会　7/4-7/5　東京　ステーションコンファレンス東京

1. 武田　茂、飯田通久、渡邊裕策、西山光郎、中島千代、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、井岡達也、永野浩昭　頸部食道癌に対する治療成績の検討　一般演題　ポスター
2. 渡邊裕策、武田　茂、西山光郎、飯田通久、中島千代、山本常則、徳光幸生、新藤芳太郎、井岡達也、永野浩昭　当科における食道癌周術期治療成績　一般演題　ポスター
3. 西山光郎、武田　茂、渡邊裕策、飯田通久、中島千代、山本常則、徳光幸生、友近　忍、井岡達也、永野浩昭　食道切除術後早期の体重減少が長期体重に与える影響について　一般演題　ポスター

第32回日本乳癌学会学術総会　（ハイブリッド開催）　7/11-7/13　宮城　仙台国際センター/東北大学百周年記念会館

1. 前田訓子、鍋屋まり、周山理紗、爲佐路子、長島由紀子、飯田通久、武田　茂、山本　滋、永野浩昭　高齢者乳癌に対する周術期薬物療法の検討　ポスターディスカッション
2. 周山理紗、前田訓子、鍋屋まり、爲佐路子、飯田通久、武田　茂、長島由紀子、山本　滋、永野浩昭　山口県における乳がん検診の実態と問題点　ポスターディスカッション
3. 山本　滋、爲佐路子、梶山實香、上原彩知代、鈴木有十夢、松隈　聰、得能和久、長島由紀子、周山理紗、前田訓子、永野浩昭　センチネルリンパ節にマクロ転移を認めた乳房全切除施行患者に対する腋窩郭清省略の短期成績　e-Poster
4. 長島由紀子、周山理紗、前田訓子、山本　滋、永野浩昭　HER2 低発現の手術不能又は再発乳癌に対するトラスツズマブデルクステカンの使用経験　e-Poster

第101回大腸癌研究会学術集会　7/11-7/12　愛知　名古屋コンベンションホール

1. 田中宏典、友近　忍、藤原康弘、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、飯田通久、髙橋秀典、井岡達也、永野浩昭　当科における下部進行直腸癌に対する側方リンパ節郭清の変遷と成績　示説

第60回日本肝癌研究会　7/12-7/13　兵庫　アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）

1. 中島正夫、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、木村祐太、友近　忍、渡邊裕策、西山光郎、飯田通久、井岡達也、永野浩昭　High-risk resectable 大腸癌肝転移に対する術前 FOLFOXIRI 療法の検討　パネルディスカッション
2. Sasaki T, Shen L, Jiang B, Kuwahara T, Satoh T, Ma X, Yan S, Zhao H, Ikeda M, Cui T, Meng Z, Nakai Y, Ueno M, Komatsu Y, Nagano H, Morizane C, Funasaka S, Ikezawa H, Nakada T, Furuse J Phase 2 trial of tasurgratinib（E7090） for patients（pts） with FGFR2 fusion-positive cholangiocarcinoma（CCA）-Encore Presentation　シンポジウム

第79回日本消化器外科学会総会　7/17-7/19　山口　海峡メッセ下関/下関市民会館/下関市生涯学習プラザ

1. 永野浩昭　つどい，つむぐ　総会会長講演
2. 井岡達也　イブニングセミナー2　大腸癌薬物療法の最新戦略 ～大腸癌治療 GL を踏まえて～　座長
3. 髙橋秀典　一般演題202　膵臓:合併症4　座長
4. 井岡達也　腫瘍内科の立場から　特別企画
5. 髙橋秀典　肝胆膵 (膵)　総会会長特別企画
6. 飯田通久　がん患者に対する周術期高齢者機能評価の取り組み　特別企画
7. 渡邊裕策、山本常則、木村祐太、西山光郎、新藤芳太郎、徳光幸生、友近忍、飯田通久、武田茂、永野浩昭　地域外科医を増加させるために，我々の生涯外科教育の取り組み　横断的企画
8. 木村祐太　バズセッション @ JSGS2024 －若手が知りたい外科医の本音 1　働き方改革の中での外科修練の取り組み方（休日の回診体制や緊急手術の対応などの取り組みの実際）　バズセッション
9. 小佐々貴博　バズセッション @ JSGS2024 －若手が知りたい外科医の本音 2　Social media を用いた消化器外科のプロモーションは是か非か　バズセッション
10. 太田啓介　バズセッション @ JSGS2024 －若手が知りたい外科医の本音 3　若手外科医から見た理想の上司と、上司から見た理想の若手外科医　バズセッション
11. 鈴木有十夢　バズセッション @ JSGS2024 －若手が知りたい外科医の本音 3　若手外科医から見た理想の上司と、上司から見た理想の若手外科医　バズセッション
12. 中島千代　バズセッション @ JSGS2024 －若手が知りたい外科医の本音 4　女性消化器外科医のキャリア形成と育児の二刀流の秘訣（資格取得や出産のタイミング、家族の協力、医局の対応とサポート）　バズセッション
13. 飯田通久、武田　茂、中島千代、西山光郎、渡邊裕策、新藤芳太郎、徳光幸生、山本常則、友近　忍、永野浩昭　幽門側胃切除術後残胃癌に対する治療戦略　要望演題
14. 木村祐太、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、中島正夫、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　腹腔鏡下内側区域切除における腫瘍局在に応じたアプローチ　ビデオシンポジウム
15. 新藤芳太郎、徳光幸生、松井洋人、中島正夫、木村祐太、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　局所進行膵癌に対する血管合併切除再建の手術手技と治療成績　一般演題
16. 中島正夫、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、木村祐太、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　Borderline Resectable 大腸癌肝転移に対する術前 FOLFOXIRI 療法の検討　一般演題
17. 武田　茂、飯田通久、渡邊裕策、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、井岡達也、永野浩昭　食道切除術後の再建経路による術後成績の比較　一般演題
18. 西山光郎、武田　茂、渡邊裕策、飯田通久、中島千代、山本常則、徳光幸生、友近　忍、井岡達也、永野浩昭　食道切除後 3 年間における術後体重と摂取熱量の推移について　一般演題
19. 山本常則、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、中島千代、新藤芳太郎、友近　忍、井岡達也、永野浩昭　早期胃癌術後の長期予後因子の検討　一般演題
20. 徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、中島正夫、木村祐太、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭　BR2 多発肝細胞癌に対する外科的切除の意義と治療戦略　一般演題
21. 恒富亮一、木村祐太、中島正夫、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、井岡達也、永野浩昭　Cancer stem-like cells に対する RAB 遺伝子を介したエクソソームの影響　一般演題

22. 松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、中島正夫、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
Frailty に基づ いた切除可能膵癌に対する術前補助化学療法の治療成績　一般演題
23. 田中宏典、友近　忍、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
80 歳以上の高齢者に対する大腸癌手術の治療成績　一般演題
24. 中島千代、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、井岡達也、永野浩昭
女性外科医のワークライフバランスの実現　一般演題
25. 藤本拓也、尤　暁琳、古谷卓三、星井嘉信、永野浩昭　当科における遠隔病理診断体制の構築およびその現状・課題について
一般演題
26. 小佐々貴博、友近　忍、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
75 歳以上の S 状結腸癌・直腸癌に対する腹腔鏡下手術における左結腸動脈温存の意義に関する検討　一般演題
27. 友近　忍、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
当科における下部進行直腸癌に対する側方リンパ節郭清の変遷と成績　一般演題
28. 堤　甲輔、新藤芳太郎、徳光幸生、松井洋人、中島正夫、木村祐太、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
膵頭十二指腸切除後の非アルコール性脂肪性肝疾患発症リスク因子の検討　一般演題
29. 兼定　弦、飯田通久、武田　茂、渡邊裕策、西山光郎、中島千代、山本常則、友近　忍、井岡達也、永野浩昭
胃癌術後の予後に対して術前の Cachexia index が与える影響の検討　一般演題
30. 西田裕紀、新藤芳太郎、徳光幸生、松井洋人、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
CA19-9 低値症例における膵癌術後早期再発予測因子の検討　一般演題
31. 濵﨑太郎、中島正夫、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、木村祐太、飯田通久、友近　忍、井岡達也、永野浩昭
当科におけるロボット支援下肝切除の短期周術期成績の検討　一般演題
32. 矢ヶ部朗、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、中島正夫、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭
IPMC による膵性胸水の一例　研修医セッション

第55回日本膵臓学会大会　7/25-7/26　栃木　ライトキューブ宇都宮

1. 永野浩昭　特別企画4　Postpancreatectomy Acute Pancreatitis（PPAP）の概念と本邦の現況　特別企画　司会
2. 髙橋秀典　ワークショップ4　膵癌における Precision medicine の現状と将来展望　ワークショップ　司会
3. 今岡　大、池田公史、小林　智、大場彬博、上野真行、鈴木裕子、津村英隆、木村七菜、川口真矢、川本泰之、清水　怜、
上野　誠、古瀬純司、永野浩昭　再発性または転移性膵癌に対する 2 次治療におけるS-1 単剤療法と NAPOLI-1 レジメンの
比較　シンポジウム
4. 新藤芳太郎、徳光幸生、松井洋人、中島正夫、木村祐太、井岡達也、永野浩昭　膵癌術後の非アルコール性脂肪性肝疾患発症
リスク因子の検討　一般演題(口演)

第30回日本肝がん分子標的治療研究会　7/26-7/27　東京　JPタワーホール&カンファレンス

1. 市田晃彦、有田淳一、波多野悦朗、江口　晋、齋浦明夫、永野浩昭、進藤潤一、橋本雅司、竹村信行、田浦康二朗、阪本良弘、
髙橋　祐、脊山泰治、佐々木泰治、上村鋼平、國土典宏、長谷川潔　進行肝細胞癌に対する術前レンバチニブ療法の有効性と
安全性を検証する多施設共同第2相試験 （LENS-HCC 試験）　プレナリーセッション

第51回日本膵切研究会　8/30-8/31　奈良　奈良春日野国際フォーラム甍　～I●RA●KA～

1. 永野浩昭　要望演題3　みんなで語ろう忘れ得ぬ症例　要望演題　特別発言

第99回中国四国外科学会総会　第29回中国四国内視鏡外科研究会 9/5-9/6 香川　サンポートホール高松・かがわ国際会議場

1. 永野浩昭　中国四国外科学会・日本肝胆膵外科学会合同　地域教育セミナー （中国・四国地区）肝胆膵高難度手術を学ぶ -
その基本から匠の技まで -　地域教育セミナー　総評
2. 髙橋秀典　シンポジウム3　高度進行癌への挑戦 - 肝胆膵 -　座長
3. 新藤芳太郎　研修医・専攻医セッション2　肝・胆・膵　座長

第60回日本移植学会総会　9/12-9/14　長崎　出島メッセ長崎

1. 永野浩昭　要望演題3　みんなで語ろう忘れ得ぬ症例　要望演題　特別発言

第83回日本癌学会学術総会　9/19-9/21　福岡　マリンメッセ福岡B館

1. 髙橋秀典　発がん・進展機構　Posters　座長
2. 藤原信行、恒富亮一、大浜　剛、木村祐太、中島正夫、永野浩昭　PP6 は大腸がん細胞の幹細胞性を制御する　Posters
3. 山本　晴、モハメド エルバダウィー、恒富亮一、前田訓子、永野浩昭、臼井達哉、佐々木一昭　LMTK3/FADS2 シグナル伝達はヒトの転移性乳がんの進行に関与している　Posters
4. 小佐々貴博、中島正夫、恒富亮一、徳光幸生、松井洋人、新藤芳太郎、玉田耕治、宇高恵子、坂元亨宇、齋藤　彰、飯田通久、髙橋秀典、井岡達也、永野浩昭　新規複合免疫製剤による肝細胞癌の腫瘍免疫原性向上の試み　Posters
5. 藏滿保宏、北川孝雄、久原啓介、田中義篤、山下新之助、徳光幸生、恒富亮一、永野浩昭　肝細胞癌被膜組織のプロテオーム解析　Posters
6. 末廣　寛、井上裕加里、石黒旭代、國宗勇希、山岡祐子、橋本真一、中村克彦、浜辺功一、西岡光昭、松原康朗、堤　武也、四柳　宏、永野浩昭、高見太郎、山﨑隆弘　メチル化 SST をターゲットとした便 DNA テストは大腸進行腺腫の検出に有用である　Posters
7. 恒富亮一、兼定　弦、木村祐太、中島正夫、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、髙橋秀典、井岡達也、永野浩昭　膵がん mFOLFIRINOX 療法における好中球減少症と相関する遺伝子多型　Japanese Oral Session

第60回日本胆道学会学術集会　10/10-10/11　愛知　ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

1. 井岡達也　ランチョンセミナー14　胆道癌治療における個別化治療の最前線　座長
2. 寺島健志、井岡達也　胆道癌に対するゲムシタビン/シスプラチン/ S-1 とゲムシタビン/シスプラチン/免疫チェックポイント阻害薬の第 III 相試験　一般演題（口演）

第62回日本癌治療学会学術集会　10/24-10/26　福岡　マリンメッセ福岡 A 館/福岡国際会議場

1. 永野浩昭　臓器別パネルディスカッション3　進行肝癌に対する集学的治療　座長
2. 髙橋秀典　ポスター49　胆膵（臨床関連）　座長
3. 井岡達也　ペムブロリズマブ + GC 療法を安全に使用するために　学術セミナー
4. 井岡達也、永野浩昭、波多野悦朗　多施設共同研究による胆道癌のエビデンス創出　臓器別ワークショップ
5. 新藤芳太郎、飯田通久、渡邊裕策、中上裕有樹、松井洋人、徳光幸生、友近　忍、前田訓子、髙橋秀典、井岡達也、浅井義之、坂井孝司、松本美志也、永野浩昭　高齢がん患者の外科治療における多職種教育プログラムの開発　がん医療の基盤整備に対する助成プロジェクト（2023年度日本癌治療学会/ファイザー）

JDDW 2024　第32回日本消化器関連学会週間 (ハイブリッド開催)　10/31-11/3　兵庫　神戸コンベンションセンター

1. 永野浩昭　(消化器外科学会・消化器病学会・消化器内視鏡学会・肝臓学会)　肝門部領域胆管癌に対する治療戦略　シンポジウム　特別発言
2. 徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、中島正夫、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、武田　茂、井岡達也、永野浩昭 (消化器外科学会)　教室におけるロボット支援下肝切除の導入と定型化　デジタルポスターセッション（オンデマンド配信）

第50回日本臓器保存生物医学会学術集会　11/8-11/9　愛知　図書館交流プラザりぶら（Libra）

1. 永野浩昭　イブニングセミナー　司会

第86回日本臨床外科学会学術集会 11/21-11/23 栃木 ライトキューブ宇都宮/ホテル東日本宇都宮/ホテルマイステイズ宇都宮

1. 永野浩昭　一般演題（口演）8　膵臓：集学的治療　座長
2. 永野浩昭　学術集会特別企画6-5　働き方改革の導入から新時代の外科へ　医療連携、地域医療の観点から　学術集会　特別企画　司会
3. 太田啓介、飯田通久、原田栄二郎、岡　一斉、吉野茂文、高橋　剛、藤岡顕太郎、秋山紀雄、河岡　徹、重田匡利、平田　健、松本　亮、小野田雅彦、濱野公一、永野浩昭　山口県における消化管低侵襲外科手術の現状と普及への取り組み　一般演題 (口演)
4. 高橋　剛、松井洋人、井岡達也、河岡　徹、前田祥成、為佐卓夫、坂本和彦、西村　拓、井口智浩、徳光幸生、新藤芳太郎、髙橋秀典、濱野公一、永野浩昭　切除可能境界膵癌に対する術前補助化学療法に関する前向き観察研究 （YBP-001）　一般演題(口演)
5. 西田裕紀、前田訓子、中島千代、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、髙橋秀典、井岡達也、永野浩昭　３つのバランスを意識した医師共働き家庭における仕事と育児の両立のための工夫　特別企画

6. 高畠侑也、藤井敏之、北原正博、恒富亮一、永野浩昭、吉田一也、橋谷田博、硲　彰一　増殖性筋膜炎との鑑別診断が困難であった腹部炎症性筋線維芽細胞性腫瘍の 一例　デジタルポスター（ミニオーラル）
7. 松井洋人、髙橋秀典、新藤芳太郎、徳光幸生、中島正夫、木村祐太、渡邊裕策、友近　忍、飯田通久、井岡達也、永野浩昭　胆道癌における biological borderline resectable の検討　パネルディスカッション

第79回日本大腸肛門病学会学術集会　11/29-11/30　神奈川　パシフィコ横浜

1. 田中宏典、友近　忍、藤原康弘、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、渡邊裕策、飯田通久、髙橋秀典、井岡達也、永野浩昭　当科における腹膜播種を伴う大腸癌の手術成績　一般演題(口演)

第37回日本内視鏡外科学会総会　12/5-12/7　福岡　福岡国際会議場/マリンメッセ福岡B館/福岡サンパレス

1. 永野浩昭　パネルディスカッション10　若手外科医による低侵襲肝胆膵手術の実際　司会
2. 飯田通久、渡邊裕策、中島千代、太田啓介、西山光郎、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、友近　忍、髙橋秀典、永野浩昭　当院における十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術　ミニオーラル

地方会司会・発表

第55回Nagasaki Digestive Organ Cancer　Chemotherapy (DOCC) フォーラム　1/5　ZOOM
1.　永野浩昭　膵・胆道癌に対する集学的治療　特別講演

山口県消化器がんリモート講演会　1/11　ZOOM
1.　永野浩昭　特別講演II　座長

膵癌 Expert Meeting in Yamaguchi　1/12　WEB開催
1.　永野浩昭　座長
2.　井岡達也　座長

第7回山口消化管内視鏡外科研究会　1/17　WEB開催
1.　永野浩昭　座長

第12回岡山大学消化器外科フォーラム　1/21　岡山　ホテルグランヴィア岡山
1.　永野浩昭　肝癌外科治療の現状　特別講演

第18回山口県外科感染症研究会　1/24　ZOOM
1.　永野浩昭　座長

第41回山口県食道疾患研究会　2/2　WEB開催
1.　永野浩昭　特別講演　座長

第4回irAE Management WEB Seminar in Yamaguchi　～病病・院内連携の充実を目指して～　2/5　WEB開催
1.　井岡達也　特別講演　座長

第2回LENVIMA-HCC Seminar in山口 ～Conversion を目指した肝細胞癌治療～　2/7　WEB開催
1.　永野浩昭　特別講演Ⅱ　座長

第6回山口食道がん研究会　2/15　ZOOM
1.　永野浩昭　特別講演　座長
2.　武田　茂　一般演題　座長
3.　渡邊裕策　山口食道がん研究会アンケート報告　一般演題

肝胆膵エビデンス Update 2024 Winter　2/17　ZOOM
1.　永野浩昭　Session　Opening　Remarks

Scientific Exchange Meeting 2024　～手術における Borderline Expert Consensus Statement と集学的治療の展望～　2/21　WEB開催
1.　永野浩昭　Discussion Session　新たな Borderline Expert Consensus Statement が切り拓く肝細胞癌治療の未来　司会

第3回Breast Cancer Web Seminar in YAMAGUCHI　2/17　WEB開催
1.　永野浩昭　特別講演　座長

山口大学医学部附属病院　第11回市民公開講座　『全力で挑む難治がんの治療』　3/2　山口　KDDI維新ホール
1.　永野浩昭　開会挨拶
2.　井岡達也　総合司会
3.　新藤芳太郎　膵がんの低侵襲外科手術
4.　松井洋人　胆道がんの集学的治療
5.　西山光郎　チームで乗り越える進行食道がんの治療

第3回三重手術手技研究会　3/5　WEB開催
1.　永野浩昭　膵・胆道癌に対する集学的治療　特別講演

食道癌ランチセミナー　3/6　WEB開催
1.　井岡達也当院における高齢者食道癌治療について　～地域全体で取り組む～　講演

Colorectal Cancer Symposium in Yamaguchi　3/7　WEB開催
1.　井岡達也　特別講演　ディスカッション　総合司会
2.　友近　忍　大腸癌薬物療法クリニカルクエスチョンを考える　～術後補助、 FTD/TPI のマネジメント～　ディスカッション　ディカッサント

第5回山口県消化器外科低侵襲治療研究会　3/8　WEB開催
1.　永野浩昭　特別講演　座長

最新の胆道癌薬物療法を考える会　3/12　ZOOM
1.　井岡達也　胆道癌薬物療法の過去・現在・未来　～ Durvalumab 登場で何が変わったか～　特別講演

食道がん I-O Expert Seminar in 中国　3/14　ZOOM
1.　武田　茂　当科における食道がん周術期治療の現状　講演
2.　武田　茂　食道がんにおける ICI のベストシークエンスを模索する　ディスカッション　パネリスト

山口消化器癌集学的治療研究会 （ハイブリッド開催） 3/14 山口 多世代ふれあいセンター
1. 永野浩昭 特別講演 座長
2. 井岡達也 ディスカッション 司会
3. 友近 忍 ディスカッション ディスカッサント

第23回山口県消化管セミナー 3/15 ZOOM
1. 永野浩昭 特別講演 座長

将来の乳癌治療を考える会 3/22 山口 WEB開催
1. 永野浩昭 講演 座長
2. 前田訓子 エンハーツの臨床試験の解説と当教室における使用経験 講演

がん患者さんの医療連携を考える会 4/10 ZOOM
1. 井岡達也 講演 オープニング司会
2. 前田訓子 乳癌診療に関わるアピアランスケアについて 講演

第13回山口乳癌研究会 4/24 WEB開催
1. 永野浩昭 Session2 司会

山口大腸がんセミナー2024 （ハイブリッド開催） 5/17 山口 シーモールパレス
1. 永野浩昭 講演 Opening remarks, Closing
2. 井岡達也 講演1 座長
3. 髙橋秀典 大腸がん肝転移に対する集学的外科治療 -肝胆膵外科の観点から- 講演

MSD 消化器セミナー 5/18 大阪 アベストグランデ高槻
1. 永野浩昭 肝癌に対する外科治療の現状 講演

TAIHO Web Lecture on Biliary Tract and Pancreatic Cancer 5/21 ZOOM
1. 井岡達也 胆道癌化学療法のエビデンスを読み解く！
2. 髙橋秀典 膵癌に対する治療戦略 -最近の動向と将来展望-

CRC Hybrid Seminar ～大腸癌治療における薬物療法と SDM～ 岡山 倉敷ロイヤルアートホテル
1. 井岡達也 地方にフィットした大腸癌薬物治療の模索 特別講演

がん診療と多職種連携を考える講演会 6/7 山口 都志見病院
1. 井岡達也 山口県における胃癌薬物療法に関する医療連携について ～エンハーツを安全に投与するために～ 講演
2. 髙橋秀典 多職種連携による膵がん診療 -大阪国際がんセンターにおける「膵がん教室」について- 講演

第67回関西胸部外科学会学術集会 6/13-6/14 大阪 ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター
1. 西山光郎、武田 茂、渡邊裕策、飯田通久、中島千代、山本常則、松井洋人、新藤芳太郎、徳光幸生、友近 忍、井岡達也、永野浩昭 通過障害を伴う NAC―DCF 症例の検討について 一般口演

神経内分泌腫瘍放射性核種内用療法セミナー in山陽 6/18 WEB開催
1. 井岡達也 講演I 開会の辞 座長 質疑応答

TAIHO Web Lecture on Biliary Tract Cancer 6/20 WEB開催
1. 井岡達也 胆道癌薬物療法 最新のエビデンス

豊浦地区オンコロジーセミナー （ハイブリッド開催） 6/21 山口 山口県済生会豊浦病院
1. 井岡達也 座長
2. 髙橋秀典 進行膵癌に対する集学的外科治療の現在と未来 -膵癌はどのくらい“治癒”できるか？-

周南地区 胃がん Expert Seminar （ハイブリッド開催） 6/25 山口 徳山中央病院
1. 井岡達也 胃癌薬物療法と irAE マネジメント
2. 髙橋秀典 進行膵癌に対する Conversion surgery -"切除不能膵癌"を切除する-

防府地区 消化器がん連携 Meeting 7/4 （ハイブリッド開催） 山口 山口県立総合医療センター
1. 井岡達也 胃癌薬物療法と irAE マネジメント 講演
2. 髙橋秀典 進行膵癌に対する Conversion surgery -“切除不能膵癌”を切除する- 講演

胆道癌 WEB講演会 7/24 WEB開催
1. 井岡達也 胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？ ～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～ 講演

胆道癌薬物療法セミナー （ハイブリッド開催） 7/30 高知 ザ・クラウンパレス 新阪急高知
1. 井岡達也 胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？ ～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～

肝胆膵エビデンス Update 2024 Summer （ハイブリッド開催） 8/3 山口 山口大学医学部 霜仁会館
1. 永野 浩昭 Session Opening Remarks
2. 井岡達也 Session2 膵癌 司会

胆道癌治療 Forum （ハイブリッド開催） 8/27 岡山 TKPガーデンシティ岡山
1. 井岡達也 胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？ ～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～ 特別講演

Upper GI Seminar （ハイブリッド開催） 8/28 山口 国際ホテル宇部
1. 永野浩昭 講演 座長
2. 井岡達也 当院における高齢者食道癌治療について ～適切な腎機能評価から KEYNOTE590 の可能性を考える～ 講演

第5回山口県がんゲノム医療研究会　8/30　WEB開催
1.　永野浩昭　特別講演　座長

Breast Cancer Web Seminar　9/3　WEB開催
1.　永野浩昭　講演　座長
2.　前田訓子　当教室の TNBC 周術期薬物療法の現状　講演

胆道癌薬物治療フォーラム in湖国　9/5　滋賀　滋賀ダイハツアリーナ
1.　井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～　講演

第23回中国四国食道外科の会　食道再建と吻合法　9/6　香川　高松商工会議所
1.　渡邊裕策　Collard 変法での吻合

KEYTRUDA Expert Forum for Biliary Tract Cancer 2024　in OSAKA　9/7　大阪　ANAクラウンプラザホテル大阪
1.　井岡達也　開会の辞　閉会の辞
2.　井岡達也　講演セッション　座長
3.　井岡達也　パネルディスカッション　座長

山口大学医学部附属病院　第12回市民公開講座　大腸がんと乳がん　9/8　山口　KDDI維新ホール
1.　永野浩昭　開会挨拶
2.　井岡達也　総合司会
3.　友近　忍　大腸がんに挑む：術前補助化学療法と手術の連携
4.　前田訓子　あなたに合った乳がん治療を見つけよう！　～最新治療と個別化医療の最前線～
5.　周山理紗　正しく知ろう　乳がんのこと・検診のこと

胆道癌免疫療法 Webセミナー　9/11　WEB開催
1.　井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～　講演

第21回日本乳癌学会中国四国地方会　9/20-9/21　愛媛　松山市総合コミュニティセンター
1.　前田訓子　教育セミナー　司会
2.　紙谷恵子、前田訓子、周山理紗、伊東美佐江、永野浩昭　乳がんに罹患した女性が行う妊孕性温存の意思決定に対する支援ツールの開発と内容適切性の検討　一般演題

Meet The Expert　～最新の胆道がん診療を考える～　（ハイブリッド開催）　9/26　山口　国際ホテル宇部
1.　永野浩昭　講演　座長

Biliary Tract Cancer Forum in Nagoya　10/5　愛知　TKPガーデンシティ　PREMIUM　名古屋新幹線口
1.　井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 試験をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～　Key Lecture
2.　井岡達也　テーマ：胆道がん薬物治療のクリニカルクエスチョン　Panel Discussion

Biliary tract cancer Seminar　（ハイブリッド開催）　10/17　山口　国際ホテル宇部
1.　永野浩昭　講演　座長
2.　井岡達也　胆道癌治療における irAE マネジメントのコツ　～他癌種での使用経験を交えて～　講演

Biliary Tract Cancer Forum　10/18　WEB開催
1.　井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの　講演

佐賀県消化器癌懇話会　10/18　佐賀　ホテル　マリターレ創世佐賀
1.　髙橋秀典　進行膵癌に対する Conversion 手術　-"切除不能膵癌"を切除する-　session

第15回山口膵・胆道疾患研究会　（ハイブリッド開催）　11/6　山口　国際ホテル宇部
1.　永野浩昭　特別講演　座長

Biliary Tract Cancer Forum　in Hokkaido　11/9　北海道　ニューオータニイン札幌
1.　井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～　Key Lecture
2.　井岡達也　胆道がん薬物治療のクリニカルクエスチョン　Panel Discussion　Panelist

山口発フォーラム　がんと生きる　～こころとからだ　私らしく～　11/10　(WEB開催)
1.　井岡達也　【テーマ】〝患者の選択"〝家族の寄り添い方"　立場の違いから必要な医療と支援を考える　パネリスト

鳥取胆道癌治療講演会　11/14　WEB開催
1.　井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～　講演

広島 山口　BRAF 陽性大腸がんセミナー　11/15　WEB開催
1.　井岡達也　特別演題　座長

第7回山口肝移植診療検討会　11/15　WEB開催
1.　永野浩昭　開会挨拶　座長

山口県薬剤師フォーラム2024　薬剤師プライド　～これからの地域をささえるために～　11/17　山口　山口県総合保健会館
1.　前田訓子　ホルモン陽性転移再発乳がんの薬物療法　ランチョンセミナー　講師

Pfizer Breast Cancer Seminar TOUCH2024 in 山口　～ターゼナカプセル発売記念～ 11/19　WEB開催
1. 永野浩昭　特別講演　座長

山口消化器内科学セミナー　（ハイブリッド開催）　11/21　山口　国際ホテル宇部
1. 井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～　講演

Scientific Exchange Meeting　胆道癌 Scientific Exchange Meeting（ZOOM）　11/29
1. 永野浩昭　Session 1: Special Lecture　ICI 使用後の Conversion therapy を再考する　Session Special Lecture　座長
2. 永野浩昭　Session 2：総合討論　Session　コメンテーター
3. 井岡達也　Session 1: Special Lecture　ICI 使用後の Conversion therapy を再考する　Session Special Lecture　座長
4. 井岡達也　Session 2：総合討論　Session　司会
5. 髙橋秀典　Session 1: Special Lecture　ICI 使用後の Conversion therapy を再考する　Session Special Lecture
6. 髙橋秀典　Session2：総合討論　Session　パネリスト

胆道癌治療 WEB セミナー　12/5　WEB開催
1. 井岡達也　胆道癌治療に KEYNOTE-966 をどう活かすか？　～正しい臨床試験データ解釈から見えるもの～　講演

2024年度　第12回山口県病院薬剤師会学術講演会　12/5　ZOOM
1. 前田訓子　乳がん薬物治療における多職種連携の重要性　～チーム医療でめざす最適な治療戦略～　講演

第45回日本肝臓学会東部会　12/6-12/7　宮城　仙台国際センター
1. 髙橋秀典、徳光幸生、永野浩昭　ロボット支援下肝切除術の導入と定型化　―教室における初期経験について―
   ワークショップ

Scientific Exchange Meeting　-胆道癌診療の新たな展開を考える-　12/14　東京　ベルサール八重洲
1. 永野浩昭　Discussion Part　テーマ『胆道癌領域に残された Clinical Question』　Discussion Part　総合司会
2. 井岡達也　胆道癌の臨床試験を始めるための課題とアプローチ　Lecture Part

消化器がん診療連携 WEBセミナー　12/19　WEB開催
1. 永野浩昭　座長
2. 井岡達也　地域のがん診療はどうあるべきか　～山口モデルのご紹介～

研究費取得状況

(2024年12月31日時点)

種別	事業名	研究者名	代表・分担	交付額	研究課題名
科研費	基盤研究(C)	井岡達也	代表	1,820,000	膵癌に対する個別化医療展開のための至適薬物療法選択に関する研究
科研費	基盤研究(C)	恒富亮一	代表	1,300,000	肝癌における癌幹細胞性獲得と免疫監視逃避における細胞外シグナルの解析
科研費	基盤研究(C)	前田訓子	代表	2,200,000	乳癌患者由来オルガノイドを用いた抗癌剤耐性機構の解明
科研費	基盤研究(C)	新藤芳太郎	代表	1,820,000	腫瘍と宿主の動的平衡状態の解明による膵癌個別化治療の開発
科研費	若手研究	徳光　幸生	代表	1,560,000	個別化診療を見据えた膵癌克服のための癌幹細胞と腫瘍微小環境に関する研究
科研費	若手研究	松井洋人	代表	2,470,000	腫瘍浸潤マクロファージにおけるsiglec-7の機能解明と新規治療法の開
科研費	若手研究	西山光郎	代表	1,950,000	胆道がんゲムシタビン耐性化におけるがん幹細胞性を標的とした治療法開
科研費	若手研究	中島　正夫	代表	1,170,000	膵癌における宿主・腫瘍側両面から着目した新規統合的バイオマーカーの探索
科研費	若手研究	中島　千代	代表	1,690,000	腫瘍血管新生を標的としたProtenase-3の機能解明と新規治療法の開
科研費	若手研究	木村　裕太	代表	1,300,000	肝癌幹細胞様細胞における免疫逃避機序の解明
科研費	若手研究	藤原　康弘	代表	1,690,000	肝細胞癌に対するICI治療限界克服を目指した新規複合免疫療法の開発
共同研究	UBE株式会社	永野　浩昭	代表	3,000,000	消化器がんに対する免疫チェックポイント阻害剤の治療効果を強化する新規複合癌免疫療法の開発
研究助成	武田科学振興財団	中島　正夫	代表	2,000,000	肝細胞癌の腫瘍免疫原性向上を通じた免疫チェックポイント阻害剤治療限界の克服

業績その他

2024　メディア

1. Club Kirara MAGAZINE　VOL．80　2024年1月～2024年3月　山口県がん治療最前線　乳がんについて
   井岡達也
2. 週刊女性　2024年3月5日発行　がん治療がうまくいく人いかない人　井岡達也
3. 宇部日報　2024年3月9日発行　医療現場の“困りごと,,改善へ　山大教授らがニーズ・シーズ発表　徳光幸生
4. Club Kirara MAGAZINE　VOL．81　2024年4月～2024年6月　山口県がん治療最前線　遺伝子パネル
   検査って何でしょう？　井岡達也
5. 中四国医事新報社　2024年5月25日発行　学会長シリーズ　第79回日本消化器外科学会総会
   つどい、つむぐ　永野浩昭
6. Club Kirara MAGAZINE　VOL．82　2024年7月～2024年9月　山口県がん治療最前線　膵がんの治療の進歩
   井岡達也
7. 山口大学医学部＆附属病院から笑顔と情報を発信！　山大医学部病院だより　Vol．266　2024年8月
   山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学講座主催　第79回日本消化器外科学会総会
   「高校生招待企画」開催　総会会長 永野浩昭教授自ら13名の熱き消化器外科教授を山口に招集
   応募高校生84名から39名を招待
8. 朝日新聞　2024年8月30日発行　第79回日本消化器外科学会総会　開催記念特集　消化器外科の現状と展望
   つどい、つむぐ　永野浩昭
9. FOCUS Next　2024年11月　がん集学的治療の推進により均てん化と集約化の両立へ　永野浩昭　井岡達也
   髙橋秀典

①

②

③

④

Club Kirara MAGAZINE FM80.4MHz vol.81

山口大学医学部附属病院 Yamaguchi University Hospital

遺伝子パネル検査って何でしょう？

山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也

Club Kirara MAGAZINE FM80.4MHz vol.82

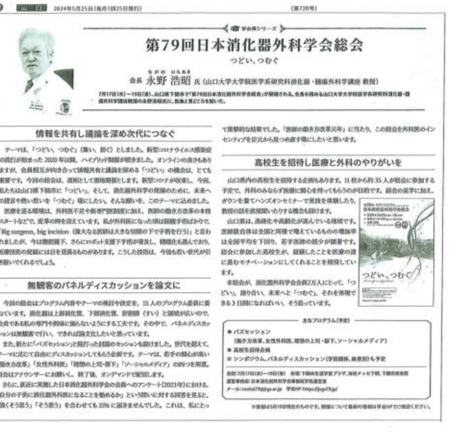
神と呼ばれた男 渡邉祐策 翁

山口大学医学部附属病院 Yamaguchi University Hospital

膵がんの治療の進歩

山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也

⑤


第79回日本消化器外科学会総会

つどい、つむぐ

会長 永野 浩昭 氏（山口大学大学院医学系研究科消化器・腫瘍外科学講座 教授）

情報を共有し議論を深め次代につなぐ

高校生を招待し医療と外科のやりがいを

無観客のパネルディスカッションを論文に

⑦

山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学講座 主催

第79回 日本消化器外科学会総会「高校生招待企画」開催

総会会長 永野浩昭教授自ら

13名の熱き消化器外科教授を山口に招集

応募高校生84名から39名を招待

令和6年7月19日(金)

⑧

広告特集

第79回日本消化器外科学会総会 開催記念特集

消化器外科の現状と展望

つどい、つむぐ Meet up and gather!

第79回日本消化器外科学会総会 つどい、つむぐ Meet up and gather!

⑨

FOCUS Next

がん集学的治療の推進により均てん化と集約化の両立へ

永野 浩昭 先生 山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学 教授（左）

井岡 達也 先生 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 副センター長・准教授（中）

高橋 秀典 先生 山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学 准教授（右）

（山口県宇部市）

山口県は東西に長く人口の多い市が点在するため、がん診療の「均てん化」と「集約化」が難しいといわれています。県内唯一の特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院である山口大学医学部附属病院では、消化器・腫瘍外科学教授の永野浩昭先生を中心に、消化器がん診療の標準化を徹底し、地域医療のレベルアップに果敢に取り組んでいます。

外科診療と腫瘍内科との連携によるがん医療の質向上への取り組み

永野 浩昭 先生 山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学 教授

地域の実情に合わせたがん診療の均てん化と集約化

山口県で東京と同じがん診療を目標に

山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学講座は、消化器外科と乳腺・内分泌外科の2つの診療グループに大別され、消化器外科はさらに上部消化管、下部消化管、肝胆膵に分かれます。永野浩昭先生は山口大学医学部附属病院（以下、大学病院）の腫瘍センター長も務め、外科診療と腫瘍内科の強い連携体制がつくられています。

同講座で最も重視しているのは、個別診療は行わず、グループ診療を行うことです。消化器外科のカンファレンスには永野先生と、腫瘍内科医で腫瘍センター副センター長の井岡達也先生が出席し、全ての患者さんの治療方針を決定しています。「それらの患者さんの治療方針を診療グループの全員で共有し、山口県で東京と同じがん診療を受けられることを目標にしています」と永野先生は語ります。

拠点病院のレベルを引き上げる

2023年に策定された「第4期がん対策推進基本計画」において、医療提供体制の均てん化に加え、拠点病院などの役割分担と連携による集約化の推進が盛り込まれました。山口県の人口は約130万人。「県庁所在地に人口が集まっている県は集約化がしやすいですが、山口県は8医療圏に人口が分散しています。しかも、大学病院のある宇部・小野田医療圏が担当する人口は比較的少ないため、非常に集約化がしにくいのです」と言う永野先生。

医療機能の集約化で拠点病院のレベルが上がれば、均てん化をめざす一般病院のレベルも上がります。具体的には、都道府県がん診療連携拠点病院である大学病院や地域がん診療連携拠点病院の診療レベルが、「例えば国立がん研究センター中央病院と同じになれるかどうかが、県の医療に関わってくるわけです」と永野先生。そのためには適切な人材配置と生涯教育が重要であるといいます。

研修医から専攻医、専門医になっていく中で、「シームレスとシークエンシャルの両方の要素を持った継続的な教育をしないと、人材は育たないと考えています」と力を込めます。同講座では、医学生の解剖実習で外科医による縫合などの外科手技を見ることができる早期外科体験実習や、獣医学部との協働で動物を使った内視鏡手術などの外科技術体験実習、カダバーを用いた外科解剖実習なども行っています。

Clinical and research conference

2024.2.24 - winter

時間		全体進行係： 飯田通久　先生
7:30-7:33	1. 教授挨拶	永野浩昭　教授
7:33-8:21	2. 各診療グループ報告	司会： 飯田通久　先生
	上部消化管グループ	武田　茂　先生
	下部消化管グループ	友近　忍　先生
	肝胆膵グループ	徳光幸生　先生
	乳腺・内分泌グループ	前田訓子　先生
	腫瘍センター	井岡達也　先生
	研究グループ	恒富亮一　先生
8:21-15:24	3. Clinical and Research Conference	午前司会：　武田　茂　先生 午後司会：　前田訓子　先生
	兼定弦	Immune evasion in cancer stem-like cells derived from hepatoma cell line. Prediction of adverse events of triplet chemotherapy using gene polymorphisms.
	西田裕紀	Search for biomarker predincting early recurrence after resection for the PDAC patients with NAC Elucidating the relationship between PRTN3 and angiogenesis
	小佐々貴博	Elucidating Mechanisms for Enhancing Tumor Immunogenicity to Overcome Therapeutic Limitations of Immune Checkpoint Inhibitors for HCC Novel Combination Immune drug to reduce therapeutic dosage of anti-PD-1 blockade
	太田啓介	Novel therapeutic strategies for glioblastoma using CAR-T cells expressing IL-7 and CCL19
	鄭 桓宇	Examination of the role of phosphorylation of Paxillin in cancer metastatic ability
	山本常則（公聴会予行）	A Novel prediction method for infectious complications after gastrectomy
	中島千代	Comparison of Linear Stapler and Circular Stapler in anastomosis of gastric cancer
	藤原康弘	Preliminary analysis of neoadjuvant FOLFOXIRI for Locally advanced rectal cancer
	木村祐太	The influence of prolonged hepatic inflow occlusion on postoperative liver function in laparoscopic liver resection
	近藤潤也（公聴会予行）	The effect of prolonged fixation on the immunohistochemical evaluation and fluorescence in situ hybridization results of HER2 expression in advanced gastric cancer
	中島正夫	Neoadjuvant FOLFOXIRI for patients with high-risk resectable colorectal liver metastases
	田中宏典	Outcomes after Surgery for Peritoneal Metastasis from Colorectal Cancer
	西山光郎	Usefulness of prophylactic minitracheostomy and broad spectrum antibiotic after esophagectomy
	松井洋人	Outcome of resected cases of pancreatic ductal adenocarcinoma patients with unexpected postoperative uncovering non-curative factors: A multicenter retrospective study
	新藤芳太郎	Neoadjuvant modified FOLFIRINOX in elderly patients with pancreatic cancer
	徳光幸生	Novel laparoscopic approaches as the total biopsy methods for suspected gallbladder cancer
	渡邊裕策	Low skeletal muscle index is a predictor of postoperative pneumonia
	友近　忍	Pilot Study of neoadjuvant FOLFOXIRI for Locally advanced lower rectal cancer
	前田訓子	Preoperative diagnosis of SLN metastasis using CT-lymphography
	飯田通久	Incidence and risk factors of CBD stone after gastrectomy
	武田 茂	Efficacy of nutrition intervention combined neoadjuvant chemotherapy for Esophageal Cancer
	濱崎 太郎	Future plan
	堤 甲輔	Future plan
15:24-16:14	4. 宿題報告	
	渡邊裕策	食道癌　手術・再発　治療方針(案)
	中島千代	胃癌　手術・再発　治療方針(案)
	田中宏典	転移性大腸癌治療方針UPDATE(案)
	徳光幸生	肝細胞癌　R、BR1、BR2　治療方針(案)
	新藤芳太郎	膵癌術前化学療法治療方針(案)
16:14-16:29	4. 総括	永野浩昭　教授

研究者発表会議

2024.7.27 - summer

時間		全体進行係： 飯田通久　先生
8:30~8:33	1. 開会の言葉	永野浩昭　教授
8:33~15:03	3. 研究者発表会議	司会：高橋秀典先生(前半)、飯田通久先生(後半)
	堤 甲輔	Effects of exosomes on the cancer stem-like cell phenotype, such as anti-cancer drug resistance, and identification of exosomal microRNAs responsible for the phenotype. Elucidating the function of Siglec-7 as an inhibitory immune molecule in the liver metastasis of GI cancer.
	濵崎 太郎	The efficacy of CAR-T cells in liver cancer models
	尤　暁琳	Identification of immunogenicity mention peptides for personalized medicine
	兼定 弦	Immune evasion in cancer stem-like cells derived from hepatoma cell line. Prediction of adverse events of triplet chemotherapy using gene polymorphisms.
	西田 裕紀	Elucidating the relationship between PRTN3 and angiogenesis
	小佐々 貴博	Elucidating Mechanisms for Enhancing Tumor Immunogenicity to Overcome Therapeutic Limitations of Immune Checkpoint Inhibitors for HCC
	鍋屋 まり	Elucidate the impact of neoadjuvant chemotherapy on both systemic and local immunity of pancreatic ductal adenocarcinoma
	太田 啓介	Novel therapeutic strategies for glioblastoma using CAR-T cells expressing IL-7 and CCL19
	中島千代	Comparison of Linear Stapler and Circular Stapler in anastomosis of gastric cancer
	藤原康弘	Preliminary analysis of neoadjuvant FOLFOXIRI for Locally advanced rectal cancer
	木村祐太	The influence of prolonged hepatic inflow occlusion on postoperative liver function in laparoscopic liver resection
	中島正夫	Neoadjuvant FOLFOXIRI for patients with high-risk resectable colorectal liver metastases
	田中宏典	Outcomes after Surgery for Peritoneal Metastasis from Colorectal Cancer
	西山光郎	Usefulness of prophylactic minitracheostomy and broad spectrum antibiotic after esophagectomy. Severe weight loss after esophagectomy has become apparent very early phase after surgery.
	飯田通久	Phase II study of reduced-dose Nab-PTX + RAM as 2nd line chemotherapy for gastric cancer
	徳久晃弘	Exosomal miR-141-3p Induces Gemcitabine Resistance in Biliary Tract Cancer Cells
	古谷　圭	High serum proteinase-3 levels predict poor progression-free survival and lower efficacy of bevacizumab in metastatic colorectal cancer
	松井洋人	Outcome of resected cases of pancreatic ductal adenocarcinoma patients with unexpected postoperative uncovering non-curative factors: A multicenter retrospective study
	新藤芳太郎	Safety and Feasibility of Neoadjuvant Modified FOLFIRINOX in Elderly Patients with Pancreatic Cancer
	徳光幸生	Novel laparoscopic approaches as the total biopsy methods for suspected gallbladder cancer
	渡邊裕策	Our outcomes of adjuvant therapy with immune checkpoint inhibitors after neoadjuvant chemotherapy plus esophagectomy
	友近　忍	Assessment of CT Enterography's Precision in Preoperative Lesion Detection among Crohn's Disease Patients.
	前田訓子	Preoperative diagnosis of SLN metastasis using CT-lymphography
	高橋秀典	Pathological Nodal and Vascular Involvement Significantly Impacts the Recurrence Risk in Different Time Frames in Patients With Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Cancer: Long-term Conditional Recurrence-free Survival Analysis in the Setting of a Neoadjuvant Treatment Strategy
	酒井豊吾	Future Plan
	佐藤哲也	Future Plan
	原口大希	Future Plan
15:03-15:33	4. 総括	永野浩昭　教授

学位取得者報告

徳久晃弘　平成25年卒

令和6年9月に学位と取得させて頂きました徳久晃弘です。
私は胆道癌細胞におけるゲムシタビン耐性のメカニズムについての研究を行いました。具体的には胆道癌のゲムシタビン耐性株を用いて実験を行い、耐性株由来のエクソソームがゲムシタビン耐性に関与していることをまず見出しました。さらにエクソソーム内のmiR-141-3pがゲムシタビン耐性の誘導に関与していることを明らかにしました。幸いなことに他癌腫や類似テーマを現在の大学院生にも引き継いで頂いており、今後さらにこの分野における研究が発展する一助となれば幸いです。
大学院の研究活動を通じて、上手く行かないことがほとんどである中で、信じて粘り強く粛々と実験を行うことが大事であるということを痛感いたしました。研究の機会を与えて頂き、ご指導して頂いた永野教授、実験の基本手技、考え方、論文作成などすべての過程において温かく丁寧にご指導して頂きました恒富先生、実験のアドバイスを頂いた中島正夫先生、木村先生に心より感謝申し上げます。また研究を行う上でサポートをして頂いた兼安さん、岡村さん、藤田さんをはじめ研究助手の皆様にも感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

古谷　圭　平成25年卒

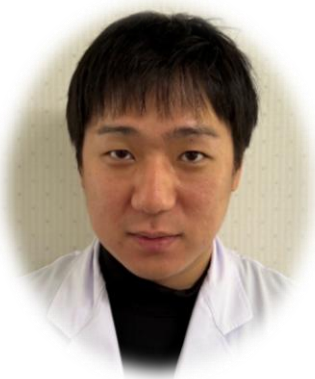
令和6年9月に学位を取得させていただきました古谷圭です。
私のテーマは大腸癌の予後予測マーカーの探索研究です。教室では過去に血清LOX-1やCCL7が大腸癌の予後予測マーカーとなりうることを報告してきました。今回、私は転移性大腸癌の予後予測バイオマーカーとしての血清Proteinase-3 (PRTN3)に着目しました。血清PRTN3高値の患者が1次化学療法の効果が乏しいこと、特にPRTN3が血管新生に関与するたんぱく質であることから、血管新生阻害剤であるベバシズマブの効果と関連があることを報告しました。ベバシズマブは臓器横断的に標準治療としてよく使用される分子標的薬の一つであるため、本研究が大腸癌治療さらに他癌種の治療の一助となれば幸いです。
思い通りに進まない実験もありましたが、実験データと既報から仮説をたてて、次の実験を計画し、仮説と矛盾しない結果が得られたときに研究の楽しさを実感しました。本テーマを与えて頂きご指導いただきました永野教授、裕先生、恒富先生、仮説、実験計画、結果の解釈、さらなる仮説...とご多忙の中、夜遅くまで１から研究についてご指導いただきました中島正夫先生に深謝申し上げます。そして技術的支援をいただいた技術補佐員の皆様、ベッドフリーの研究に集中できる環境を調整いただきました教室の先生方にも感謝申し上げます。 本当にありがとうございました。

新入局者あいさつ

岩藤　真生　令和4年卒

令和6年度に入局した岩藤真生です。令和4年に山口大学を卒業し、徳山中央病院で２年間の初期臨床研修を修了いたしました。令和６年４月から、宇部中央病院で１年間勤務し、手術や術後管理をはじめとして、救急対応など、外科医としての基本を学ばせていただきました。令和７年４月からは関門医療センターで勤務させていただいております。新しいことを学ぶばかりの忙しい日々ですが、指導医の先生方から少しでも多くのことを学ぶことができるよう、日々勉強を続けたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

西尾　侑祐　令和4年卒

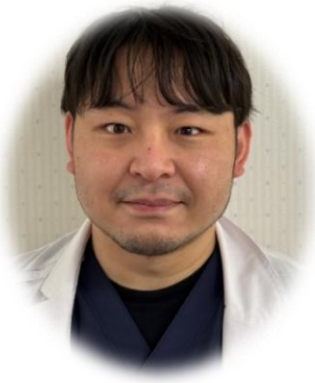


令和6年度に入局いたしました、西尾侑祐と申します。
徳山中央病院で2年間の初期研修を行ったのち、入局1年目は萩市の都志見病院で勤務いたしました。都志見病院では、上司の先生方より温かいご指導を賜り、外科医としての第一歩を踏み出すにあたり、貴重な経験を数多くさせていただきました。この場を借りて心より御礼申し上げます。
現在は入局2年目として、初期研修を受けた徳山中央病院に戻り、日々修練を積んでおります。研修医として多くを学ばせていただいたこの場所で、今度は一人の外科医として少しでもお役に立てるよう努めてまいります。まだまだ力不足ではありますが、少しでも恩返しができるよう精一杯努力していく所存です。
今年度は、腹腔鏡技術のさらなる習得と、手術精度の向上を目指して取り組んでおります。一つ一つの手技に意図を持ち、自らの判断に説明責任を持てる外科医となれるよう、研鑽を続けてまいります。未熟者ではございますが、患者さんが安心して笑顔でご自宅に帰れるよう、日々真摯に臨床に向き合っております。
今後とも、先生方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

濵永　友花里　令和4年卒

令和６年度に入局しました濵永友花里と申します。山口大学を卒業し、下関医療センターで２年間の初期研修を行いました。入局１年目は徳山中央病院で１年間勤務させていただき、外科症例を中心にたくさんの事を経験しながら学ばせていただきました。入局2年目の今年度は都志見病院で勤務させていただき、昨年度とは打って変わって地域医療を学ばせていただいております。新しい事に挑戦したり、上手くできず悔しい思いをしたり、対応に悩み先生方のお力をお借りしたりと、修行の日々を送っておりますが、その中でも少しずつできる事が増えていく事に楽しさを感じながら診療にあたっております。ご迷惑をおかけしてばかりかとは思いますが、七転び八起き精神で精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

矢ヶ部 朗　令和3年卒



令和6年度に入局いたしました、矢ヶ部 朗と申します。
初期臨床研修は1年目を徳山中央病院で、2年目を山口大学医学部附属病院で行い、幅広い診療経験を通して多くの学びを得ることができました。研修修了後の入局1年目は萩市民病院に勤務し、田中先生の温かいご指導のもと、外科医としての第一歩を踏み出すことができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。現在は入局2年目として、徳山中央病院に勤務しております。研修医時代に培った経験を土台に、今度は一人の外科医としてより実践的な診療に携わり、日々の業務に真摯に向き合っております。本年度は、手術手技の向上に加えて、周術期管理や術後合併症への対応力の強化を目標に掲げております。一つひとつの症例に真剣に向き合い、判断力と実行力を高めることで、安全で質の高い医療を提供できる外科医を目指してまいります。未熟者ではございますが、誠実に診療にあたってまいります。今後とも先生方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

在籍教室員

(2024年12月31日時点)

教授・診療科長

氏名：永野浩昭（岡山大学医学部　昭和61年卒）
専門：消化器外科、肝胆膵外科、移植外科

准教授（腫瘍センター）

氏名：井岡達也（日本大学医学部　平成2年卒）
専門：化学療法、集学的治療

准教授・副科長

氏名：髙橋秀典（大阪大学医学部　平成8年卒）
専門：肝胆膵外科、移植外科

診療准教授・病棟医長

氏名：飯田通久（山口大学医学部　平成11年卒）
専門：上部消化管外科、胃外科

講師

氏名：恒富亮一（山口大学農学部　平成16年卒）
専門：癌の分子生物学

助教・医局長

氏名：友近　忍（山口大学医学部　平成13年卒）
専門：下部消化管外科

助教・外来医長

氏名：前田訓子（島根大学医学部　平成12年卒）
専門：乳腺・内分泌外科

助教（手術部）

氏名：西山光郎（長崎大学医学部　平成19年卒）
専門：上部消化管外科、食道外科

助教

氏名：渡邊裕策（山口大学医学部　平成15年卒）
専門：上部消化管外科、食道外科

助教

氏名：徳光幸生（宮崎医科大学医学部　平成16年卒）
専門：肝胆膵外科

助教

氏名：新藤芳太郎（山口大学医学部　平成16年卒）
専門：肝胆膵外科

助教

氏名：松井洋人（山口大学医学部　平成17年卒）
専門：肝胆膵外科

助教

氏名：周山　理紗（筑波大学医学部　平成22年卒）

助教（集中治療部）

氏名：堤　甲輔（山口大学医学部　平成年卒）

診療助教

氏名：田中宏典（山口大学医学部　平成20年卒）
専門：下部消化管外科

診療助教

氏名：中島正夫（山口大学医学部　平成21年卒）
専門：肝胆膵外科

診療助教

氏名：中島千代（山口大学医学部　平成22年卒）
専門：上部消化管外科、胃外科

診療助教

氏名：藤原康弘（山口大学医学部　平成22年卒）
専門：下部消化管外科

診療助教

氏名：木村祐太（鹿児島大学医学部　平成22年卒）
専門：肝胆膵外科

診療助教

氏名：太田啓介（山口大学医学部　平成25年卒）
専門：上部消化管外科

診療助教

氏名：酒井豊吾（山口大学医学部　平成30年卒）

診療助教

氏名：佐藤哲也（山口大学医学部　令和1年卒）

診療助教

氏名：原口大希（山口大学医学部　令和1年卒）

診療助教

氏名：木原ひまわり（山口大学医学部　令和1年卒）

大学院生

氏名：鍋屋まり（山口大学医学部　平成26年卒）

大学院生

氏名：小佐々　貴博（山口大学医学部　平成27年卒）

大学院生

氏名：兼定　弦（山口大学医学部　平成27年卒）

大学院生

氏名：西田裕紀（山口大学医学部　平成28年卒）

大学院生

氏名：堤　甲輔（山口大学医学部　平成29年卒）

大学院生

氏名：濵崎太郎（山口大学医学部　平成27年卒）

学会専門医、指導医リスト

(2024年12月31日時点)

日本外科学会

専門医：

前田訓子、友近　忍、松井洋人、西山光郎、中島正夫、中島千代、木村祐太、藤原康弘、周山理紗、太田啓介
小佐々　貴博、兼定　弦、西田　裕紀、鍋屋まり、濱崎太郎、堤　甲輔、酒井豊悟

専門医・指導医：

永野浩昭、高橋秀典、飯田通久、渡邊裕策、徳光幸生、新藤芳太郎

日本消化器外科学会

専門医：

友近　忍、藤原康弘、小佐々　貴博、兼定　弦、西田　裕紀、太田啓介、木村祐太

専門医・指導医：

永野浩昭、高橋秀典、飯田通久、渡邊裕策、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人、西山光郎、中島正夫、中島千代

日本消化器病学会

専門医：

兼定　弦

専門医・指導医：

永野浩昭、井岡達也、高橋秀典

日本内視鏡外科学会

技術認定医：

渡邊裕策（食道）、友近　忍（大腸）、飯田通久 (胃)、中島千代（胃）、徳光幸生 (肝臓)、中島正夫（肝臓）

ロボット支援手術プロクター：

高橋秀典（膵体尾部切除）、飯田通久（胃）、徳光幸生（肝部分切除）、新藤芳太郎（膵体尾部切除）

日本癌治療学会

臨床試験登録医：

永野浩昭

日本食道学会

食道科認定医、食道外科専門医：

渡邊裕策、西山光郎

日本肝胆膵外科学会

高度技能専門医：

新藤芳太郎、徳光幸生

高度技能指導医：

永野浩昭、高橋秀典

日本胆道学会

指導医：

永野浩昭、井岡達也、徳光幸生

日本膵臓学会

指導医：

永野浩昭、井岡達也、高橋秀典

日本腹部救急医学会

腹部救急認定医：

徳光幸生、西田裕紀

日本外科感染症学会

Infection Control Doctor、外科周術期感染管理認定医：

西山光郎

日本臨床腫瘍学会

がん薬物療法専門医・指導医・協議員：

井岡達也

がん薬物療法専門医：

松井洋人

日本がん治療認定医機構

認定医：

永野浩昭、井岡達也、高橋秀典、前田訓子、渡邊裕策、徳光幸生、西山光郎、中島千代、木村裕太

日本乳癌学会

認定医・専門医・指導医：

前田訓子、周山理紗

日本消化器内視鏡学会

消化器内視鏡専門医・指導医：

井岡達也

日本消化器がん検診学会

指導医：

井岡達也

学会役員リスト

(2024年12月31日時点)

日本外科学会

代議員：

永野浩昭、前田訓子

日本消化器外科学会

監事・評議員：

永野浩昭

評議員：

高橋秀典

日本消化器病学会

執行評議員：

永野浩昭

学会評議員：

井岡達也

日本臨床外科学会

評議員：

永野浩昭

日本内視鏡外科学会

評議員：

永野浩昭、飯田通久、徳光幸生、新藤芳太郎

日本乳癌学会

評議員：

前田訓子

日本腹部救急医学会

評議員：

永野浩昭、徳光幸生

日本消化器がん検診学会

代議員：

井岡達也

日本腫瘍循環器学会

評議員：

井岡達也

日本癌治療学会

代議員：

永野浩昭、井岡達也、高橋秀典

日本癌学会

評議員：

永野浩昭、高橋秀典、恒富亮一

日本胃癌学会

代議員：

永野浩昭、飯田通久

日本食道学会

評議員：

永野浩昭、渡邊裕策

日本肝胆膵外科学会

理事・評議員：

永野浩昭

評議員：

高橋秀典、徳光幸生、新藤芳太郎、松井洋人
中島正夫、木村祐太

日本肝臓学会

評議員：

永野浩昭

日本胆道学会

評議員：

井岡達也

日本膵臓学会

評議員：

井岡達也、高橋秀典

日本臨床腫瘍学会

協議員：

井岡達也

2024年　年間行事

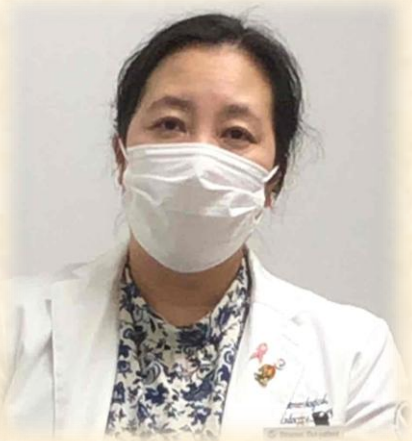
佐波川の鯉のぼり（防府市)

1月　互礼会

永野浩昭教授から新年のご訓示後に、各班のチーフの先生よりご挨拶いただきました。

武田　茂　先生
（上部消化管）

友近忍 先生
（下部消化管）

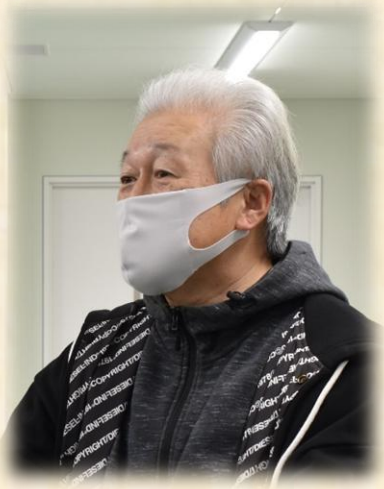


前田訓子 先生
（乳腺・内分泌）

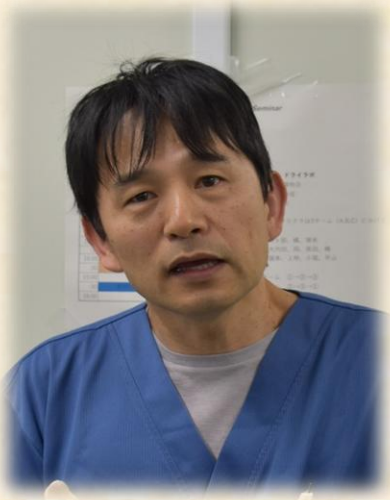
井岡達也 先生
（化学療法）

恒富亮一 先生
（研究）

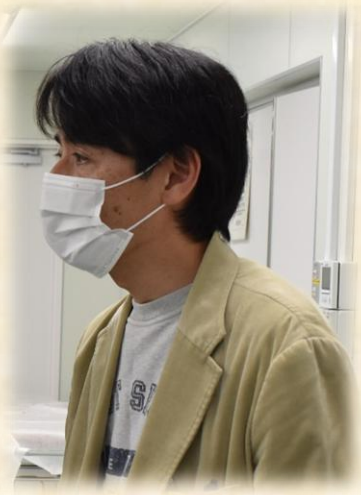
1月　第3回 Surgical Training Seminar



永野教授



谷先生
(獣医学部)



渡邊先生

サポートを受けつつも研修医・学生が主体となって手術を行いました

参加者にとって非常に有意義な実習になりました。お疲れ様でした。

2月　Clinical & Research conference

新年、新たな気持ちで今年の目標・抱負を表明。

各々から臨床報告、研究発表を行いました。

永野教授の総括

3月　第4回 Clinical Cadaver Surgical Training

永野教授

升本先生
（神経解剖学講座）

渡邊先生

徳光先生による指導

上部消化管の解剖確認

医師・学生ともに有意義な実習になりました。お疲れ様でした。

3月 送別会

矢々部先生⇒萩市民病院

山本先生⇒関門医療センター

武田先生⇒小郡第一病院

新天地でのご活躍とご健勝を祈念いたします。

4月 新体制発足

大阪大学消化器外科学より
髙橋先生が赴任

関門医療センターより
酒井先生が赴任

下関医療センターより
佐藤先生が赴任

徳山中央病院より
原口先生が赴任

新年度の永野教授のご挨拶

4月 早期外科実習

医学部2年生の必修カリキュラムとして結紮、縫合など早期外科実習を行いました。

将来一人でも多くの外科医が増えることを願っています。

5月 青山会総会

大勢の先生方にお集まり頂きました。

木村先生が青山会賞を受賞されました。

勉強会では活発な討論がなされました。

多数のご参加大変有難うございました！

6月 医局説明会

研修医、学生に向けて医局説明会を行いました。

原口先生、木原先生による医局説明が行われました。

山口の外科の未来を若い力で支えて行ってくれることを期待しています。

7月　研究者発表会議 & 消化器外科学会総会打ち上げ

永野教授のご挨拶

上半期の臨床・研究の成果報告

発表会議も終わり、みなさん盛り上がっていました。

12月 忘年会

永野教授の挨拶

井岡先生の挨拶

病棟スタッフも参加し、大変盛り上がりました。

皆さま、1年間本当にお疲れ様でした。

ゲスト写真集

中村　将人 先生（相澤病院）
加藤　健 先生（国立がん研究センター）

尾坂　将人 先生（がん研有明病院）
大場　彬博 先生（国立がん研究センター）

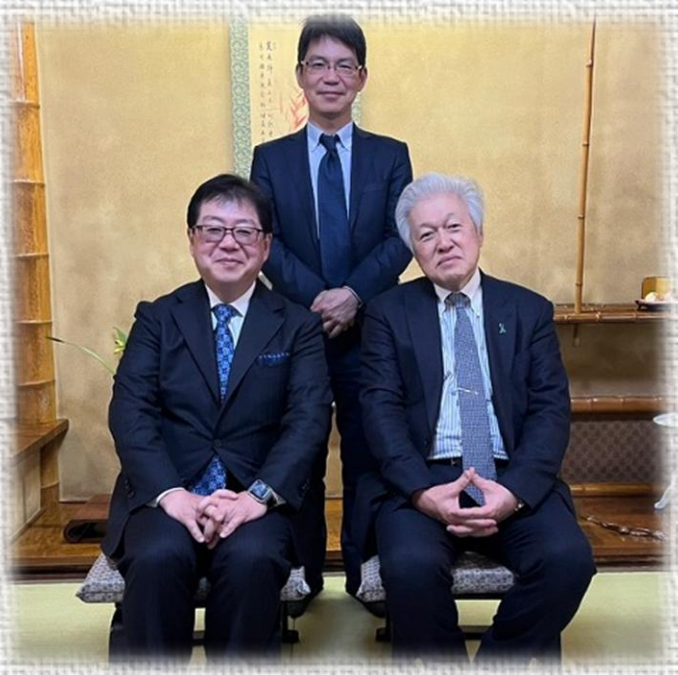
塩崎　敦 先生（京都府立医科大学　教授）
渡邊　純 先生　(関西医科大学　教授)

吉住　朋晴 先生（九州大学　教授）

中尾　篤典 先生（岡山大学　教授）

押切　太郎 先生 (愛媛大学　教授)

平　成人 先生 (川崎医科大学　教授)



内藤　剛 先生（北里大学　教授）

渡邊　純 先生　(関西医科大学　教授)

惠美　純子 先生（安佐市民病院）

小泉　圭 先生 (浜松医科大学)

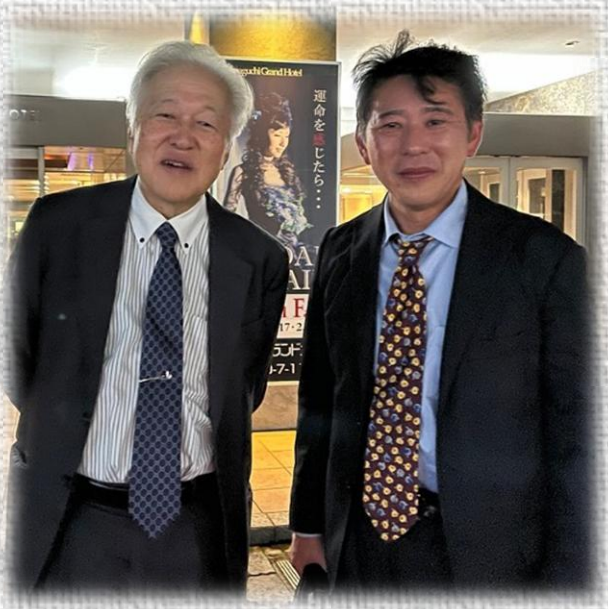
五井　孝憲 先生 (福井大学　教授)

神田　光郎 先生 (名古屋大学　教授)

増田　慎三 先生(京都大学　教授)

山下　年成 先生 (神奈川県立がんセンター)

平野　聡 先生（北海道大学　教授）



大段　秀樹 先生（広島大学　教授）

KHBO合宿@湯田温泉

編集後記

2024年は、医療を取り巻く環境が大きな変化と試練に満ちた一年であった。年初の能登半島地震や羽田空港での航空機事故などを通じて、医療現場における即応力と社会的責任が改めて問われる年でもあった。一方、教室における最大のイベントは、7月に主催した第79回日本消化器外科学会総会であった。下関の地に全国から多くの医療関係者を迎え、「つどい，つむぐ」をテーマに、臨床・研究・教育に関する活発な議論が交わされたことは、つい昨日のことのように思われる。私が担当させて頂いていた全員懇親会も思い出深い。会場はこちらの予想をはるかに超える超満員となり、用意していた山口県の日本酒もあっという間になくなってしまい皆様に行き届かなかったことが悔やまれて仕方がない。一方、懇親会を盛り上げるべく出演して頂いたアイドル、STU48の皆さんのパフォーマンスにはとても感謝している。懇親会会場のステージでは照明設備が使用できないという制約があったにも関わらず、見事に観客を釘付けにしていた。どのようなステージでも輝けるSTU48のプロの仕事を目の当たりにして、自分もどのような環境にあっても良い仕事が出来る外科医でありたいと強く感じた次第である。ともあれ、総会の成功はご参加頂いた皆様方によるものであり、この場を借りて深く感謝を申し上げたい。

消化器外科学会総会という一大イベントも終わり、あっという間に2025年も4カ月経過した。我が国の経済は相変わらず円安や国際情勢、エネルギー価格の高騰などを背景に物価上昇が続き、医療機関においても診療材料費・水道光熱費・人件費などの運営コストが急激に増加している。診療報酬改定による増収はわずかで、補助金の削減も重なり、多くの病院が医業赤字や経常赤字に陥る厳しい状況に直面している。このような困難な環境下において、どのように安全かつ確実な医療の提供を行いつつ、若手医師の育成および基礎・臨床研究への取り組みを継続していくかが、特に医師不足が深刻な地方にとっては喫緊の課題である。本年報が、教室の一年の歩みを振り返るとともに、今後の研鑽の一助となることを願う。最後に、教室を支えてくださっているすべての皆様に心より感謝申し上げます。

令和7年5月
徳光　幸生

防府天満宮（防府市）

山口大学大学院医学系研究科
消化器・腫瘍外科学　教室年報：2024
令和7年5月発行

発行　山口大学大学院医学系研究科　消化器・腫瘍外科学

編集責任者　徳光幸生
編集委員　　中島正夫　西田裕紀　堤　甲輔　鈴木有十夢

TEL：0836-22-2264
FAX：0836-22-2263
ホームページ：https://www.yamadai-gesurgery.jp/